

Passo a passo.

令和 3 年度 専修大学 資格課程年報『パッソ ア パッソ』

教 職 課 程

司 書 課 程

司書教諭課程

学校司書課程

学 芸 員 課 程

専修大学21世紀ビジョン 「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」

社会知性 (Socio-Intelligence)

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、
地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力
専修大学が創り育てる“知”

2020年9月16日、創立140周年

専修大学は、米国から帰国した4人の若者により、1880年(明治13年)に創立されました。日本で初めて、日本語で経済学と法律学を共に学べる高等教育機関「専修学校」の誕生でした。

以来、本学は創立者たちの建学時の精神を脈々と継承し、わが国の高等専門教育の確固たる歴史を築いてきました。

2020年に専修大学創立140周年を迎えた今、めざすは21世紀ビジョンとして掲げる「社会知性の開発」です。18歳人口が減少し、グローバル化やAIの台頭など社会構造が変化するなか、よりしなやかで力強い、社会で活躍できる多様な人材を輩出するため、さまざまな取組みを進めています。



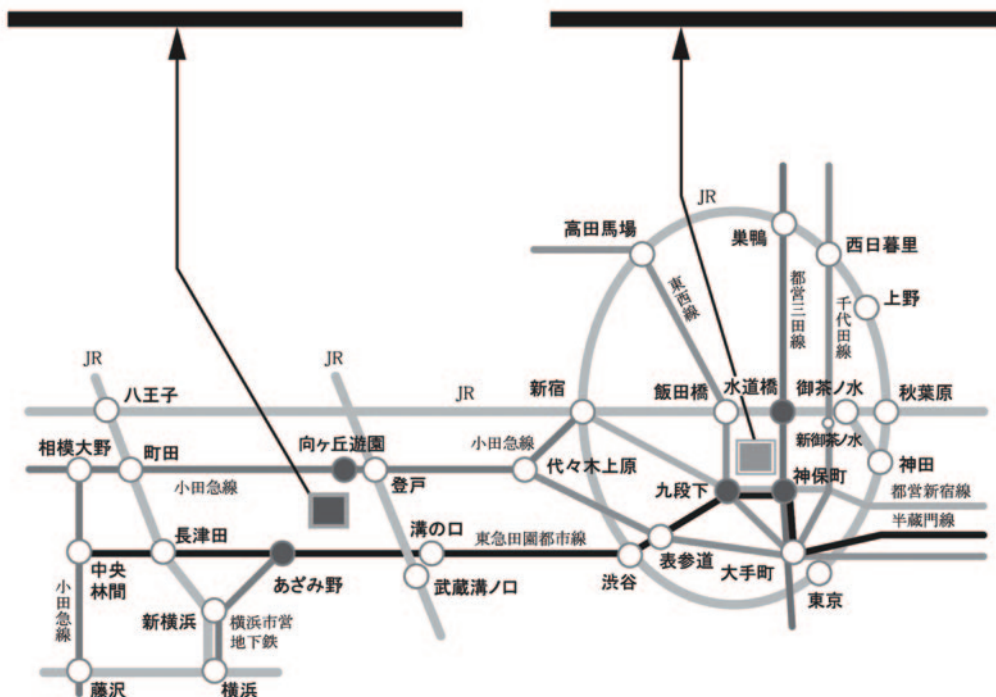
生田キャンパス

- 小田急線
向ヶ丘遊園駅(新宿から急行で約20分)
北口よりバス約10分または南口より徒歩14分
- 東急田園都市線・横浜市営地下鉄
あざみ野駅よりバス約35分
直通バス(学生専用)約20分



神田キャンパス

- JR 水道橋駅西口より徒歩7分
- 地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線
九段下駅「5」出口より徒歩3分
- 地下鉄半蔵門線・都営新宿線・三田線
神保町駅「A2」出口より徒歩3分



コミュニケーションの進化

教職課程協議会委員長 文学部 教授 高島 裕之

2021（令和3）年度も未だ先の見えないコロナ禍が続いている。大学でもひき続き感染症拡大防止をふまえながら、様々なバリエーションで授業が展開され、オンライン（同時双方向型、オンデマンド）、対面、アクティブラーニングの様々な方向性が提示され、形も定着しつつある。いっぽう資格課程で目指す、教職、司書、司書教諭、学校司書、学芸員の資格を取得した人たちの未来の舞台となる学校、図書館、博物館においても、目まぐるしく変わる日々の中でコミュニケーションの形は進化し、着実に対応していくことが求められている。

学芸員課程を担当させていただいている私は、将来学芸員の職をめざす学生に対して、様々な経験や知識を伝えと共、互いに切磋琢磨しながら研鑽を積むことができたと考えている。実際に学芸員の仕事の1つとして資料収集があり、実物以外にも聞き取り調査を行ない、記録を残して継承していくこともある。今年度はある調査地で学生と共に、伝統工芸品の生産に関する聞き取り調査を行った。目的は、伝統的技術を用いる仕事の情報を復元できるようなレベルで収集することである。聞き取り調査では、質問項目を話者に尋問するような形で進めるのではなく、自然な会話の中で必要な情報を抽出してまとめていくのが基本である。また調査をする側からの都合を一方的に押し付けるのではなく、相手に対して常に敬意を払いながら対応し、貴重な機会を存分に活かして進めていく必要がある。

今夏はコロナ禍の中で、当初は対面での聞き取りが困難であったため、ビデオ会議を使ったオンラインでの調査から入った。調査補助員を務めた学生にとって、調査地を訪れたこともなく、身近な話題ではないため想像もしにくい所があったが、調査前には参加者全員で話者に対しての質問を考え、インタビュ

アーと補助、記録などの係の分担を行ない、段取りを整えて聞き取りに臨んだ。慣れないオンラインで、調査をする側も対応いただく話者も双方のカメラで顔を映しながら、マイクに声をのせてやりとりを行なった。話題に関係する画像を画面共有して映し、何とか工夫しながら質問をしたが、やはり一問一答の形式となってしまった。最初は緊張のせい、質問して答えていただく度に「ありがとうございます。」と反応し、自然な会話の形となるには程遠かったといえる。話す時の雰囲気やニュアンス、現場に行かないと理解できない壁は、オンラインのコミュニケーションの中で高く立ちはだかった。年末になりようやく調査地での調査がかない、マスク越しではあるが、話者と直接対面での聞き取りが可能となった。前の経験を基にした事前準備は万端であったが、実際には現場で臨機応変に対応した形に切り換えながら進める必要があり、次の壁が立ちはだかった。結果として、各々の調査で立ちはだかった壁は単純に失敗を語るのではなく、それぞれのコミュニケーションの場を理解し、次なる目標をより明確にすることができたといえるのではないだろうか。

様々なコミュニケーションの形を経験することは、ソーシャルディスタンスが求められる現在を生きる私たちの糧である。どのように伝え、応えるか、さらに頭を悩ませ考えていくことが前進に繋がる。教育を担う資格を取得しようとする学生の皆さんには、コロナ禍の中でのたいへんな経験を活かしながら、様々なバリエーションがある中での「伝え方」、「応え方」の方法について深く考え学び、コミュニケーションの進化に対応してってもらいたい。相手が見えなくなっている今、相手を思いやり、想像し、伝えたいことを伝えられることが肝要と考えるのである。

Passo a Passo

表題はイタリア語で「パッソ・ア・パッソ」と読み、「一歩ずつ」という意味です。
地道に努力して難関に挑戦し、突破してほしいという願いが込められています。

目次

中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」とICTの活用

経済学部 教授 矢吹 芳洋	8
高等学校の国語科が大きく変わる？	
国際コミュニケーション学部 教授 山下 直	10

教職課程

卒業生から	14
教員採用試験体験記	18
教育実習を終えて	25
介護等の体験を終えて	32
教職公開講座に出席して	33
教職総仕上げ「教職実践演習」	34
公立商業高校での進路指導・生徒指導の実践紹介 —「教職実践入門」履修者の実践力を高めるために—	35
教科研修生体験レポート	36
多摩区・3大学連携事業「学校教育ボランティア」体験レポート	37
専修大学附属高等学校から 私立専修大学附属高等学校 教諭 横田 朋宏	38

司書・司書教諭・学校司書課程

学校図書館の「共創」 ～図書館の真の居心地よさをチームでつくる～ 文学部 兼任講師 勝亦 あき子	40
図書館実習を終えて	42
卒業生から	43

学芸員課程

企業博物館という領域 紅ミュージアム 学芸員 立川 亜理沙	46
博物館実習を終えて	48

データ編（令和3年度）

教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修者数	52
教育職員免許状取得件数	54
司書・司書教諭・学校司書・学芸員資格単位取得者数	54
教育実習先一覧	55
図書館実習先一覧	58
博物館実習先一覧	58
主な就職先一覧（教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員）	59
資格課程年間行事表	64
教職相談実施結果	65
教員採用試験対策特別講義実施結果	66
教職公開講座開催結果	67
司書課程図書館実習報告会・司書課程就職（進路）懇談会・ 学校司書課程講演会・受講説明会開催結果	68
学芸員課程「博物館実習（学内）」の展示実習報告	69
資格課程活動報告	69
資格課程教員紹介	70
編集後記	

■5つの資格課程

教職課程 … 中・高等学校の教員免許状取得

「教職課程」は、大学卒業後、国公立・私立学校の教育職員(教員)になろうとする者が教育職員免許状を取得するためのものであり、教員を養成することを目的としています。

公立学校の教員になるためには、教育職員免許状を取得(取得見込)した上で、都道府県及び政令指定都市教育委員会の実施する「教員採用候補者選考試験」に合格しなければなりません。

<本学で取得可能な免許状>(令和3年度入学者)

学 部	学 科	種 類 ・ 教 科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
経済学部	現代経済学科	社会	公民
	生活環境経済学科	社会	公民
	国際経済学科	社会	地理歴史、公民
法学部	法律学科	社会	地理歴史、公民
	政治学科	社会	地理歴史、公民
経営学部	経営学科	社会	公民、商業、情報
商学部	マーケティング学科	社会	公民、商業、情報
	会計学科		商業
文学部	日本文学文化学科	国語	国語、書道
	英語英米文学科	英語	英語
	哲学科	社会	地理歴史、公民
	歴史学科	社会	地理歴史、公民
	環境地理学科	社会	地理歴史、公民
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	数学	数学、情報
人間科学部	心理学科	社会	公民
	社会学科	社会	地理歴史、公民
国際コミュニケーション学部	日本語学科	国語	国語

司書課程 … 「司書」公共・大学図書館等の専門的職員

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の図書館・資料室などで、様々な種類の資料を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職です。司書課程では、図書館の歴史や仕組み、資料の選び方や整理の仕方、電子メディアの活用法、出版流通の仕組み、子どもや障害のある人々に対する図書館サービスのあり方など、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。常に社会状況に適合した図書館のあり方を展望し、他者と連携・協力して、現状を積極的に改革する意欲を持つことが必要です。

司書教諭課程 … 「司書教諭」学校図書館の専門的な業務を担う教員

「司書教諭」とは、小・中・高等学校等の教育に不可欠な学校図書館の専門的な業務に携わる教員です。司書教諭は教育の現場で、他の教職員と協力しながら、読書や図書館利用に関する指導をしたり、教員に対して図書館を活用した授業展開ができるように支援する役割などを担っています。司書教諭の資格は教員免許状を持たなければ有効にはなりませんので、司書教諭の資格取得を希望する場合には、教職課程と司書教諭課程の両方を履修する必要があります。

学校司書課程 … 「学校司書」学校図書館サービスを担う専門職員

「学校司書」は、小学校・中・高等学校等において、図書館資料の管理、資料の貸出や図書館利用ガイダンス、読書活動の推進、及び、授業の支援や児童・生徒の情報活用能力の育成などを行う役割を担います。2014年の学校図書館法の一部改正により、学校の設置者は学校司書の配置の促進に努めるものとされました。学校司書課程は、学校司書が職務を遂行するための基礎的な知識・技能を習得するための科目を、文部科学省が提示したモデルカリキュラムにもとづいて開講しています。

学芸員課程…博物館の専門職

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第5条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門知識を高めておくことも大切です。また学芸員の資格を活かし、博物館をサポートする職種につくことも可能です。

好きなこと、チャレンジしたいことが、 キャンパスで楽しく身につくなんて！！



教員を目指す
あなたへ

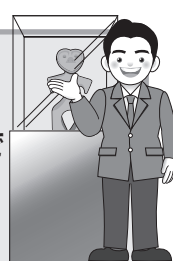
教職課程

図書館で働きたいなら



司書・司書教諭・学校司書課程

博物館・美術館で
働きたいなら



学芸員課程

教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程ガイドンス

1～4年次
教職課程履修登録
4月上旬

1～4年次
司書課程
学校司書課程
履修登録
4月上旬

1～4年次
司書教諭課程
履修登録
4月上旬

1～4年次
学芸員課程
履修登録
4月上旬

3・4年次
介護等の体験
(中学校教諭免許状取得希望者)
5月下旬～3月上旬

4年次
教育実習
5月～11月

卒業時（事前に申請した者）
教員免許状の交付
3月

3・4年次
図書館実習
(希望者)
8月～11月

卒業時（希望者）
司書資格取得証明
書・学校司書課程
修了証明書の申請
および交付

卒業後（事前に申請した者）
学校図書館
司書教諭講習修了証書
の交付

3・4年次
博物館実習
(館務実習)
7月～9月

卒業後（希望者）
学芸員資格取得証明書
の申請および交付

司書・司書教諭・学校司書課程サポート

司書課程就職（進路）懇談会 12月開催

図書館関係者をゲストに迎え、
図書館関連の就職や大学院進学に
ついて懇談をしています。

学芸員課程サポート

学芸員課程セミナーを開催

平成30年12月に第1
回学芸員課程セミナー「博
物館、学芸員のしごと」を
開催しました。

教職相談

教員をめざす学生を対象に教職相談を行っています。本気で教員をめざす学生はもちろんのこと、教員をめざすかどうか迷っている学生の相談も受け付けています。さらに希望者には、教員採用試験で求められる小論文作成や面接の方法などの指導を行っています。担当するのは、教員採用試験の実際を良く知る本学教職相談員（専任教員・名誉教授）のため、より実践的な指導を受けることができます。

玉川大学との連携による小学校教員養成特別プログラム

本学では、玉川大学と連携し、小学校教員養成特別プログラムを設けています。このプログラムにより、本学に在学したまま玉川大学通信教育課程の科目等履修生となり、免許状取得に必要な科目を受講し、卒業と同時に小学校教諭二種免許状の取得をめざすことができます。

ただし、免許状取得には本学の卒業要件単位と、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得するための教職課程の単位を充足した上、さらにこのプログラムの諸科目の単位を修得しなければなりません。ゆえに、プログラム参加学生は、多大な努力が求められることを十分に認識し参加してください。

※商学部会計学科は除きます。

※このプログラムは小学校教諭二種免許状の取得を保証するものではありません。

教職公開講座 10月上旬開催

教職公開講座は、教員をめざす学生を対象にした入門講座です。年に1度、10月上旬の土曜日に開催します。教員に採用された本学の卒業生を講師として招き学校の様子や教員採用試験の対策について話していただきます。また採用試験官の経験者を招き試験の傾向や求められる教師像などについて話していただきます。この講座を受講することで採用試験の準備がしやすくなるだけでなく、教員になるための学生生活の送り方も理解することができます。

多摩区・3大学連携事業学校教育ボランティア

多摩区・3大学連携事業として、川崎市多摩区と日本女子大学が取り組んでいる「学校教育ボランティアによる学校サポート事業」に本学も参加しています。学生が川崎市多摩区内の小・中学校に週1、2回程度ボランティアとして出向き、学校をサポートするものです。

活動内容は、教科指導中の個別指導の補助、部活指導の補助、サポート学級の補助などです。学校や児童生徒の理解、授業力の向上など教員としての資質の向上に役立ちます。今や教員志望者にはボランティア経験が不可欠で、その貴重な体験の場となります。

教科研修生制度

本学と連携協定を結んでいる高等学校及び専修大学附属高等学校で、教科担当教員の指導の下、教育活動に関する様々な研修を行うのが教科研修生制度です。現在、国語、英語、社会、情報、数学、そして学校の特色に応じて設定される学校設定科目などで研修が行われています。教育実習前に学校現場を体感し、教科等の指導を体験できる「教職版インターンシップ」と言える貴重な制度です。

研修期間は、半期間で特定の曜日に研修を行う形か、春期休暇期間中の一定期間に集中して研修を行う形があります。

教員採用試験対策講座（エクステンションセンター主催講座）ガイダンス：4月、5月開講

教員採用試験の勉強を始めるとしてもどのように対策を進めればよいかわからず戸惑うことが少なくありません。本学では本気で教員をめざす者を対象に、教員採用試験対策講座を開講しています。対象者は、本学学生と大学院生、本学の科目等履修生及び卒業生です。授業期間中は土曜日に実施しています。受験指導専門学校と提携していますが、経済的に大きな負担とならない受講料の設定となっています。1年間を通じて計画的な指導が徹底して行われるため、合格の可能性を高めることができます。

※上記のプログラムや講座は、希望する学生のみを対象とするもので、教職課程を受講するすべての学生が対象となるものではありません。

教員を目指す

国公立・私立学校の教員になるためには教育職員免許状が必要です。

教員

教員に求められる総合力を養う教職課程

国公立・私立学校を問わず、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、幼稚園の教員及び養護・栄養教諭になるには、各校種・科目ごとの教育職員免許状が必要です（小学校の場合、全科又は科目）。免許状は、大学等において学士の学位等の基礎資格を得るとともに、文部科学大臣が認定した課程において所定の

教科及び教職に関する科目の単位を修得し、申請書類等の審査を受けて適格であると認められた者に授与権者（都道府県教育委員会）から授与されます。ただしその後、教員として採用されるには、以下のような流れがあります。

〔公立学校の場合〕 教員採用試験の出願から採用までの流れ

募集要項配布 (3月下旬～5月下旬)

募集要項によって初めてその年の試験科目や試験日程が発表されます。販売されていないので都道府県・政令指定都市の教育委員会に問い合わせる必要があります。

受験願書受付 (4月上旬～6月下旬)

必要書類をすべて揃えて、教育委員会へ提出します。提出方法は郵送の場合もあれば、直接持参しなければならない場合もあります。近年では電子申請による方法も増えてきています。

1 次試験 (7月上旬～下旬)

全国的に筆記試験を中心に行われます。ただし、都道府県・政令指定都市によって試験科目は異なります。

1 次試験合格発表 (7月下旬～9月上旬)

受験者宛に郵送にて結果が通知されます。開示請求により、総成績のランクなど、通知より詳細な結果を知ることのできる都道府県・政令指定都市もあります。

2 次試験 (8月上旬～9月下旬)

日程は都道府県・政令指定都市によって異なります。内容は人物評価に関する面接や模擬授業などが中心ですが、論文試験、実技試験、場面指導、適性検査なども行われます。

2 次試験合格発表 (9月中旬～10月下旬)

2 次試験に合格すると、名簿登載が決まります。ほとんどの場合、合格発表は郵送。ランク登載の場合はそのランクも表記されています。

採用内定 (10月上旬～翌3月下旬)

合格してから市区町村の教育委員会や学校長による面接などを経て、赴任校が決まります。実際に採用が確定するのは 10 月上旬から翌 3 月下旬にかけてです。

教員として勤務

(4月1日～)

教員採用試験の内容

教員採用試験では、基本的に次の 5 つの試験があります。

【論文試験】

教育論や実践的な指導方法のテーマを課し、受験者の人格や教師としての考え方・資質を問う試験として、面接試験と同じく重要視されています。

【筆記試験】

教養試験及び各教科の専門試験が行われます。教養試験は、教職教養と一般教養からなり、ほとんどの自治体（都道府県及び政令指定都市）が両方の試験を課していますが、片方だけを課するところもあります。

【実技試験】

小学校の音楽や体育、中学校・高校の英語・音楽・家庭・保健体育・工業・商業などで行われます。主に、その教科に関わる基本的な技術・技能を見る試験ですが、情報化の進展に伴い、全志願者にパソコンの操作を課す自治体が増えています。

【面接試験】

個人面接・集団面接・集団討論・模擬授業・場面指導など様々な形態で行われます。最近は人物的要素を重視する傾向が高まり、選考結果に占める面接試験のウエイトが大きくなってきています。そのため、1 次・2 次を通して 2～3 回面接を行う都道府県（政令指定都市）も見られるようになり、特に模擬授業は約 7 割の都道府県（政令指定都市）が取り入れています。

【適性検査】

教員に要求される資質を客観的に調べるために実施されます。主に、内田クレベリン精神検査、Y-G 性格検査、ロールシャッハ・テストなどが用いられます。

〔採用試験後の流れ〕

公立学校の教員採用試験は、正式には「教員採用候補者選考試験（検査）」といい、教員として採用する候補者として適した人材を選抜するものです。しかしながら、この教員採用試験に合格したからといって採用されるわけではありません。この点が民間企業と異なる点であり、この試験の大きな特色といえるでしょう。最終合格発表（2 次試験合

格発表）は都道府県・政令指定都市によっても異なりますが、概ね 9 月中旬～10 月下旬頃に行われます。しかしその頃はまだ、次年度の児童・生徒数や退職教員数などが確定していない場合が多く、地域や校種、教科ごとに必要な教員数が判明していない状態です。そのため、合格者数が実際に必要となる教員数を上回れば、合格しても採用され

ないという状態が生まれてきます。しかし仮に内定が出なくても、合格後 1 年以内に欠員が生じた場合は中途採用もあるほか、1 年間採用されなかった場合でも次年度の 1 次試験が免除される都道府県・政令指定都市も見られます。

〔私立学校の場合〕

採用までの流れ

それぞれに独自の教育方針や校風がある私立学校では、選考方法や基準も各校により異なります。したがって、志望に当たっては各私立学校に対して、その年の募集計画などを各自で直接確認することになります。また、各都道府県に設置されている私学協会が私学教員適性検査を実施していたり、窓口となって募集している場合もあります。その他、大学の求人票やインターネットなどにより公募を行っているケースもあります。

司書・司書教諭・学校司書・学芸員を目指す

司 書

【図書館の実践的な知識が身につく司書課程】

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の調査部、資料室などで、資料（図書、雑誌、CD や DVD 等）を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職です。

資格を取得するには、大学・短大の司書課程を履修するか、司書講習を受講する方法があります。司書課程を開講している大学・短大は少なくありません。その多くは、私立の大学・短大で、通信制大学もあります。

司書課程・司書講習では、子どもの読書、資料の選び方や整理の仕方、情報検索、著作権、出版流通の仕組みなど、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。

生涯学習社会・情報社会といわれる今日、司書の果たすべき役割は非常に大きく、熱意と素養のある人材が求められています。

【就 職】

1. 公共図書館

各自治体で実施される公務員採用試験を受験します。「司書職」として採用される場合と、「一般行政職」として採用された後に図書館に配属される場合があります。前者の場合には、採用時までに司書の資格を取得している必要があります。いずれの場合でも非常に高い競争率です。また正規職員としてではなく、嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。

2. 国立国会図書館

国立国会図書館職員総合職試験又は一般職試験（大卒程度試験）を受験します。試験内容はともに大学卒業程度ですが、総合職のほうが難易度が高いです。1 次試験は教養試験（多肢選択式）、2 次試験は専門試験（記述式）・英語試験（記述式）・小論文試験（総合職のみ）・性格検査・個別面接、3 次試験は集団討論（総合職のみ）・個別面接です。

3. 国立大学法人等の図書館

地区ごと（北海道、東北、関東甲信越、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州）に実施される国立大学法人等職員採用試験を受験します。大学職員の「事務系（図書）」として働くことになります。試験内容は、1 次試験が教養試験多肢選択式（大学卒業程度）、2 次試験が専門試験および各大学での面接です。

4. 私立大学等の図書館

それぞれ独自の方法で採用しています。求人募集は、大学のホームページ等で行われています。また正規職員としてではなく、嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。

司 書 教 諭

【学校図書館を活かす司書教諭課程】

「司書教諭」とは、初等・中等教育の基礎をなす学校図書館の専門的な仕事に携わる教員です。司書教諭は学校教育の現場で他の教職員と協力しながら、学校図書館の資料提供はもとより、直接児童・生徒たちに図書館や読書に関する指導や、教員に対して図書館や図書館資料を活用した授業展開ができるよう支援するといった役割を担っています。

司書教諭の資格は、教育職員免許状を持つ者にのみ認められるので、教職課程と司書教諭課程のある大学で必要な科目の単位を修得し卒業すると「教育職員免許状」と「司書教諭」の資格が得られます。平成 15 年度から 12 学級以上の学校では必ず司書教諭を配置することになりました。有資格者へのニーズは高いです。

※経営学部ビジネスデザイン学科、文学部ジャーナリズム学科および国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科では司書教諭の資格を取得することはできません。

【就 職】

公立学校の場合は、教員採用試験を受験しなければなりません。私立学校の場合は、それぞれ独自の方法で採用を実施しています。詳しくは P6 を参照してください。

学 校 司 書

【学校図書館を支える学校司書課程】

「学校司書」とは、初等・中等教育の基礎をなす学校図書館の職務に司書教諭と協働しながら従事する職員です。学校司書は、学校および学校図書館において、図書館資料の管理などの「間接的支援」に関する職務、閲覧や貸出、レファレンスサービスなどの「直接的支援」に関する職務、授業の支援や情報活用能力の育成などの「教育指導への支援」に関する職務の 3 つの職務を担っています。

学校司書課程では、上記の 3 つの職務に必要な知識・技能を身につけるための諸科目を設けています。これらの科目の多くは、司書課程、司書教諭課程と乗り入れており、司書、司書教諭という関連する資格も取得しやすいように配慮しています。

学校司書の配置は努力義務ではあるものの、学校図書館の運営の改善と向上、児童生徒の学習活動や読書活動での活用への期待から、配置する学校は増加傾向にあります。こうした期待に応えられる人材が求められています。

【就 職】

公立学校の場合は、各自治体での採用試験を受験します。正規職員は、司書の採用試験の合格者が学校に配置される状況があります。私立学校の場合は、それぞれ独自の方法で採用しています。嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。求人募集は、ホームページ等で行われています。

学 芸 員

【博物館で専門職となる学芸員課程】

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、文書館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第 5 条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

学芸員の仕事は人気が高いうえ、募集もわずかなので、実際に学芸員の職につくのは相当な難関といわれています。ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門分野の知識を高めておくことも大切です。

【就 職】

1. 公立博物館の場合

学芸員については定期的に採用試験があるわけではなく、採用は欠員の補充か、博物館の新設・拡充の際に行われます。その場合は教員や一般職員（公務員）として採用した人の中から、学芸員資格を持っている人を部署の配属・異動という形で学芸員に採用することがあります。また県立や大都市の博物館は、一般の採用試験（公務員採用試験）とは別に学芸員の採用試験を実施することが多く、採用試験の実施はその自治体の広報紙やホームページで公開されます。

採用試験では一般教養のほかに、博物館学の知識と、募集する専門分野に関して広く深い知識や技能が問われます。また正規職員としてではなく、嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。

2. 私立博物館の場合

それぞれ独自の方法で採用を実施しています。

中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」とICTの活用

経済学部 教授 矢吹 芳洋

はじめに

2017年及び2018年に改訂された新学習指導要領（以下、新要領）は、本年4月からの高等学校での実施により全面実施となる。新要領では、これまでにない大幅な変更がなされた。各教科及び科目の目標を、柱書の目標と育成すべき三つの資質・能力に沿った目標に細分化し、学習内容もそれに沿って提示された。また、これからの時代に求められる資質・能力を育成する方法として「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング等）が示され、さらにコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報技術の活用、すなわちICTの活用も重要な学習・指導方法として強調されている。

文部科学省は、新要領の実施に先立ち、2019年12月にGIGAスクール構想を発表した。GIGAスクール構想とは、PCやタブレット端末を児童生徒一人1台配布してICTを活用した授業を実施するというものである。当初、2023年までに完了する予定であったが、新型コロナの影響によるオンライン授業実施の必要性から前倒しとなり、2021年度から開始されている。

その後、2021年1月には、2020年代の日本の学校教育の方向性を示した中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」が発表された。この答申には、GIGAスクール構想を具体化する内容も含まれ、学校教育でのICT活用の推進が強調されている。それを実現するため、児童生徒の指導にあたる現職教員のICT活用能力を向上させる研修実施、また教員養成課程でのICT活用能力の育成を求めている。ICTの活用は、「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング等）を実現するための一方策でもあ

り、学校教育全般で積極的な推進が求められている⁽¹⁾。

そこで本稿では、すべての教科・科目等で実施が求められているICT活用の背景、実現方法、効果を確認し、最後に教職実践演習（中・高）での私の試みを示したい。

1. 新学習指導要領が示したICTの活用

まず、ICTの活用がめざす情報活用能力の育成について触れておかなければならない。文部科学省は、情報活用能力について「世の中の様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決し自分の考えを形成していくために必要な資質・能力。」と定義している⁽²⁾。情報活用能力の育成は、旧要領でも言及していたが、今回の改訂ではさらに強調された。

新要領は、総則で情報活用能力の育成の必要性について、次のように言及している。今日、コンピュータ等の情報技術は急激に進展し、人々の日常生活に浸透、将来も膨大な情報（データ）が生み出され蓄積されていくことが予想され、情報を適切に選択・活用していくことが不可欠な社会が到来しつつある。そうした社会では、情報活用能力の育成が極めて重要になる。その能力は学習の基盤となる資質・能力で、確実に身に付けさせる必要があることから、今回の改訂において各教科等で適切に活用した学習活動の充実を図るようにした。児童生徒の情報活用能力の育成には、コンピュータや情報通信ネットワークなどの必要な環境を整え日常的に活用する必要があり、教科等で適切に活用した学習活動の充実を図ることが重要である。情報の収集、処理や発表などに当たってコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し指導に生かすことで、生徒が主体的に情

報手段を活用して学習に取り組むことができるようにするとしている⁽³⁾。

つまり情報社会が到来しており、子供たちにはこの時代に対応するために情報活用能力を育成する必要がある。この能力は、これからの学校教育において学習の基盤となる資質・能力で、ICT環境、すなわちコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段の整備と、教科等で日常的にICTを活用して情報の収集・処理・発表する指導を行う学習活動の充実によって確実に身に付けさせることができるとしている。

2. 「令和の日本型学校教育」

GIGAスクール構想の前倒し決定後の2021年1月26日に出されたのが、先に言及した2020年代の日本の学校教育のあり方を方向づける中教審答申「令和の日本型学校教育」である。

この答申は、これまでの日本の学校教育について、学習指導だけでなく生徒指導も主要な役割として担う「日本型学校教育」が諸外国から高い評価を得てきたとの認識を示し、一方でその結果、教師の長時間勤務による負担増大という課題が生じていること、また学習場面でのPCやタブレット端末等のデジタル・デバイス使用が低調で加速度的に進展する情報化への対応が遅れていることを指摘した。そして2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」は、AIやロボティクス、ビッグデータ、IoTといった技術が高度に発展したSociety5.0の時代にふさわしい個別最適な学びと協働的な学びの実現にあるとした⁽⁴⁾。

個別最適な学びとは、指導の個別化（個に応じた指導）によって個々の子供の特性や学習進度に応じて指導すること、また学習の個性化によって一人一人の子供の興味・関心に応じた最適な学習の機会を提供することであるとす

る。この個別最適な学びの実現には、ICTを活用して収集した学習履歴(スタディ・ログ)や指導上のデータ等を利用する必要があるとしている。

そして協働的な学びとは、同一学年・学級、異学年間、さらに空間的・時間的な制約を超えた学校の子供たちとの学び合いを指し、個別最適な学びによって学びが孤立化してしまう危険性を防止するためにも、多様な他者との協働的な学びの実現が必要であるとしている。この学びもICTの活用によって可能になるとしている。このようにICT活用の重要性を強調している。

答申は、ICTの活用に次のような効果があるとしている。第一に、一人一人の個性(興味・関心)に応じた個別最適な学びが提供できる。第二に、多様な子供たちへの対応が可能になり教育の機会均等を保障できる。具体的には、学校になじめない子供(不登校)、障害のある子供、日本語指導が必要な子供、学びたくても学べない子供(病気療養)たちに学習機会を提供できる。第三に、地理的制限を超えた学びを提供できる。過疎地域の複式学級で学ぶ児童生徒など、集団での学習機会が失われがちな子供たちに均等な教育機会を提供できる。第四に、多様な他者と空間を超えた協働的な学びが実現できる。つまり国内の遠隔地域や諸外国の学校との交流を可能にする。第五に、学校教育の質の向上を図ることができる。一斉指導では伸ばせなかった資質・能力の育成を図ることができる。第六に、これまでできなかった学習活動の実施、家庭等の学校以外の場での学びが実現でき、新たな感染症や災害の発生等の緊急時にも子供たちの学びを保障できる。さらに第七として、ICTの活用は子供たちの学びを変えるだけでなく、ICTを通して収集した学習履歴や指導上のデータ等の利用によって教師の事務負担の軽減が

可能となるとしている。

これからめざすべき方向性について、ICT(デジタル・デバイス)を「文房具」として日常的に活用できるようにし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かす。ただし一方で、ICTの活用自体を目的化してはならず、またICTが子供たちに与える影響も考慮しなければならないと注意を喚起している。

当然のこととして、現職教員とその教員を養成する教職課程にも対応を求める。現職教員は、研修等を通じてICTの活用能力、ICT活用指導力、データリテラシーの向上を図る。教職課程には、各教科等の指導法の授業において国が作成したICT活用コンテンツを活用、また各教科に共通するICT教育の指導力を総論的に習得できる新しい科目の設置、教職実践演習(中・高)の模擬授業などでのICTを活用した授業などを求めている⁽⁵⁾。

むすびにかえて

教職課程の最終科目である教職実践演習(中・高)を担当しているが、先の中教審答申に則り、履修者に新たな学習・指導法等を活用した授業づくりを行わせている。現在の履修者は、中学校社会科、高等学校の地理歴史科、公民科、商業科の免許取得を目指す学生たちである。最初に、学習指導要領の改訂内容、中教審答申などの学校教育改革の流れや背景を概説し、そこで示されたICT活用の他、「主体的・対話的な学び」(アクティブ・ラーニング等)、「見方・考え方」などの新たな学習・指導法や視点を詳説し、さらに幾つかの実践例を紹介した後、教育実習で担当した分野・科目をベースに、商業グループ、地理グループ、日本史グループ、世界史グループ、公民グループの5グループに分け、各グループ5から6名を振り分け授業づくりを行わせている。取り組む単位につ

いては各グループの選択に委ね、最後にその成果をグループごとに発表させる。まだ新要領が実施されていない高校での実習体験者が多く、新しい指導法に基づく授業づくりには戸惑いが多いが、ICT機器やソフトを、どの場面で、どう活用し、また生徒に活用させるか懸命に模索している。

実はこうした授業づくりは、今年度が初めてではない。新要領の姿が明確になった2019年度から、先取りする形で取り組んできた。これまでの報告の中には、パワーポイントを用い、動画を組み込み、さらに履修者が教員と生徒役に扮しICTを活用する授業風景をドキュメンタリー風動画にまとめた優れた報告もあった。

教職課程の教員は、履修者にICTの活用した授業づくりの方法を教える立場である。しかし残念ながら、情報教育を専門とする一部のスペシャリストを除き、ICTに精通した者は多くない。新型コロナウイルス禍に伴うオンライン授業の実施でもそうであったように、多くは暗中模索の状態にあるはずである。それでも頑張っただけで進んで行かなければならない。「情報化が加速度的に進むSociety5.0時代」の真ただ中にいるのだから。

- (1) 朝日新聞朝刊 2021年8月5日付。
- (2) 文部科学省『教育の情報化の手引き 追補版』2020年18頁。
- (3) 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編 54-55頁等。
- (4) Society5.0とは、内閣府が打ち出した第四次産業革命の時代に日本が先駆けて実現すべき社会像で、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会であるとしている。内閣府ホームページ「Society5.0 実現に向けて」
- (5) 中央教育審議会答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』(令和3年1月26日)75-82頁。

※未成年者を表す用語として、子ども、こども、子供などあるが、本稿が文部科学省の答申等を扱ったものであることから、子供の語を用いた。

高等学校の国語科が大きく変わる？

国際コミュニケーション学部 教授 山下 直

平成30年版高等学校学習指導要領では、高等学校国語科の必修科目が「現代の国語」と「言語文化」の二つの科目に分けられた。さらに「現代の国語」の「読むこと」領域の教材については、「現代の社会生活に必要とされる論理的な文章及び実用的な文章とすること」とされ、文学的文章を「読むこと」領域の教材にはできないことが明記された（「3 内容の取扱い(4)」）。このことは、新しい学習指導要領が文学を軽視しているという批判を生じさせる要因の一つとなっている。

確かに、これまでの国語科の必修科目である「国語総合」の教科書には、芥川龍之介の「羅生門」が必ず採録され、「羅生門」が定番中の定番の教材として認識されてきたことを思えば、文学的文章を教材にできないことが学習指導要領に明記されたことはショッキングなことと捉えられてしまうかもしれない。しかしながら、ショックを受ける前に一度冷静になることも必要である。それはどのようなことかと言うと、確かに「現代の国語」では文学作品を「読むこと」の教材にすることはできないが、もう一つの科目である「言語文化」では、文学作品を「読むこと」の教材とすることを何ら妨げてはいないことを忘れてはいけないということである。

「現代の国語」は国語科の一つの科目に過ぎない。同じ必修科目の「言語文化」では文学作品を「読むこと」の教材にすることは妨げられていないわけであるか

ら、国語科から文学が排除されているわけではないのである。とはいえ、国語科の教科書なのに文学作品を教材にできないことを受け入れろと言われても、それはそれでなかなか難しいのもまた偽らざるところであろう。

では、なぜ国語科の科目であるにもかかわらず、「現代の国語」では文学作品を「読むこと」の教材にできないなどということが起きてしまったのだろうか。その要因の一つに、以下に示す中央教育審議会答申（平成28年12月）の指摘がある。

高等学校の国語教育においては、教材の読み取りが指導の中心になることが多く、国語による主体的な表現等が重視された授業が十分行われていないこと、話し合いや論述などの「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の学習が十分に行われていないこと、古典の学習について、日本人として大切にしてきた言語文化を積極的に享受して社会や自分との関わりの中でそれらを生かしていくという観点が弱く、学習意欲が高まらないことなどが課題として指摘されている。（下線は山下による）

下線を付した部分にもあるように、中教審答申では高等学校の国語教育の課題の一つに、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習が十分に行われていないことを挙げている。

これまで高等学校の国語科の必修科目には「国語総合」という科目が置かれていた。そして、「国語総合」には「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の三つの領域を設けることが学習指導要領に示されている。つまり、これまでの必修科目である「国語総合」においても、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習を行うことが求められているのである。にもかかわらず、中教審答申ではそれらの学習が十分に行われていないことが指摘された。平成30年版の学習指導要領では、この課題の克服が求められていたものであり、それが「国語総合」を「現代の国語」と「言語文化」に分けるということであった。

このことがなぜ中教審答申に指摘された課題の克服につながるのか。その理由は、二つの科目を構成する領域と配当された単位時間を見ることで捉えることができる。

	「話すこと・聞くこと」	「書くこと」	「読むこと」
現代の国語	20～30単位時間程度	30～40単位時間程度	10～20単位時間程度
言語文化	時間配当なし	5～10単位時間程度	60～65単位時間程度

【表1 領域ごとの配当単位時間】



H30 版 CS 解説

表 1 は「現代の国語」「言語文化」のどの領域にどの程度の単位時間が配当されているかを示したものである。単位時間と言うのは簡単に言えば年間の授業回数のことである。「現代の国語」は科目全体で年間 70 単位時間が配当されている（年間で 70 回の授業があるということ）。そのうち、「読むこと」に配当されているのは 10～20 単位時間程度であり、残りはすべて「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習に割り当てられている。一方、「言語文化」はそれとは逆に、年間 70 単位時間程度のうちの 60～65 単位時間程度、いわばそのほとんどが「読むこと」の学習に割り当てられているのである。つまり、「現代の国語」は「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習に重点を置いた科目、「言語文化」は「読むこと」の学習に重点を置いた科目ということになる。「現代の国語」「言語文化」という科目名を眼にしたときには、直感的に「現代の国語」は現代文分野、「言語文化」は古典分野の学習に重点を置いた科目と捉えられるかもしれない。しかしながら、

配当されている単位時間を見てみれば、そのような捉え方では二つの科目の特徴を正しく捉えることができないことがわかるだろう。

「現代の国語」を現代文分野、「言語文化」を古典分野と直感的に捉えてしまうと、「現代の国語」で文学作品を「読むこと」の教材にできないという事実を目の当たりにしたとき、国語科における文学の軽視という結論に向かうことになるだろう。しかしながら、実際には「現代の国語」は「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習を中心に行う科目なのであり、その分「読むこと」の学習に割り当てる時間はどうしても少なくならざるを得ない。そのため、文学作品をじっくり読む学習は「言語文化」で行うようにしたのである。中教審答申に指摘された課題を克服するには、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習を十分に行うことが不可欠であり、そのため国語科の科目を「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習に重点を置く科目、「読むこと」の学習に重点を置く科目に分けたのである。こうすることで、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習を十分に行わなければならないような状況を作り出すことをねらいとしたのである。

しかしながら、高等学校の国語教師の多くは、国語科は現代文と古典を学習するものという認識を根強く持っている。言い換えれば、高等学校の国語科は「読むこと」の学習を中心に行うのが当たり前となっている。だが、そのた

め「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習が十分に行われないという状況が生まれてしまい、中教審答申ではそのことが高等学校国語科の課題として指摘されたのである。

紙幅の都合で「現代の国語」「言語文化」について十分に説明できたわけではないが、少なくとも「現代の国語」において文学作品を「読むこと」の教材にできないことが、文学を軽視するという考えに基づくものではないことはわかっていただけたのではなかろうか。これまでの国語科の学習に対する直感的なイメージが、今回の学習指導要領改訂に必ずしもマッチするものではないという側面は否定できないだろう。それは見方によっては、現場の意向をかえりみない行政の失態ともなるだろうし、自分の指導の課題をかえりみない現場教師の怠慢ともなるだろう。小学校、中学校とのスムーズな接続、大学とのスムーズな接続のためにも、今回の学習指導要領の改訂を機会に、高等学校の国語科の学習指導の在り方について議論が深まることを望む。



国語総合の教科書



「私立専修大学」と改称した頃

教 職 課 程



10 号館（生田キャンパス）

卒業生から（国語）

筑西市立下館南中学校 教諭 柳田 雅隆（平成30年度文学部日本文学文化学科卒業）

【はじめに】

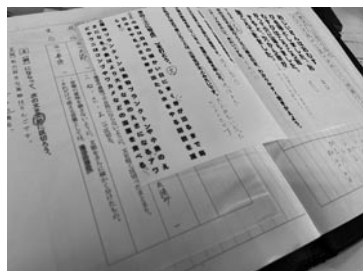
皆さん初めまして。私は現在、筑西市立下館南中学校に今年度新規採用として着任し、国語科の教諭として勤務しています。「先輩」として語るには若輩者の最たるものとは存じますが、皆さんの今後の教員生活の参考になればとメッセージを送りたいと思います。

【『講師』経験から今につながる『教諭』生活】

私は2年間、別の中学校で常勤講師（仕事内容自体は教諭とほぼ変わりませんでした。）をしていました。事前に、学校に手続き書類等を持参する日があり、その際の服装で、4月1日に学年主任に注意を受けたことを今でも忘れません……。

そんな右も左もわからない自分だからこそ出来たことは、『先輩にわからないことは聞く』ことでした。給食や清掃時の動き方、学年関連の印刷物や学年便りの作り方など細かいことですが、「わからないままやるより何倍もましだ」と自分に言い聞かせ、先輩に必死で食らいついて仕事を覚えようと奮闘していました。二学期も終わりに差し掛かり、副担任として自分で判断して動けるようになりつつあったある日、先輩方から「一度聞いたことはほとんど間違えなくなってきたね。」と言われたことがありました。『先輩にわからないことを聞く。ただし、一度聞いたことは忘れないようにする』。これは今でも教訓としているものです。自分の考える軸をはっきりと行動で示すことは、周りの先生はもちろんのこと、生徒との授業や生活での関わりにおいても重要となる考え方であると学びました。

この2年間の講師経験があったからこそ、今の教諭としての動き方や仕事のタスク処理、職場での



日頃の教材研究（授業作りノート）

人との関わり方など様々な面で役立つことが多いと実感します。教師を目指す学生の皆さん、

もし、採用試験に失敗しても諦めないでください。講師としての仕事は決して無駄にならない良い経験となって自分の力になります。

【『教科』はまず実践し、先輩の授業を盗んで成長する】

勤務校である下館南中学校は、文武両道を絵に描いたような学校であり、学力が高く、生徒の生活面もしっかりしていて、部活も優秀な成績を収めている学校です。もちろん勉強が苦手であったり、勉強量と学力が結びつかなかったりする生徒もいます。様々な授業形式がある中で、自分が授業改善している方法を書いていこうと思います。

まず、私の担当は1年生2クラス、2年生2クラスの計4クラスなのですが、正確に言うとT1（1人授業体制）は1、2年生それぞれ1クラスずつの計2クラスで、残りはT2（2人授業体制）です。実はこのT2のシステムは、先輩の授業を学ぶには絶好の機会なのです。

自分が実際に考えた授業を実践し、反省点、改善点（板書計画、プリントの精度、生徒への授業計画または手立ての正確性）を見付け出し、先輩の授業にT2という立場で参加します。授業の進め方、板書の方法、学力の差のある生徒への一斉授業と個別指導のやり方など、自分の授業と比較できます。こうすることで先輩の技や良いところを真似し、自分流にしていけることができます。

【おわりに】

私がこの仕事に夢中になれるのは、自分の授業を一生懸命に受けてくれる生徒たちの存在や、困った時や辛い時に話を聞いて助けてくれる先生方のフォローのおかげです。この恵まれた環境で教員という仕事ができていることは感謝してもしきれません。

今の私は教員以外の仕事は考えられないほどにこの職業を気に入っています。そんな気持ちに少しでも読んでくださった皆さんが共感し教職に就いてくださることを切に願います。ありがとうございました。

卒業生から（英語）

神奈川県立大井高等学校 教諭 岸野 恭華（平成29年度文学部英語英米文学科卒業）

はじめに

皆さんこんにちは。私は神奈川県立大井高等学校に勤務しています。今年で教員生活3年目を迎えました。2年目からは初めて担任として1年生のクラスを受け持ち、今年度も持ち上がりで日々奮闘しています。大井高校はクリエイティブスクールという学校で、中学校で十分な力を発揮できずに悩んでいた生徒が多く在籍しています。教員としての経験は浅いですが、少しでも何かをお伝えできたら幸いです。

担任業務について

クリエイティブスクールでは1クラスを30人以下とし、少人数で学び直しができる環境づくりをしています。人数が少ない分、生徒一人ひとりに寄り添った指導ができるのでは…と、思うかもしれません。しかし、それがなかなか難しいことなのです。ホームルームで生徒と接する際、「見ているつもり」や「伝えたつもり」になっていることが多々あります。「見る」とはどういうことか、効果的な伝え方とは何かを常に考えています。自分の言ったことがきちんと伝わったか確認する時間をとり、伝えたいことが複数ある時は付箋に箇条書きにして渡すなど、生徒にとってのわかりやすさを意識しています。また、その何気ないやりとりでさえ、生徒との信頼関係が大切です。「この先生は話を聞いてくれない。話をしてもどうせ分かってくれない。」と生徒が感じた途端、会話ができなくなります。授業中もそうですが、生徒が思っていることをうまく話せずに困っている時、注意の対象となるようなことをしている時でさえ、まずは「どうしたの？何があったの？」と事情を聞くようにしています。生徒にとって基礎学力の定着はもちろん大事ですが、社会で生きていく上で絶対に必要なこと（時間を守る、挨拶をする、規則を守ることなど）も学べるように努めています。

教科指導について

授業の大前提として、中学校の学習内容を学び直すということが挙げられます。まずアルファベットから復習し、語彙、文法などを基礎の基礎から勉強します。一度取り上げた内容であっても何度も復習します。繰り返し復習する中で、「どこかで見たな。」と感じ



ドアや壁の掲示物

てくれさえすれば大成功です。話し方は短く簡潔に、プリントも見やすさを重視しています。字体はUD デジタル教科書体にし、文字の大きさは12ポイント以上、行間やページの区切りはわかりやすくするなど、プリントの見やすさは授業内容を理解する上で欠かせないものです。学生の皆さんも授業プリントを作成する際には、少し気にしてみてください。

私個人が大切にしていることは、少しでも生徒が成功体験をできるような授業にすることです。自己肯定感が低く、英語アレルギーの生徒が少なくありません。生徒が黒板に答えを書いたり、短い英文を言ったりしながら、この教室の中では失敗をしてもいいと思える安心感のある授業を目指しています。



フロントゼロの黒板

ユニバーサルデザインの観点から

教室内の掲示物の貼り方にも気をつけています。生徒の気が散ってしまわないよう、黒板周りには何も貼りません。左右の壁が後ろに掲示するようにしています（フロントゼロ）。机も窓側や廊下側は内側に向くように配置し、学びやすい環境を整えています。

終わりに

今、私が教員として働くことができてるのは、学生時代から様々な方にお世話になり、その経験が活かっているからです。学生の皆さんも周りの先生方や一緒に勉強する仲間を大切に、感謝を忘れないでください。社会人として1人でこなすべきことは山ほどありますが、担任を経験する中で助けを求めることの大切さも学びました。自分では頑張っているつもりでも、すぐに結果として現れることは少ないと感じています。そんな中でも頑張れるのは周りの人の助けがあるからです。うまくいくコツを聞くことはできますが、それを実践してみないことには自分のものにできません。私も自己肯定感が高い方ではありませんが、失敗から学ぶことに意味があるのだと思えるようになりました。教員を目指すことを迷っている方もたくさんいらっしゃるかと思いますが、今の時間を大切に、いろいろなことに挑戦してみてください。自分らしさを忘れずに。過ごしている環境は違いますが、一緒に頑張りましょう。

はじめに 一教師はいくつもの「顔」がある職業一

牛久市立ひたち野うしく中学校の田中優佑と申します。よろしくお願いします。本稿が、教職を目指す皆さんの一助となれば幸いです。

皆さんは、どのような「教師」を目指していますか。「楽しい授業を展開できる教師」、「明るいクラスをつくれる教師」など、人によって目指す「教師像」は様々だと思います。なぜ、こんなにも多くの教師像が生まれるのでしょうか。それは、学校には様々な場面があるからです。私は、教師は様々な場面に応じていくつもの「顔」を使い分けていく必要があると考えています。したがって、以下には多岐にわたる職務内容に、一部ではありますが、私自身がどのように取り組んでいるかを紹介できればと思います。

生徒の心の居場所となるような学級経営

私は現在、1年生の学級担任をしています。クラスには31名の生徒が在籍しており、当然ですが一人一人違う性格をしています。運動が好きな子もいれば、読書が好きな子もいます。私は、どの子にとっても「心の居場所」となれるようなクラスにしたいと考えています。このようなクラスを実現するために、具体的に次の2点を心がけています。

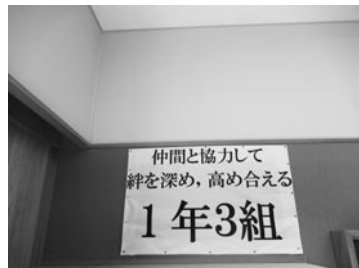
1点目は、生徒主体の学級経営を行うことです。私は、係活動や委員会活動などなるべく生徒同士で考えさせるようにしています。これは、生徒同士がお互いを理解し、認め合い、支え合えるようにする習慣を身につけさせたいからです。きっかけは何でもいいと思います。実際に、今年度の最初の生徒目標は、「さわやかにあいさつしよう」「給食の準備・片づけを素早くしよう」でした。このような日常の何気ないことでも、目標にすると生徒の意欲が高まります。また、文化祭などの学校行事はクラスの絆を深める絶好の機会です。理想ではありますが、生徒全員に「自分たちで学級を創り上げる」意識をもたせ、一人一人の所属意識や自己肯定感を高めていきたいと考えています。

2点目は、一人一人と向き合う時間をつくることです。以前、先輩の先生から「1人で学級全員をみるのではなく、生徒と教師の1



対1が学級の人数分あると考えているよ。」とアドバイスをいただいたことがあります。それ以来、いつでも生徒が話

しかけられるような工夫を心がけています。休み時間に教室や廊下の椅子に座って話をしたり、校庭で一緒に遊んでみたりと、生徒の日常に溶け込むようにすることで、見えてくるものがあります。まだまだ勉強中ではありますが、いい意味で生徒との距離感を大切にしていきたいと考えています。



授業は生き物

授業といっても、専門教科を教えることだけが仕事ではありません。道徳や総合も踏まえて、教材研究を行わなければなりません。また、1つのクラスでうまくいったことが、他のクラスでもうまくいくとは限りません。授業はまるで生き物のようで、「常に同じようにはいかない」ことに難しさがあり、一方で奥深さも感じます。

私も1年目は、この授業の「難しさ」の沼にはまっていました。今思えば、「どうしたらよりよく教えられるか。」ばかりに気を取られていたように感じます。しかし、先輩の授業を見ていく中で、「生徒の学び」に着目することの大切さを学びました。実際に、「どう教えるか」から「どのように学んでいるか」に着眼点を転換することで、生徒一人一人のニーズに対応できるようになってきました。昨今、アクティブ・ラーニングが主体となってきて、日本の学校教育も大きな転換期を迎えています。「生徒の学び」に着目し、主体的に課題解決できるような授業が展開できるよう今後も勉強していきたいと考えています。

おわりに

私自身、小学校から大学院まで、多くの先生方に支えられて今があります。教師の最大の魅力は、「生徒一人一人の成長」に影響を与えられることではないでしょうか。時には厳しく指導しなければならない場面もあります。冒頭に示したように、いくつもの「顔」がありますから、「厳しい先生」にも「優しい先生」にも映るわけです。ただ、生徒と向き合い、一緒に成長できることには大きなやりがいを感じます。

教師はゴールのない職業といわれます。確かに、毎月の売り上げのように成果が数値に現れるものではありません。もしかしたら、我々の指導の答えは5年後、10年後、20年後の教え子たち一人一人の姿なのかもしれません。

卒業生から（数学）

富士吉田市立富士見台中学校 教諭 松浦 優（平成29年度ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科卒業）

1 はじめに

私は、今年で教員生活4年目になります。まだまだ経験不足ですが、学生時代とこれまでの勤務経験を振り返って、感じたことやみなさんに伝えたいことを述べさせていただきます。

2 1年目の私

1年目の教科指導は教科書をこなすことで精一杯でしたが、教材研究に時間をかけたことは、今に生きていると感じています。同じ教科の先生の授業をたくさん見させていただきました。また、理科のT・Tに行き、他教科での教え方や、自分の教科と他教科との関連も学ぶことができたことは、教え方のヒントになりました。みなさんが採用された際には、研究会などを通して、多くの先生や教科の授業を見たり、授業実践をしたりできる機会を大切にしたいと思います。

3 学級経営・生徒指導

私の今年度の学級経営目標は「“なぜ”を大切に」です。学びにおいて、疑問を持つことは主体的に学習を進めてくうえで重要なことです。未知のことに向かっていく姿勢を育むこと、既知のことでも多面的・多角的に再考するために、“なぜ”を大切にしたい学びを進めてほしいからです。生徒にどんな力をつけさせたいかを明確にして、卒業する時の姿を想像するなど、長い目で見ていく指導や声掛けを意識しています。

「生徒の心は見るができないが、言動は見るができる」これは先日参加した研修で聞いた言葉です。学校には様々な事情を抱えた生徒がいます。普段から生徒理解に努めていけば生徒の言動から何かを読み取ることができると思います。私は、毎日多くの生徒に声をかけるよう意識したり、生活記録ノートや自主学习ノートへ丁寧にコメントしたりしています。

4 部活動指導

部活動指導では、競技経験のある部を持たせていただいています。ただ、競技技術の向上



部活動指導（バインダーを手に説明する筆者）

な人間関係の構築や規範意識などに重点を置いて指導を進めています。生徒の中には、部活動が居場所となっている子もいます。安心できる環境作りや肯定的な指導ができるよう配慮することが必要だと思います。

5 教師を目指す皆さんへ

中学校では新学習指導要領による授業が本年度よりスタートし、同時に評価についても大きく変わりました。本県の求



ICTを活用した授業

める教師像の1つに「生涯にわたって主体的に学び続ける教師」というものがあります。「生きる力」を育む指導実践のために、学び続ける姿勢がとても大切です。生徒が変われば指導も変わる。一筋縄ではいかないことも多くあります。粘り強く指導できる人材が求められていると思います。

また、今日的な課題の1つにICTの活用があります。GIGAスクール構想により1人1台端末の整備が進んでいることから、情報機器の操作ができることは必要な能力であると考えられます。「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけて、先頭に立ってICT活用の実践ができる人材が求められていると思います。

6 教員採用試験

実は私が正式に採用されたのは本年度からです。採用試験で私の強みになったことは、現場での実践経験でした。では、学生の皆さんにはどんな強みがありますか。どんな生徒を育てたいですか。そのためにどんな先生になりたいですか。これは1度目の採用試験で私に足りなかったと感じたことです。具体的な姿をイメージするために大事なものは1つの軸です。「社会で活躍できる生徒の育成」「思いやりのある生徒の育成」などなんでもかまいません。そのために自分はどんな先生になりたいか、生かせる自分の強みは何かまとめておくといいと思います。

7 おわりに

みなさんが充実した教員生活が送れるよう、これまで述べた内容が少しでも参考になれば幸いです。教育現場でのご活躍を期待しています。

はじめに

この度、令和3年度実施神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験に合格し、令和4年度より高校国語の教員となります。採用試験を受験しようと考えている皆さんのお役に立てればと思い、体験記を執筆いたします。

一次試験

“大学4年の夏に採用試験がある”という漠然とした認識から、私が本格的に採用試験対策に臨んだのは大学3年の10月頃からでした。一般的に遅いスタートだったと今になって後悔していますが、時間がない中で最初に行ったのは情報収集でした。

敵を知らないと言えないわけですから、まずは直近3年分の過去問と教職教養の要点整理集を購入し、東京アカデミーの通信講座を受講しました。

とにかく本番まで時間がなかったので、過去問と要点整理集で、神奈川県の出題傾向を把握することに専念しました。教職教養の教育原理や教育法規、教育心理は大学の授業を真剣に受けていたので頻出領域は少ない復習でカバーできました。時間がある方は、要点整理集にある頻出領域でないところまで復習すると心配ないかと思います。教育史は、時代ごとに活躍した教育者の名前と主な業績・出版物を、ノートに書きだしたり、声に出して読んだりと反復しました。

過去問や要点整理集が教科書ならば、東京アカデミーの参考書等は資料集のように活用していました。専門科目である国語の問題集は大学3年の12月までに3周するようにし、大学3年の1月からは市販の問題集も購入し交互に解くようにしました。2日ごとに、現代文・古文・漢文と分野を変えることで飽きずに勉強することができました。

他にも東京アカデミーでは、論作文を添削する内容があったのでそれを利用した他、3回模試を受験し時間感覚を養っていました。



一次試験対策で使用した参考書・要点整理集

二次試験

神奈川県は一次合格が分かってから二次試験まで10日ほどしかないので、事前に指導案などを練っておく必要がありますが、教育実習や卒業論文で忙しかったため、こちらも短い期間しか対策ができませんでした。二次試験対策で行ったことは、主に大学で開講してくださっていた二次試験対策特別講座を

2日間受講したことです。面接練習や模擬授業だけでなく、指導案や面接カードまで丁寧に細かく指導してくださいました。また先生方だけでなく、同じ二次試験を受ける学生からもフィードバックをもらえ、とても良い刺激になりました。

個人面接で心がけたのは、「会話」であることを意識し、自己主張で終わらないようにすることと、1分以上喋り続けなくて、要点を明確に答えること、そして模擬授業にも言えることです。元々よくハキハキと発声することです。その他の対策としては、よく聞かれる質問などを収集したり、場面指導の適切な回答を先生方に教えていただいたりしました。



二次試験で使った道具

模擬授業では、授業開始から展開までの10分程度をいかにスムーズに且つ面白く行えるかが重要であったので、本文は紙に印刷したものにマグネットを貼り板書の時間を省くなど、適宜道具を用意して臨みました。また、教育実習の際に現場で活躍されている先生方を見て、発問の仕方を真似したり、模擬授業を見て指導していただいたりしました。

おわりに

採用試験対策期間で感じたことは、もっと時間に余裕を持つことと、同じ志の仲間がいることの大切さです。付け焼き刃の知識では現場に立った時に役に立たないので、今でも専門科目の国語を中心に勉強を続けています。そして基本一人で採用試験対策をしてきましたが、同じ夢へと向かう仲間がいる心強さは何物にも代えがたいと思います。大学でも教員採用試験対策講座が開講されているので、そちらを受講していたらより充実したものになっていたのだろうと今でも思います。

でも何より大切なのは、「絶対に教員になりたい」という強い気持ちです。どうしてなりたいたいのか、それを自問し自分の中で答えが出た時に、より集中して取り組めたように感じたので、軸がぶれないようにするためにも必要だったと感じています。

そして一人だけの力では、現役で合格することはできませんでした。支えてくれた友人や家族、指導してくださいました大学・教育実習先の先生方など周りの方々への感謝を忘れずに、実りのある日々になりたいと思います。

決して簡単な道のりではありませんし、辛いことのほうが多いと思いますが、その先にある皆さんの目標が達成されますよう、心から願っております。

【はじめに】

この度、私は令和4年度千葉県・千葉市公立学校職員採用候補者選考に合格し、4月から中学校の英語教員として教壇に立つことが決まりました。今回、教員採用試験について皆さんにお伝えする機会を頂きましたので、私が大学生活で取り組んでいたことを学年ごとに書きたいと思います。ご参考になれば幸いです。

【1・2年次について】

私は、1・2年生の時には英語力向上を目標として学習に取り組んでいました。具体的には、TOEICのスコアアップを目指しながら専修大学のe-learningシステムを利用して勉強していました。自治体によっては一定のスコアを取得していると試験が一部免除になるところもあります。英語英米文学科では、TOEICの点数はクラス分けの材料にもなるため点数を上げておくと一石二鳥です。TOEIC対策の授業もあるので、気になる方は履修してみると良いと思います。

また、私は体育会の体操部に所属していました。大学生になって新しいことを始めようと思い、入部しました。部活と勉強の両立は大変な時もありましたが、それ以上に収穫があったと感じています。他大学に練習に行ったりボランティアで体操教室を開催したり、学生の時にしかできない経験をすることができました。なによりこういった体験は面接試験で話す材料になります。打算的な考えですが、教員採用試験受験を考えている人はサークルに所属する、ボランティアに参加する等の経験をしておくと後々役立つと思います（笑）。教職課程履修者の1・2年次は取得しなければならない単位数が特に多いので、無理のない範囲で頑張ってください！

【3年次について】

私はTACの教員採用試験対策講座を受講していました。講座は夏から始まったので、私が本格的に勉強を始めたのは3年次の7月からです。大体採用試験の1年前です。多くの場合、教員採用試験は1次試験（千葉県の場合は専門教養と教職教養、集団面接）と2次試験（千葉県の場合は模擬授業と個人面接、場合によって実技試験）に分かれます。この時は1次試験対策を中心に進めていました。専門教養は自分が受験する教科の試験です。対策講座では専門教養の授業が設置さ

れていないので、過去問や参考書等を用いて自分で勉強する必要があります。教職教養は学習指導要領、教育法規、教育時事等に関する試験です。講座では教職教養の対策が中心です。神奈川県の場合はこれらに加えて小論文試験や一般教養試験があるので、自分が受験する自治体の試験内容を調べた上で学習にあたってください。

加えて私は「バンピの会」という採用試験対策グループに所属していて、そこで1次試験対策の勉強や、3年生の春休みくらいからメンバー達と面接対策をしました。一人で勉強するのに不安がある人は、学習会への参加も検討してみると良いと思います。ちなみに3年次の春休みは一番多く勉強時間が確保できる時期なので、気合いを入れて勉強されることをおすすめします。

【4年次について】

4年次には教育実習があります。夏休み前に実習がある人、夏休み後にある人で分かれると思います。実習期間中に勉強を進めるのは至難の業なので、夏休み前にある人はその前に一段落させておく必要があると思います。個人的には6月に実習の人が多かった気がします。そうすると実習が開けてからすぐ1次試験が始まり、その一ヶ月後に2次試験があります。この一ヶ月の間に実習の体験をまとめ、面接で話せるようにしておくとう利だと思います。1次試験の後に面接対策を始めると対策が間に合わない可能性が高いので、実習以外のことはあらかじめ面接で話せるようにしておくとう利だと思います！

【終わりに】

以上が私の4年間です。紙面の都合上、試験内容と対策について詳しく書くことができませんでしたが、その点は他の方の体験報告を読んでいただければよくわかると思います。採用試験の勉強は長期戦になるので、いかに勉強しない日を減らせるかが勝負です！皆さんの勉強が上手くいくよう応援しています！！



鉄棒練習中の筆者

はじめに

私は令和3年度神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験に合格し、来年度から高等学校の地理歴史・公民の教員として働くこととなりました。以下に述べる私の経験が、教員を目指す皆さんの役に立てれば幸いです。

1 次試験について

神奈川県の1次試験では、教科専門試験、一般・教職専門試験、論文試験（試験時間はいずれも60分。論文試験は2次試験に含まれる。）が行われました。私が受験した高等学校地理歴史・公民は、日本史、世界史、地理、公民のいずれかの受験区分を選択することとなり、教科専門試験の選択問題や合格最低点は受験区分により異なっています。過去の問題や試験結果などを早めに確認しておくと思いいます。



教育実習中の体育祭の様子

私は、3年次の5月から1次試験対策の勉強を始めました。しかし、3年次の間は大学の勉強やアルバイトなどで忙しく、思うように勉強時間がとれなかったため、春休みに入った2月以降から教科専門試験の内容を中心にほぼ毎日勉強をしました。一般・教職教養については、神奈川県の試験は出題傾向が概ね決まっているため、4年生になってから短期間で集中的に勉強しました。

筆記試験の対策では、主に2つのことを心掛けました。1つ目は、こまめに計画を立てて勉強することです。私は、1か月ごと、1日ごとにやるべき内容をメモ用紙や付せんに列挙し、それに従って勉強を進めました。一方で、必要ないと思った勉強内容や勉強方法はすぐに止め、計画通り勉強が終わらない場合があっても期限を決めて必ず終わらせるなど、柔軟性を持ちながら勉強を進めました。

2つ目に心掛けたのは、問題演習や復習を繰り返し行うことです。私は、問題を解く感覚が脳や身体に染み付くまで過去問や練習問題を繰り返し解きました。そして、間違えた部分は必ず正答や解き方をルーズリーフにまとめました。さらに、問題の直しや学習内容をまとめたルーズリーフは2冊のファイルにまとめ、試験の直前には大学や家で何度も見返しました。

論文については、春休み中に月に2回程度書いていましたが、4年生になってからは週1回のペースで書き、その都度大学の先生に添削して頂きました。また、論文を書く際には、予備校の先生に頂いたアドバイスである「構成を複雑にせず、素直に記述」すること、そして筆記試験と同様に繰り返し書くことを常に心掛けました。

2 次試験について

神奈川県の2次試験では、模擬授業（10分）、個人面接（30分）が行われました。私は、2次試験を受けるにあたり、大学の先生方、先輩や他の受験者、ボランティア先の高校の先生方に指導して頂きました。その中で、私は主に2つのことを心掛けました。

1つ目は、理想の教員像を持つことです。私は、神奈川県が求める教員像を踏まえた上で自らの理想の教員像を決めました。理想の教員像が明確になると、具体的な質問への回答や面接時の提出書類に書く内容を考えやすくなるので、早いうちに決めておくと思いいます。

2つ目は、これまでの自分を振り返ることです。私は、小学生の頃から自分が取り組んできたことや、その成果などを年表のような形でノートにまとめました。これは、自分のアピールポイントや教員となった際の強みを見つけることに繋がるので、やっておくと思いいます。

おわりに

新型コロナウイルス感染症が流行する中で試験勉強は、試験が予定通り実施されないかもしれない、自分が感染症にかかってしまうかもしれないといった不安との闘いの日々でした。しかし、そうした中で努力を継続し、合格できたことは私にとって奇跡のような出来事でした。支えて頂いた方々に感謝しています。これから採用試験を受けようと考えている方は、健康に気を配りながら自分の目標に向かって頑張ってください。応援しています。



試験対策のために作成したノート（教育時事のまとめと地理のテスト直し）

〇はじめに

教員の道を志したのが、3年生になる直前の2020年の2月頃でした。自分の価値観を見直し、どんな職に就きたいかを検討した結果、教職という道を歩むことに決めました。そこから一から教職課程を履修しはじめ、紆余曲折ありながらもなんとか山形県の教員採用試験に合格することができました。もし読んでいる人の中に自分のような境遇の人が居ましたら伝えたいです。その気持ちが本気なのであれば、いつからでも教員を目指すことはできます。思い立ったが吉日です。私の体験記が、何か参考になったら幸いです。

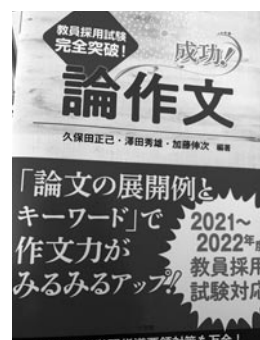
〇1次試験

1次試験の内容は、コロナの影響で予定されていた集団討議がなくなり、一般教養・教職教養・専門教養の試験を受けました。高校商業を受けるにあたって大変だったのが、過去問や模擬問題を集めることでした。商業を受ける人は全国的にもかなり少ないので、テキストがありません。そこで私が利用したのは、全商の各種検定のテキスト・問題集です。ネットで見たリ、先輩、先生方からの話をお聞きする限り、これらをやっておけば問題の内容を網羅できるとのことでしたので繰り返し学習しました。余裕がある人は、ITパスポートや基本情報技術者などの資格試験のテキストも使ってみるとより知識が深まると思いました。一般教養・教職教養に関しては、自治体別のテキストと持ち歩きに便利な小さめの問題集を使いました。出題にばらつきがあったので、広い知識を身に着けることを意識しました。具体的には、自分の理解度に応じて足りない部分を補っていくような方式で勉強をしました。ある程度知識がついた段階から過去問を解き始めました。受験する自治体の過去問はもちろん、お金に余裕があれば、ほかの自治体の過去問を買ってもいいでしょうし、一部の自治体ではインターネット上で過去問を公開しているので、利用してみてください。

〇2次試験

次に2次試験ですが、こちらもコロナの影響で模擬授業が実施されなかったため、個人

面接1・2と作文が試験の内容でした。どちらも教育に関する基本的な知識や時事的な知識が必要だと感じていたので、教育新聞やニュースサイトに目を通し、意見をまとめました。とくに作文に関しては、文章力に自信がなかったので、書き方の基礎がまとめられた本を読みました。そしてその後は、作文テキストの想定問題をやったり、山形県の過去問を自分でもらいに行き、そのテーマについて書いたりしました。個人面接については、一言一句暗記するようなことはしませんでした。初見で全く回答ができない質問がないように、ネット上や母校の先生方からの情報を基に考えられるあらゆる質問に対する回答を考えていました。実際の練習では、自分で想定問題に対して答えられるか確かめました。その他には大学の2次試験対策講座に行ったり、母校の先生方に練習を手伝ってもらったりしました。



採用試験対策で用いた教材

〇最後に

私が合格に至ることができたのは、本当に多くの人のおかげだと思っています。まずは、学部のゼミの担当教員である三宅秀道先生及び三宅ゼミのOBの先輩方。未熟な自分を迎え入れてくださり、自分のために厳しい言葉をかけてくださらなければ今の自分は確実にいませんでした。教科商業に関する科目を担当してくださった中野育男先生。教科の内情や試験対策についてアドバイスをいただきました。そして、母校の先生方。面接指導や過去問をご提供いただきました。その他、関わってくださった皆様に、この場を借りて感謝の言葉を申し上げたいと思います。

採用試験を受ける皆さん、試験を受けるにあたって私が一番大切だと思うのは情報収集です。その際には、あらゆるつてを頼って、情報を集めてみてください。それが皆さんの教員への第一歩だと思います。つたない文章でしたが、最後までお読みいただきありがとうございます。うございました。

1. はじめに

この度、令和3年度神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験に合格し、令和4年度4月から情報科の教員として働かせていただくことになりました。私の教員採用試験の体験記を書かせていただきましたので、少しでもお役に立てれば幸いです。

2. 一次試験

一次試験は教科専門（60分）、一般教養・教職教養（60分）、小論文（60分）という流れでした。一般教養と教職教養の対策については、共同出版が発行している『2022年度版 神奈川県の教員採用試験「参考書」シリーズ』と『2022年度版 神奈川県の教員採用試験「過去問」シリーズ』の一般教養と教職教養を購入して勉強しました。

まず、一般教養では英国数理社に加え、音楽や美術についても知識を求められるので、自分の苦手な教科については参考書を何度も読み返してノートに書いて勉強しました。参考書以外にも、高校時代の模試を解き直したり、全ての教科で満遍なくかつ安定して点数が取れるように工夫しました。

また、教職教養では教育法規に関することや教育心理、生徒指導、人権教育など、将来教員になった時に常識として求められる知識が身についているか試されます。本番のテストは概ね5択であるため、問題の文章に書いてある専門用語を全て詳しく説明できる程度には理解しておく必要があると思います。教職教養は幅広いため、個人的には一番勉強に時間を割くべきだと感じました。

一般教養・教職教養については、参考書で勉強する→過去問を解く→間違えた部分をもう一度勉強し直す→過去問を解く→…というサイクルを繰り返していけば、効率的な勉強方法が見つかると思います。時間をかけて丁寧に知識を身につけることが重要だと感じました。

次に、教科専門ですが、上記の参考書シリーズに情報科がなかったため、私は参考書を利用しないで勉強しました。過去の試験問題と答えの選択肢は神奈川県庁舎で入手することができるため、それを全て写真に収めて、自分専用の過去問集を作りました。それを何回も解き直したのですが、間違えてしまった問題については、他の選択肢がなぜ違うのかを調べてオリジナルの模範解答を作成しました。自分で解説を作成したことで、教

科に対する理解が深まって本番の教科専門では高得点が取れたのではないかと思います。

最後に、小論文についてですが、練習して書き方を身につけたり、添削してもらうことは言うまでもなく必要なのですが、私個人の意見としてはどのような問いが出されるかを試験日までに予想しておくことも重要なのではないかと思います。例えば、自治体が力を入れている内容についてや、近年話題になっている事柄を調べ、それに関して自分なりに考えを持っておくこと当日の試験で余裕を持って解答できると思います。小論文は得意・不得意が分かれると思うので、どのくらい時間を割くのかはよく考えるべきだと思います。

3. 二次試験

二次試験は、模擬授業、個人面接の2つでした。予めどのようなことを評価されるのが公開されるので、それを意識した上で準備しておくことが重要だと思います。

模擬授業は、アクティブ・ラーニングを意識した授業づくりを心掛けました。感染症対策のため、生徒役の受験者と接触することができなかったのですが、それでも工夫して、生徒が主体的・対話的で深い学びができるように模擬授業をできたと思います。

個人面接では、私自身に関するものの他には、実際に教員になったと仮定した時に、様々な状況に対してどのように対処するか問われました。後者の質問に対しては、教育実習で体験したことをもとに、具体的な状況を想像して解答すると良いと思います。

4. 終わりに

教員採用試験は倍率が高く、また勉強にも時間がかかるため教員採用試験は受けないという人もいると思います。しかし、教育実習や講義を通して将来教員を志したいと思ったときには、この体験記を参考にいただけると幸いです。皆さんが夢を叶えられるように応援しています。



1. はじめに

この度、令和3年度神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験に合格し、4月から夢であった数学科の教員の道に進みます。大変恐縮ではございますが、折角の機会をいただきましたので、教員採用試験についての私の体験を書かせていただきます。これから教員採用試験を受験しようと考えている皆さんにとって、少しでもお役に立てれば幸いです。

2. 一次試験対策

神奈川県の一次試験では、一般教養、教職教養、専門教養、論作文がありました。一般教養については、3年の11月頃から時事通信社の『一般教養の要点理解』を使って勉強し始めました。一般教養はその名の通り、社会人として知っておくべき教養の数々が問われる試験です。そのため、私は採用試験のための勉強だとは特に考えず、知識を付けることを楽しみながら参考書に線を引きながら読んだりしていました。しかし、ただ闇雲に参考書を進めていたのではなく、神奈川県はどんな出題傾向があるのかの研究はしっかり行いました。

教職教養は3年の1月頃から勉強を始めました。教職教養の中でもまずは西洋教育史と教育心理はかなりの比重を置き取り組みました。人物の名前とその人がしたことや関連するキーワードなど覚えることが多いので、それらを表にまとめたPDFファイルを作り、スマホでいつでも見るできるように工夫しました。教育法規に関しては、日本国憲法、教育基本法、学校教育法の3つについて特に重点的に勉強を繰り返しました。

教養科目の過去問は神奈川県のみを約10年分解きました。過去問を解く上で自分に2つのルールを設けていました。1つはその問題で新しく学んだことを参考書の該当ページにメモすること。もう1つは解答を2択まで理由をもって絞ること。このルールを徹底したため、参考書は過去問を踏まえたメモでいっぱいになり、より理解が深まりました。

専門教養である数学については、特に採用試験のために勉強した時間は少ないです。それは、1年次から啓林館の『Focus Gold』や実用数学技能検定準一級の問題を自主的に

解いていたためです。そのため、過去問を15年分解くだけでした。専門教養の勉強は教員採用試験のためだけでなく、教育実習でも大いに役立つことは間違いないので、早め早めから取り組むことをお勧めします。

論作文の対策は同じく時事通信社の参考書を使っていました。論作文を書く上でのルールや注意点を模範答案で学ぶことができるため、非常にお勧めの一冊です。学校でのトラブルや教育問題に関することなど、その内容は多岐に渡るため、私のあやふやだった知識を改めることにもなりました。



学習に用いた参考書など

3. 二次試験対策

二次試験では、模擬授業と面接がありました。模擬授業の指導案はA4一枚に収める必要があるため、Excelで作成しました。内容としては「n進法」の導入である、片手で数をいくつまで数えることができるかという題材を選びました。家の中で声に出して練習をし、その都度修正する、を繰り返したことを思い出します。

面接は大学の採用試験対策講座に参加して練習しました。面接シートや自己アピール書は早めに書き終え両親に添削してもらいました。端的に話すことと目線に関しては特に注意して取り組みました。二次試験はどれだけ練習と修正を繰り返すことができるかが鍵だと思います。

4. おわりに

私は参考書のどこに何が書いてあるのかも概ね覚えた自信があります。それは参考書を開かない日がないほど何周もしたためです。正直な話、教養科目を勉強していた時期は新たなことを知るワクワク感があり、それほど苦痛ではありませんでした。学ぶことの楽しさを伝える教員を目指している皆さんだからこそ、学ぶことを楽しんでほしいと思います。皆さんが教員になる夢を掴むことを心より応援しています。

はじめに

この度、令和3年度群馬県教員採用試験に合格し、来年度から目標としていた小学校教員の道に進むこととなりました。これから教員採用試験の合格を目指している皆さんに少しでもお役に立てればと思い、体験記を書かせていただきました。

一次試験

群馬県の一次試験では、教職教養、一般教養、専門教養、小論文がありました。群馬県は他の自治体とは異なり、60分で教職教養・一般教養はマーク式、専門教養は同じく60分で全て記述式、小論文は30分で500字から600字で回答という形式です。

教職教養・一般教養に関しては、あまり難しくありません。しかし、その分正答率が上がる問題が多くなるため確実に点数を取らなくてはなりません。私は主にバンビの会（嶺井先生が発足した教職の勉強会）で嶺井先生が作成してくださった資料や問題プリントなどを活用し学習を行っていました。

専門教養は記述式でありながら、問題数が多いうえに60分という制限時間が短い中で解答しなければなりません。また、問題傾向として各教科に対する具体的指導法を問われるものが多いのも特徴です。専門外の私は小学校の全科を万遍無くカバーする必要があったため、専門教養の学習を試行錯誤しながら行っていました。最初に時間配分をつかむために群馬県の過去問を3年分解きました。その後は、過去問の解説や自分で購入した問題集、更には各教科の指導要領も利用しました。解説を読みながら、問題として出題されている場面をイメージするというものもしていました。専門教養に関しては指導要領が改訂されているため、過去問に時間をかけるよりは問題傾向を把握するという意識の方が良いかと思います。



バンビの会の学修会で使用していたノートと資料

小論文は、私が採用試験に臨むにあたって最も長い期間をかけて対策をしてきた分野です。元々小論文には課題を感じていました。そこで1年の秋口から齋藤先生の小論文講座に定期的に参加し、文章力を地道につけて行きました。私は、求められている課題に対して正対した文章を書くことが不得意だったため、齋藤先生に丁寧に添削指導して頂きました。その成果もあり、2年の終わりには小論文は合格圏内に入るまでのものが書けるようになりました。長い文章を書くことに苦手を感じている人は、早めの対策をお勧めしま

す。

二次試験

二次試験の対策は、4年になる直前の3月下旬から始めました。バンビの会としても全体で面接練習を行い、意見交換



専門教養の対策として作成したノート

をしていました。また、バンビの会のメンバー同士、オンラインで集まり方針などを話し合いながら、練習をしました。新年度からは一次試験の対策を優先し、最低でも月に1回はみんなで練習し、面接という雰囲気や話す感覚を維持することを意識しました。面接練習に関しては初期の段階から、採用試験に合格された先輩方や現役で教員をされている先輩方にも面接官役として参加していただきました。一次試験が終わってからはほぼ毎日面接の練習を行い、自分の回答内容の精度を上げることを大切にしていました。その際も、先輩方に見てもらいながらフィードバックをたくさんいただき、自分の回答に活かしました。その他にも二次試験対策と一緒に進んでいた同期同士で面接を見合いながら、学生同士でも意見を交換する機会も作っていました。先輩方や仲間の意見を聴くことは、自分の思考や視野を広げることに對して大きな助けとなりました。面接練習は、常に自分が教師としてどうありたいかという軸をもち練習することが非常に大切だと思います。

おわりに

私が晴れて教員採用試験に合格できたのは、一緒に協力しながら対策を行ってきた頼もしい同期、親身になってご指導くださった先生方や資格課程の方々、また忙しい中にもかかわらず私たちの練習に参加くださった「教師」という職に熱意を持った素敵な先輩方の存在があったからだ強く実感しています。更には最も身近な場で私の合格を応援し、見守ってくれた家族のおかげです。今まさに教師の道を目指されている皆さん、何かの目標を成し遂げるということは決して簡単なことではなく、大変なことの方が多いと思います。しかし、どんな時でも皆さんを支えてくれる温かい方々は側にいます。いつも自分の周りにいてくれる方々への感謝の気持ちを忘れずに、どうか「先生になりたい」という気持ちを大切にしてください。皆さんの抱く夢や目標が必ずや実現されることを陰ながら応援しています。

はじめに

私は令和3年6月7日から26日までの3週間、母校である私立横浜翠陵高等学校にて教育実習を行なった。担当科目は古典である。所属学級は2年B組、授業学級は2年A組（6時間分）と1組（4時間分）だった。A組・B組は内進クラスで、1組は特進コースである。授業では「嫉捨」を扱った。実習先は高校だが、中学校も同じ建物を使用しているため、中学生の授業を見学する機会や中学生と交流する場面もあった。毎日が濃く、「秒で過ぎてゆく」という言葉がまさに当てはまる3週間を過ごした。

生徒との関わり

「多くの生徒と関わり、後輩（特に私が高校時代所属していた国際コースの生徒）に経験談を伝えたい」という目標があったため、諸先生方をお願いをして中高問わず授業見学の機会を多く頂いた。特に高校3年2組の現代文研究では有意義な経験をさせて頂いた。本授業の担当の先生には高校1年の時にお世話になった。約10分時間を頂き、「高校時代の経験・大学での活動」について話した。このクラスは国際コースなので、実習での目標の一つが達成できた形だ。コロナで海外研修が中止になった生徒たちに何を伝えるべきかを考え、言葉を紡いだ。教職の授業で何度も学んだ、「生徒の視点に立つ」ことを意識して話を進められた。授業終了後に質問に来てくれた生徒がおり、大変嬉しかった。

授業に関して

教材研究では「どうすれば生徒に伝わりやすい授業になるか」「今後の学びへの繋げ方」を特に意識した。何度か読み返し文法事項等を確認し、進め方を考えた。「古文を楽しんでもらう」ことを目標の一つにしていたので、少しでも実現したかった。教科指導教諭の先生に「主語・述語の確認から始めるといい」というアドバイスを頂き実践したところ、内容を取りやすくなり、スムーズに進められた。楽しむ要素としては、「嫉捨」の内容をまとめたマンガ（転載可）を取り上げた。生徒の食いつきが良く、内容確認でも役立った。予定していた作業全てはできなかったが、きりのいいところまでできたので、納得がいつている。最後の実習授業を学級指導教諭の先生が見に来てくださったのだが、そのフィードバックで「昨年赤点を多くとり補

習を受けた生徒が、真剣に取り組んでいた。指示が明確だったからだと思う。」と言って頂けた。大変驚き、嬉しかった。一方、丁寧なあまり時間がかかっているのも、どう改善すればいいか今回の実習を再度振り返り考えたい。

ホームルームについて

朝礼や終礼を担当することが多く、その際にクラスの雰囲気をつくり、プリント等の返却の際に名前と顔を一致させることを意識した。男子が多いクラスなので、賑やかという印象を最初に持った。だが日々過ごすうちに、個性的で一人ひとり芯を持っていることに気づいた。生徒たちに何か還元したいと思い、企画を考えた。カードを配布し質問を記入してもらい、それを集め回答は冊子形式にしてクラスに置いた。生徒は喜び、早速ページを開いていた。思い出が頭によぎった。体育祭では応援の輪に入れてくれて、掃除の際には声をかけてくれた。生徒たちにできたことは少なかったと思うが、ここでの生活は実習を彩ってくれた大切なものだった。

おわりに

今回の実習では教師の視点で準備しながらも生徒の視点を意識するのを忘れないようにした。濃密な時間を過ごしたが、「押し付けはせず生徒を尊重しながら、正しい方向に導くこと」がいかに重要か一番に思った。一言目は疑問形で相手の反応を見て、それに応じて声かけをする。生徒が学校に通う意味・教師が存在する意味はここにあると考え、この意識がさらに広まってほしいと感じた。最後に、実習期間中に指導して下さった母校の先生方、関わってくれた生徒たち、教職の授業でお世話になった大学の先生方には心から感謝の気持ちを伝えたい。



実習生仲間と（前列左端が筆者）

教育実習を終えて（英語）

館林市立第三中学校 文学部英語英米文学科4年 川島 亜祐美

はじめに

私は母校の群馬県館林市立第三中学校で5月31日～6月18日の3週間、教育実習をさせていただきました。英語の授業は第2学年の全4クラス分、学級は2年4組を担当させていただきました。コロナウイルス対策のため、職員・生徒・実習生全員が毎日検温をし、給食は黙食、全校集会は放送で行うなど、自分の中学時代とはかなり異なる学校生活でした。コロナウイルスによって実習の実施が危ぶまれたときもありましたが、無事に予定通り3週間行えたことは本当に嬉しかったです。実習の1週目は様々な教科の見学をし、2、3週目から授業の実習やHR、給食指導をさせてもらいました。その3週間の中で私が感じたこと、教員という仕事について思ったことを書きたいと思います。

授業見学について

私たち教育実習生は事前に配られる時間割に沿って行動します。1日の授業見学数は5時限中2～4時間でした。英語科以外の教科も見学できます。社会や理科、体育や技術など様々な教科を見ることで先生方の授業展開や生徒の反応を学ぶことができます。実際に現場で見学することで自分の教師像をより明確にすることができるし、「こんな授業を作りたい」、「質問を投げかけるときはこんなふうにやりたい」と、自分の教壇実習の参考になるものがいくつも見つかるものです。授業見学で印象的だったのは、体育の先生の「どんな授業でも生徒が50分の授業の中で乗り越えられる課題を設置し、それを達成できたと感じさせることが大切だ」という言葉です。私はこの言葉を教壇実習中ずっと意識していました。



2年2組の授業風景

教壇実習

実習2週目から始まった教壇実習はとてつもない緊張から始まりました。大学で行っていた模擬授業とは全く違い、30人弱の生

徒の視線が自分に向けられているという肌感覚は教育実習の醍醐味の一つだと思います。授業の流れや注意点については事前に担当教諭と打ち合わせをしていました。それでは、私が教壇実習で感じたことをお話しします。

1. 生徒を『引き付ける』授業とは

導入の段階で生徒が「今日は何をやるんだろう？」と積極的な姿勢になるためには、教員による工夫が欠かせません。教壇実習1日目にして、私はこの壁にぶつかりました。ハキハキとしない話し方、生徒の気が散ってしまうほど遅すぎる授業テンポとなっていました。指導案通りに授業を進めることは重要ですが、生徒が主体的に学ぶ姿勢を作ることまた、教員の任務だと教わりました。私は手を叩いて生徒の意識を集め、指示を明確にすることで少しずつですが、授業のテンポを改善していきました。授業は集団なので、落ち着かない子がいても周りが黒板を見ていればその子も自然と前を向くし行動を合わせてくれます。各クラスの雰囲気や生徒の性質を理解することが、生徒を『引き付ける』ことに繋がっているのだと感じました。

2. 生徒に『気づかせる』授業とは

ただ黒板で文法を説明するだけの授業ではなく、生徒にとって「使える英語」の習得を教員がサポートしなければなりません。教員とALTが話す英語を聞いて、単語・文法をどのように使っているのかを、生徒自身が気づける仕掛けを授業内に取り込むことが必要でした。とても難しいことですが、プリントや教科書を使ったりALTとの会話を何回も見せたりしてみました。生徒の「分かった」という瞬間を目の当たりにするととても嬉しくなり、教員としてのやりがいを体験できた気がしました。

終わりに

現場では本当に学ぶことがたくさんあって、とても刺激的な3週間を送ることができました。教育実習で得たことを忘れずに、これからも自分が目指す教員像のために勉強と実践を繰り返し、実現できるように頑張ります。

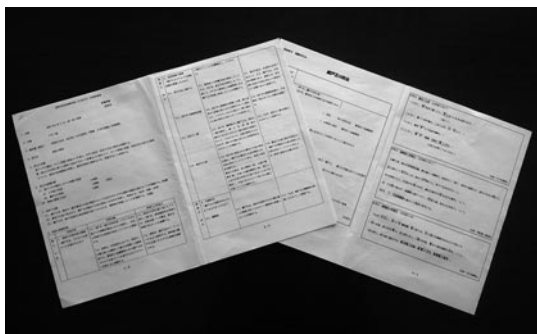
これから実習を控えている皆さん。教育実習を通して皆さんはきっと一回りも二回りも成長します。失敗を恐れずに、自分の目指す教師像に向かって挑戦し続けてください。一緒に頑張りましょう。

1. はじめに

私は、2021年5月26日（水）から6月15日（火）までの3週間にわたり、母校である東京都立狛江高等学校にて教育実習を行いました。ホームルームは2年7組、授業（日本史B）は、ホームルームのクラスに2年1組を加えた2クラス分の担当でした。1クラス40名だったので、ホームルームでは40名の生徒と接しましたが、授業は、文系を選択した生徒（クラスの半分、20人）だけを対象に行いました。また、教育実習は、新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けたものとなり、多くのホームルームや授業がオンラインに変更になったほか、学校行事も延期され、実習日も当初の予定から1日減って16日間に短縮されました。

2. 教科指導について

私が教科指導で学んだことは、主に次の2つです。第一に、事前準備が非常に重要であるということです。当たり前ですが、自分が理解していないことを教えることはできません。加えて、教える立場であれば、教える内容以上の専門知識を習得しておくことが求められます。基本的なことですが、やはり、事前に教材研究を充実させる必要があると痛感しました。他の実習生からも、「教材研究次第で、授業が大きく変わる」という声をよく聞きます。私も、生徒が使う教科書や資料集はもちろんのこと、専門書や歴史専門の辞書、参考書等を使って勉強しましたが、そういった教材のさらなる咀嚼や授業内容への反映が、課題として残ったと思います。



研究授業用の学習指導案（左）とレジュメ（右）

他にも、事前準備として、授業のシミュレーションがあります。私の場合、特にグループワークについて、他の実習生に生徒役をやってもらったあと、アドバイスをもらい、実際の授業までに改善を図ることができました。担当科目の異なる他の実習生の意見は、とても貴重なものです。他の実習生と協力し合うことも良い方法だと思います。

第二に学んだことは、「伝え方」に工夫を凝らすべきであるということです。私は、「正しく」「論理的に」「分かりやすく」伝えるということを強く意識していましたが、ある先生から、「もっと生徒の感情に訴えるようなアプローチもするべき」というアドバイスをいただきました。もちろん、「正しく」「論理的に」「分かりやすく」は大切なポイントですが、重要な箇所では話し方を変えてみたり、インパクトのあるエピソードを紹介したりするなど、生徒の感情が動くような工夫をすべきでした。これについては、ICTを活用することも有効な手法だと思います。

以上が、私が教科指導で学んだことの大まかな内容ですが、是非、他の実習経験者からも色々な事例を聞いて、参考にしてみてください。

3. 終わりに

私は、教育実習を振り返って、周囲に助けられた場面が多かったと実感しています。確かに、一人で何でもできれば、それに越したことはありません。ですが、それはまずありえないことです。私自身を含め、すべてを一人でこなせた実習生など一人もいないと思います。もちろん、自分の頭で考えることは大切ですが、時には周囲の力を借りることも必要ではないでしょうか。私も、大学と実習校の先生方や他の実習生、そして生徒たちから多くの助けを得たおかげで、無事に教育実習を終えることができました。私のこの体験談も、皆さんのお役に立てることを願っています。不安もあると思いますが、希望を持って、教育実習に臨んでください。応援しています。

教育実習を終えて（商業）

東京都立大田桜台高等学校 経営学部経営学科4年 塩野 哲

教育実習として、母校である大田桜台高等学校で2週間お世話になりました。長いようであっという間に過ぎていきました。この2週間で授業についてのことはもちろん、生徒とのコミュニケーションや部活動、体育祭、ホームルームなど様々なことを経験し、教職という仕事のやりがいを感じることができました。

授業実習については、いかに生徒にとって分かりやすい授業ができるかということに重点を置き、教材研究を行いました。特に、生徒が身近に感じるものを例に挙げ、説明するという心を心がけ、板書計画や指導案作成を行いました。2日目から授業をさせていただく機会があり、1年生の簿記の授業を行いました。初めての授業は緊張しましたが、それよりも生徒が理解してくれて嬉しいという感情の方が大きかったです。また、教壇実習をするために、多くの先生方の授業を拝見させていただきました。先生方の授業を見学する中で、黒板の使い方や声の大きさ、配布資料など、その先生ならではの授業方法があり、多種多様で勉強になりました。簿記の授業は黒板を多く使うので、きれいに書く練習も行いました。また、現在は高校でもマイクやプロジェクターなど、機械を駆使する授業もあり、生徒の理解度につながると考えました。

また、ホームルームもとても印象的でした。一般的な対面で行われるホームルームも体験しました。朝のホームルームでは連絡事項を伝えるだけでなく、生徒の体調を確認したり、生徒の変化に気づくことも大切だと学びました。また、コロナウイルスの影響で、生徒が登校しない日が設けられ、自宅学習の日があり、対面のホームルームができない日がありました。そのような時はオンラインでホームルームを行いました。今年から導入されたことということもあり、先生方も様々な工夫をして行っていました。私も経験させていただきました。やはりオンラインだとそれぞれの通信環境や機械の問題もあり、対面とは違ううまくいかないことも多かった

ですが、今の時期にしか経験できないことなので、とても新鮮でした。

体育祭については、例年の体育祭とは違い、感染防止の観点から学年別に行われました。去年はできなかった行事も今年は規模を小さくして開催できたことが、生徒にとっても先生にとっても嬉しいことだと思います。体育祭の実行にあたり、生活厚生部の先生方が多くの打ち合わせを行い、何か月前から準備をするということを知り、本当に大切な行事だと改めて実感しました。



この2週間を振り返ると、第1に感じることは、先生方、生徒たちへの感謝です。やはり、大変だったこと、ミスをしてしまったこともありましたが、先生方がお忙しい中でも、丁寧にサポートをしてくださったお陰で、様々な経験をすることができたと思います。また、生徒たちが積極的に声をかけてくれたお陰で、信頼関係を築くことができ、良いコミュニケーションをすることができました。加えて、授業をするだけでなく、その他の活動にも参加でき、とても充実した教育実習でした。全体を通して、反省点、改善点ばかりな2週間でしたが、成長している自分を実感することができた2週間でもありました。ここで得た知識、経験をただの良い思い出にするのではなく、教員になるための第1歩として捉え、目指していきたいと思います。お忙しい中、私のために時間を割いてご指導してくださった先生や、生徒たちへの感謝の気持ちを忘れずに、教育実習で学んだことを生かして、みんなから信頼される教師になるという夢を必ず叶えたいと思います。

1. はじめに

私は、2021年5月31日から6月18日までの3週間、母校である千葉県立柏の葉高等学校にて教育実習を行いました。

母校には、普通科の他に情報理数科があります。ホームルームは情報理数科の1年生を担当し、授業は、普通科の1年生を担当しました。また、授業の他にも部活動や行事など様々なことを経験させて頂きました。

ここでは、私が教育実習を通して経験したことを綴りたいと思います。

2. 教科指導

実習の1週目は、主に授業見学をさせて頂きました。この際、指導教諭から「担当教科以外の教科も積極的に見学に行くこと。特に実習科目の授業は情報科の授業にも通じるものがあるので、勉強になることが多い。」というアドバイスを頂き、生徒が授業を受ける時間の殆どを授業見学に当てました。

どの授業を見学するのか、どのくらいの時間をどの様に使うのかということも基本的に自分で決めます。また、見学させて頂く授業の都合もあるため、遅くても当日の朝までに、その授業の先生に許可をいただいた上で授業見学を行います。

教壇実習の前に授業を見学することで、授業中の教員としての振る舞い方や授業全体の具体的なイメージを掴むことができたと感じています。

実習の2週目以降は、共通科目情報と専門科目情報（情報理数科の授業）では、見学だけでなくT2としてアシスタントを行いました。基本的にパソコンを活用した授業のため、机間指導を行いながら、手が止まっている生徒を中心に声をかけ、積極的にコミュニケーションをとることを意識しました。

教壇実習を行う前に生徒と交流を図ることで、授業の雰囲気作りの手掛かりを得ることができたと感じています。

9日目からは、教壇実習が始まりました。情報科の教育実習生が私を含めて2人いたため、2クラスを担当し、全7回の授業を行いました。

実習前の事前打ち合わせで伺っていた範囲と異なる範囲で教壇実習を行うことになったため、実習期間中に1から授業を作ることになり、時間の使い方に苦労しました。

生徒は、科目としての情報を初めて学ぶので、いかに取り組みやすく学びたいと思える授業を作ることができるかを意識し、授業作りを行いました。

特に導入の部分では、謎解きから始めるなど、生徒が自然と能動的に考えることができる教材を用意し、“難しそう”という印象を持たせないことを意識しました。

研究授業では、コンピュータにおける動画の表現という内容を行いました。生徒の作業の足並みを揃えることと、実習と説明を聞いてもらう場面の切り替えをしっかりと行うことができたので、実習を多く取り入れながら知識を学ぶことができる授業が行えたと感じています。



教壇実習の様子

3. 生徒指導

実習中は、教科指導以外にも教員としての姿勢を学ぶ機会が多くありました。指導教諭から頂いた言葉の中で、特に印象に残っている言葉が「生徒の卒業後の姿を真摯に考え、一人一人と向き合う。」という言葉です。3年間の学びを通して、どのような大人に成長して欲しいのかを常に考えながら生徒と向き合っていることを強く感じました。これを実現するために、授業や生徒指導をどの様に行うのかを考えることが“教師”という仕事の本質なのではないかと考える様になりました。

4. おわりに

教育実習の3週間は、長いようでとても短く、その時々でしか学べないことが幾つもありました。

教育実習は、実際に教師として現場に立つことができる貴重な機会です。不安や緊張など、苦労することはもちろんありますが、失敗を恐れずに挑戦することで、教師としてだけでなく、人としても成長することができたと感じています。

今回の教育実習で学んだことは、今後の人生の糧になる貴重な学びでした。これから実習を行う皆さんにとっても、実りある経験になることを願っています。

教育実習を終えて（数学）

長野県岡谷南高等学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 宮坂 勇佑

1. はじめに

私は5月24日から6月11日までの3週間、母校である長野県岡谷南高等学校で教育実習を行いました。2年生を中心に、教壇実習やHR、学校行事など様々なことを先生の立場で経験させていただきました。ここでは、私が教育実習を通して感じたことや学んだことを述べたいと思います。

2. 授業見学について

実習1週目は、全て授業見学を行いました。数学を中心に、地学や国語など他教科の授業も見学しました。授業見学を通じて、授業の進め方が先生や担当クラスごとに異なると感じました。同じ内容を教える場合でも、積極的に指名をして授業を進める先生もいれば、ほとんど一方的に説明をするだけの先生もいました。また、同じ先生が教える場合でも、理解度が高いクラスではより細かい内容まで、理解度が低いクラスでは重要な内容を重点的に教えていました。私はこれらを見て、授業中も生徒とのコミュニケーションは積極的に行いたいと思いました。また、実際の現場では模擬授業以上に、担当するクラスの生徒観に合わせた授業を展開することが大切だと思いました。授業見学を行うことで、自分が目指したい生徒主体の授業についてより具体的なイメージを持つことができました。

3. 教壇実習について

実習2週目から、2年生と3年生で少しずつ教壇実習を行いました。授業見学から得た理想の授業像をもとに、はじめは生徒と積極的にコミュニケーションをとりながら授業を進めることを意識しました。その結果、生徒を巻き込みながら授業を進めるのは早めに慣れました。生徒の意見を中心に授業を進めた方が、集中力も上がり授業の雰囲気も良くなったため、これは今後も意識していきたいと思いました。

一方で、授業のペースが計画より少し遅かったため、その後はスピードを意識しながら授業を行いました。これが、教壇実習の中で一番苦労しました。早く進めようとするや自ら説明する場面が多くなってしまい、生徒の理解度や集中力が低下してしまいました。逆に少しペースを落とすと、また計画通りに授業が進まないことが多々ありました。実際の現場では、学年や学期など一定の期間の中

で決まった内容を教え切る必要があるため、計画通りに終わらせることも大切だと感じました。最後までこの課題は残りましたが、端的に説明し生徒が考える時間を増やすのを意識することで、これを解決できるように努力できました。

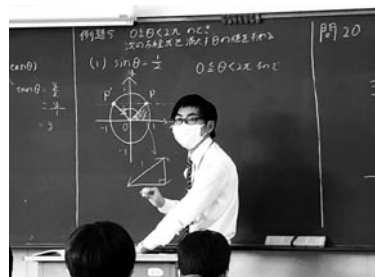
4. 教育実習を終えて

私は教育実習を通じて、大きく2つのことを学びました。1つ目は、生徒にとっていい授業とは何か常に考えることの大切さです。私が目指した生徒主体の授業も、理解度を上げたり集中させたりするという点で、生徒にとっていい授業です。また、計画通りに終わらせる授業も、定められた内容を期限までに教え切るという点で、生徒にとっていい授業です。担当クラスの生徒観を考慮しながら、その生徒たちにとっていい授業とは何か考えることが大切だと思いました。

2つ目は、生徒の変化に敏感になることです。生徒の成長や苦勞を先生が見つけ、それをさらに伸ばしたり、乗り越えられるように手助けしたりするのを実習中に何度も見ました。このような行動を続けてきたからこそ、現場の先生たちは生徒に信頼されていると思います。授業中だけでなく、部活動やクラス活動などあらゆる場面で生徒の変化に敏感になることで、生徒の豊かな学校生活を手助けできると感じました。

5. おわりに

教育実習は実際の現場で生徒と接する最初のお機曾なので、とても緊張すると思います。私も3週間実習を無事に終えることができるか、不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、生徒の前では決して不安な表情をせず、笑顔で振る舞わなければなりません。生徒まで不安な気持ちにさせてしまうからです。不安なことや失敗してしまったことは、指導教諭や他の実習生、大学の仲間と協力して乗り越えられると思います。失敗を恐れず、教育実習だけでしか学べないたくさんのことを吸収してください。充実した教育実習になることを願っています。



1. はじめに

私は9月13日から10月4日までの15日間、母校である埼玉県立越谷北高等学校で教育実習をさせて頂いた。この期間は緊急事態宣言の発令を受け分散登校となった。HRは2年9組で、書道選択の生徒は数名だったが、掃除の時間等利用したくさん交流をはかった。部活動は書道部へ3回参加し、高校書道展に向けて活動支援を行った。担当する授業は2時限連続の授業であり、1年生6授業、2年生5授業の計11回分の授業を行わせて頂いた。

2. 教科指導について

指導教諭にまず御教示頂いたのは、「授業を修行の時間にしないこと」である。私は、生徒の状況に寄り添い、生徒視点の気持ちを考えることを第一に据え、授業計画を行った。



範書の風景

知識・理解を養う指導では、私は説明や発問が長く、相手に伝わりにくいのが留意点だった。これは緊張のあまり、聞いている相手への配慮が薄れていたのが問題であった。実習では、一方的に自分が話すことを出来るだけ避け、短い発問で生徒との対話を大切にしたい。また、授業内ではその要点を大きく書いた用紙を事前に手元へ準備し授業に臨めるようにした。すると、その要点がよく目に入る上に、意味も伝わり易くなり生徒の理解も深まるきっかけになった。

プリントの作成では、口頭説明なしでは理解しづらく、内容を精査すべきものとなる事があった。特にプリントの発問は、読んで取り組めるものであるべきである。また、理解度に合わせて発問を整理しておく必要があることを実感した。

実技の指導では、書画カメラで手元を写し、書いている姿を生徒に見せた。2年生は草書の「真草千字文」を、1年生は行書の「蘭亭序」（行書体・中国東晋時代・王羲之筆「清風」）を授業で扱い、研究授業は1年9組で行った。研究授業と同じ授業を別のクラスで事前に行ったところ、緊張のあまり手が震えて、ひどい範書となった。しかし、生徒達は私が懸命に書いている姿を見てくれた。生徒の気遣いを感じ申し訳ない気持ちになったと共に、強く反省した。生徒に見せる練習の為の臨書では不十分であった。100分の授

業のうち範書は1回3分程度のことであるが、日頃の鍛錬の重要さを思い知らされた出来事となった。

また、教師は生徒が授業の中で成果や達成感を感じられるような内容をしっかり精査すべきだとも痛感させられた。教師の教える量や、求める到達度の設定によっては、出来る人だけがついて来られる授業となってしまう。例えば実技科目なので、注意する箇所が多くなると、思うように書けない生徒には苦痛な時間となる。生徒1人1人の技術向上を図るには、指導するポイントを段階的に絞ることがいかに重要であるか理解出来た。その反省の上で今回私が実践した工夫は、二文字を半紙に臨書し清書する時には、一文字目の説明・範書をして生徒が練習・理解した後に、二文字目の説明・範書をするようにした。また、より専門的な用筆法の解説は部分的に範書するようにし、必要に応じて書く姿勢や流れの表現を見せる為に二文字続けて範書することによって、指導内容と目的をはっきり分かるように授業を組み立てる重要性も学ぶことが出来た。

3. おわりに

教育実習という限られた時間の中で、失敗を恐れた時もあった。しかし、たとえ準備が十分でなくても授業をこなす使命が教師にはあると感じた。また、書道の教師は学校に1人の場合が多いので、自分の責任が大きいものだとも再確認した。今度、教壇に立つ時には、振り返りシートを活用し、何をどのように教える事が必要で最適なのか柔軟に対応出来るよう、これからも表現の技能や知識の為の研究を深めていきたい。

昨年度教育実習に行った先輩方の話を聞いて、とにかく自分も頑張らなければならないと思っていた。しかし、熱心に取り組む事が大切な事は間違いないが、必ずしも完璧であることを強いられているのではないと感じた。実習前は教育に携わる覚悟と分かりやすい授業を実践するという信念を持ち、大学の授業を生かすべきである。教育実習は、準備や実践で大変なことはあるが、自分自身の成長の機会となるに違いない。



机間指導中の筆者

はじめに

中学校の教員免許を取得しようとする人は3年次に介護施設に行き介護等の体験をすることになっているが、新型コロナウイルスの流行により現場での介護等の体験ができなかった。そのため代替措置としてレポート課題が出された。指定された教材から視覚障害児が聴覚障害児のどちらかを選び、学んだことや今後教職に就くにあたってその知識をどのように生かしていくかをまとめるというものだった。私は視覚障害児を選択した。はじめに視覚障害の特徴や生活上での問題点を学び、小学部から高等部までの指導や学習の取り組み、国語や社会など各教科でどのように授業をしていくのかについて学んでいった。ここでは、この代替措置を通じて学んだことについて述べていこうと思う。

視覚障害児の学習を通して

実際に視覚障害がどのくらい大変なのか全然理解できていないということが今回の学習を通してわかった。特に、人は情報を得るときにその多くを視覚に頼っていて、視覚障害を持つ人が情報を得るのがこれほど困難だということを私は知らなかった。視覚障害者は視覚による情報収集ができないため聴覚や嗅覚、触覚などで情報を得なければならないという。これを知って私も目を瞑り教科書等を手に取ってそれが何の本なのかを当てようと試みたがうまくいかず、予想以上に視覚以外から情報を取得するのが難しいということがわかった。また、外を歩く時も自分がどこにいるのか把握するために嗅覚などを使うと知り、外を歩くことの難しさを理解できた。このように視覚障害者たちは情報を得ることが難しいため周りの人よりも必要な知識が不足し、自由に行動することができなくなる。そのため実際に何かを体験する機会が周りの人よりも少なくなることがあるという。こういった知識の不足や実体験の不足



は視覚障害者たちのやる気を削ぎ社会に働きかける力を低下させてしまう。そうすると自ら新しい知識を習得しようとする意思がなくなってしまう更なる知的発達や運動能力、社会性の発達の欠如につながってしまう。こうならないように自らが情報を取得しようとする態度を育んでいくことが大切だと学んだ。また、そのために一番大切なのは過ごしやすい環境を作ることだと考えた。

教職に就いたら視覚障害がどのような障害で、生活するのがどれほど難しいことなのか生徒たちに理解してもらうことが大切だと思った。しかし、言葉で説明するだけだとその大変さが伝わりづらいので、視覚障害のある生徒が受けている授業に似た授業を行ったり、視覚障害の疑似体験を行って理解させることが良いのではないかと考えた。私は社会科の教員免許を取ることを目標にしているので社会科を例にすると、地理に世界の国々について教える授業や地元のハザードマップを作るという授業がある。視覚障害児の授業でも触地図を使って同様に世界の国々や身近な地域を学ぶという。そこで健常児の授業でも目隠しで触地図に触れさせ視覚障害の難しさを体験させると生徒たちの理解が深まるのではないかと考えた。さらに、視覚障害児はわからないことがあったらその人なりのサインを密かに送っていると学んだ。しかし、そういったサインは障害のない生徒たちも送っている可能性がある。そのため、生徒が発したサインに気づけるように一人ひとりを見ながら授業をしていくことも大切だと気づいた。

おわりに

介護等の体験では現場でしか学べないことも多くある。例えば、困ったことがあると生徒はサインを出すと教材で学んだが、実際にそのサインを見ることができなかった。ほかにも、生徒一人ひとりのサポートが大切だと学んだが、具体的にどのようにサポートしていくのかを現場で見ることができなかった。こうした点は現場で体験することでしか深い学びができないと思う。次年度、体験する機会があったら、積極的に参加してみたい。

1. はじめに

今年度は幸いにも、コロナ禍によって実習が延期になった学生は少なく、私も教育実習が無事終了した上で教職公開講座に参加することができた。教職の授業や実習を一通り終えていたといっても、当然それは教育の入口を覗いただけであり、また、実際に教育現場に立ったと思われる実習も、「実習生」という立場から見た学校現場にすぎず、このまま教育の道に進むことに一抹の不安を感じていた中で講座参加だった。

2. 教育現場の実態と課題

最初に現在の学校現場の様子を聞くことができた。社会科では、グローバル化、多様化が加速する現代において、この先に生じる新たな諸問題を解決する力をつけさせることが社会科教育の役割であり、そのために実社会とのつながりを意識させ、「考えさせる」ことを授業の核にしているということであった。

その手段としてICTの活用が課題となっている。学習指導要領改訂の話題として数年前から注目されているため、目新しいものではなかったが、コロナ禍によって一層その重要性和緊急性が認知されている。昨年は急なオンライン授業への対応に戸惑ったが、今年はある程度やり方を確立して軌道に乗ってきたということであった。オンラインの特性を生かして資料を共有し、ひいては生徒の意見も共有することで、より「考えさせる」授業の実現に近づいているという。

拡充が求められているのはICTだけではない。博学連携も必須である。私は学芸員課程も履修していたため、その実態がどのようなものか興味があった。博物館は資料を展示する施設というイメージが強い上に、教科担任制による課外学習の困難さも相まって、充実した連携が実現できていないと講師の先生は答えてくださった。近年は、テーマが一貫して分かりやすく、利用者が自分で思考しな

がら観覧できる館も多い。それにもかかわらず、現場にそのような意見があるということは、学校に博物館の役割が十分に認知されていないことを痛感した。博物館側からのアピール、学校側の歩み寄り、その双方が協力しない限り、博学連携の実現にはまだまだ時間がかかるだろう。

3. 「流行と不易」

次に求められる教師像について、「流行と不易」を軸に話を聞くことができた。東日本大震災、コロナウイルスの感染拡大などの大きな時代の変化に沿って、地域連携の強化、ICTの推進など、教育のあり方を変えてきたのが「流行」である。一方、昔から変わらず重要視されてきた人格・人間形成などの教育が「不易」である。

私たちは、学習指導要領の改訂とコロナ禍が重なるタイミングに直面した学生として、ICTを活用した主体的・対話的で深い学びに意識が向きがちだった。しかし、教師に求められるのはそれだけではない。その土台となっているのが「不易」である。前半の教育現場の話も非常に興味深かったが、革新的な部分ばかりに囚われ、教育の全体像を見失わぬよう、気を付けなければならない。現状の課題を重視するのも大切であるが、流行に対応しながら不易を大切に、教育の基本を振り返ることも課題解決の近道になるのかもしれない。

4. おわりに

今回の教職公開講座では、学校教育の現状や教師像についての話を聞くことができた。ICT、オンライン化などの課題に直面する現場の声を聞くと共に、時代を超えて変わらない価値のある教育のあり方を学んだ。公教育について考えれば際限がないが、この時期に「不易」を言語化した形で再認識できたことは、非常に有意義だった。「流行と不易」、その両方を備えた教育者を目指したい。

1. はじめに

「教職実践演習」は、4年次後期に開講されている必修科目です。これまでの教職課程の総仕上げに位置づけられている科目で、履修者の実践的指導力を確かなものとするのがねらいです。時代や社会の変化だけでなく、子どもや青年の変容を適切に捉え、学校教育が抱える様々な課題に対して、これまでの教職課程で得た知識や経験をもとに向き合う基礎能力を育むことを目標としています。

私は、佐藤由美先生のクラスを履修しました。このクラスでは、履修者3名ずつでグループを組み、各回1グループが教育に関するテーマに沿って、授業を行いました。90分のうち、前半は知識理解や、教育現場で発生した課題や事件の実例の紹介を行い、後半はそれについて少人数でグループディスカッションを行いました。最終的にクラス内で共有し、考えを深めていきます。自分たちで、テーマに沿った授業内容を考え、実際に授業を行うことで、これから教育現場で必要とされる指導力を養うことができるだけでなく、クラスメイトとのグループディスカッションを重ねたことで、教職課程での様々な経験や課題解決法を共有し、教育に関する視野を広げることができるところが、この科目の特徴だと思います。

2. 「役割」と「協働」

私は教職実践演習を履修し、改めて教員が学校教育に携わる上で果たすべき「役割」について見つめ直すことができ、そして「協働」することの大切さを感じました。教員は学校で授業だけを行うものではありません。生徒指導や学級経営はもちろん、地域や保護者との連携というのも、教員が果たすべき大切な役割の一つです。他にも教員が果たすべき役割というのはたくさんありますが、半年間の授業を通して、特に地域や保護者との連携という点については、「地域差」を感じ、これまで以上に熟考する必要があると感じました。先ほど述べたように、この授業では、クラスメイトとグループディスカッションを行

いました。私が授業を受け、地方の方がより地域と学校の結びつきが強いと感じ、地域との結びつきの強さが、生徒の学校生活にも影響がある場合があるということを感じました。保護者との連携に関しても、地域によって抱える問題が異なり、臨機応変な対応が必要であると感じました。

また、授業でのグループディスカッションを通し、自分以外の他者と協力しながら解決法を探ることで、たくさんの可能性が生まれることも実感しました。教育現場においても、教員や社会などと協働することで、変化し続ける社会や、変容していく生徒にも対応していくことができると感じました。

3. 最後に

教職実践演習を通して、これまでの4年間の教職課程を何度も振り返りました。これまで学んできたこと一つ一つが、確実に力になっていることを実感できたとともに、新たな発見や学びがありました。授業では、グループディスカッションだけではなく、実際に今、教員として勤務していらっしゃる先生方のお話や、佐藤先生自身の経験談なども聞くことができ、改めて教員という職業の責任の重さや、大変さというのも確認することができました。前半はオンライン、後半は対面となったこの授業でしたが最後まで有意義な学びができたのは、佐藤先生の私たち学生への細やかな配慮や、教育への熱い思いをもったクラスメイトの存在が非常に大きく、本当に感謝しています。この授業をはじめ、これまでの4年間で培った知識や、身に付けた技術を決して忘れることなく、今後も「教育」に携わり続けられるよう努めていきたいです。



教職実践演習の授業での1コマ
(※撮影時のみマスクを外しています。)

公立商業高校での進路指導・生徒指導の実践紹介

―「教職実践入門」履修者の実践力を高めるために―

東京都立芝商業高等学校 主任教諭 池田 宏史（平成6年度商学部商業学科卒業）

1. はじめに

今回、教職実践入門の履修者の前で、私の生徒指導・進路指導の実践例を紹介する機会を得た。本気で教職に取り組む、しかも2年生であったため、履修者の話を聴く姿勢から、意識の高さを伺い知ることができた反面、教職に関する知識や経験の不足から理解できない部分もあったように見受けられた。本稿では、実践報告の内容を述べるが、それは履修者が教職を目指す上での研究課題でもある。

2. 授業の始めと終わりの礼と出欠確認

講義は礼から始めたが、皆、しっかりとした礼をしてくれて、大変うれしく思った。人間が社会の中で生活するにあたり、互いに敬う気持ちを持つことは大切なことであり、礼は敬意を動作で表したものと説明した。

礼をする際のコツとして、生徒と一緒に礼をせず、生徒の礼を見届けてから礼をする（必要があればやり直させる）とよい。生徒の礼を継続して観察して、生徒理解や感情の変化についてキャッチしたり、出欠確認をする時に、1人ずつ名前を呼びながら様子を観察することも必要である。

3. 進路指導と生徒指導の関係

進路指導・生徒指導というと、高校の分掌組織が進路指導部と生活指導部とに分けられているからか、あまり関わりのない別のもの、という印象を学生に与えるようである。しかしながら、これらはいずれも教育活動全体を通して行われるものであり、実際、商業高校においてはマナー教育や学校行事では相互に関連し合うことが多い。教育実習においてぜひとも体感してほしいことである。

4. 進路指導の実践例

進路指導においては、出口のみの指導とならないよう、自己理解と自己のキャリアについて考えさせた上で、卒業後の進路について検討させている。

自己理解を深めるにあたり、「ジョハリの窓」を意識するとわかりやすい。本人は気づいていない部分についてワークやテストを通じて理解を深めていく。他人は知っているが本人は気づいていない“盲点の窓”については、グループワークでお互いが相手の長所を誉め合うようなワークで自己理解を進める。自分も他人も気づいていない“未知の窓”に

ついては、アセスメントツールを利用している。

	自分は知っている		自分は気づいていない
他人は知っている	開放の窓	⇔	盲点の窓
他人は気づいていない	秘密の窓	⇔	未知の窓

一例として、自己のキャリアについて考えるためのプログラムとして「職業レディネステスト」を紹介した。ホランドのRIASECについて説明した上で、自分のタイプと近い職業ほど親和性が高く、真逆の位置の職業は親和性が低いことについて説明した。職業に対する準備度を測定するだけでなく、自己理解や自己開示、他者理解につなげるよう意識している。お互いを誉め合うワークの延長線上のような感じでテストの結果を開示しあえると、友人との相互理解が深まり、和気あいあいとした雰囲気が醸成される。

5. 生徒指導の実践例

生徒が学校生活を送るにあたり、安心・安全への配慮が重要である。日本スポーツ振興センターの学校事故事例検索データベースを活用し、学校行事の事前・事後指導や、部活動における安全指導についての事例を紹介した。安全に関する関心を持たせるだけでなく、想像の及ばない事例を知ることによって注意を喚起したり、対策を考えさせることに役立つ。

また、学習指導要領解説特別活動編から学校行事の健康安全・体育的行事を取り上げた。体育祭や文化祭のような全員に役割が与えられるような大きな行事については、活動について振り返るだけでなく、社会人基礎力を評価の項目にしたワークシートを活用して自己理解を深めるようにしている。

6. おわりに

講座の後半は、質疑応答を行い、いじめ等の諸問題、外部との連携等についての質問を受け、回答した。

本稿であげた実践（課題）の多くは、3年次以降の教職課程での学びや教育実習を通して、各自の理解を深める参考になると考える。今後の学びを活かして、よりよい指導方法を研究していただきたい。

私は2021年9月から神奈川県立湘南台高等学校で、教科研修生として毎週火曜日1限目の「英語表現Ⅰ」、2限目の「コミュニケーション英語Ⅰ」の授業を参観させていただきました。

教科研修に応募したのは、2022年度4年次にある教育実習にのぞむ前に、実際の学校現場や生徒の様子を肌感覚で知っておきたいと考えたことと、先生方の授業を観察し、今後の自分自身の授業づくりに活かしたいと思ったからです。また、実習は私立学校で行う予定であるため、公立学校の雰囲気も知っておきたいという副次的な理由もありました。

基本的に研修では、教室の後方で授業を観察させていただき、時に机間指導や生徒とのペアワークに参加しました。少し慣れてきた10月からは、授業冒頭の15分間の活動を行う機会に恵まれるという大変貴重な機会もいただきました。

研修生として過ごして、自身の高校時代にはなかった多くの気づきと、教育実習に向けての課題が見つかりました。

私にとって一番大きな気づきは、担当の先生が生徒をよく観察されており、授業のどの場面でどの生徒を指名するかを非常によく考えられていたということです。「コミュニケーション英語Ⅰ」では、15分間の“Let's talk!”で、一方の生徒が質問をし、もう一方の生徒が2分間、英語で話し続けるwarm-up活動がありました。生徒が話している間、先生は教室を回りながら生徒たちがどのような話をしているか観察されます。活動終了後には、何名か生徒を当て、見つかった表現や文法項目をクラス全体で共有されました。一見、単純なことのように思えますが、指名す

る生徒を工夫することで、クラスの雰囲気をも明るくしたり、英語表現について考えさせるきっかけになるということを実感しました。

上述の通り、私もwarm-upをさせていただきましたが、大変、緊張しました。大学では模擬授業をした経験はあったものの、それはオンライン上でのことで、対面授業を実際にやってみると、声のコントロールや指示の出し方、活動の区切り方、生徒の巻き込み方などなど、改善しなければならないことが数多く見つかりました。自分では声を張っていると思っていても、実際には教室の後ろまではっきり聞こえていなかったり、指示が曖昧で生徒を混乱させてしまったり、予定時間15分のところを30分間も行ってしまったりとたくさんの失敗をしてしまいました。

以上のように、今回の研修では、特に生徒と上手くやりとりが出来なかったことが最大の課題でした。会話活動の最後に全体で共有する際に、答えてくれた生徒に対して英語で上手くコメントを返すことが出来ず、生徒を戸惑わせてしまいました。

授業内での生徒とのやりとりは、授業の核とも言えます。スムーズに生徒とコミュニケーションをとるために、担当の先生は生徒の様子をよく観察され、授業外でも生徒と積極的にコミュニケーションをとっておられていました。ところが私は、授業中に生徒とペアワークをすることはあっても、自分から積極的に声をかけることができませんでした。授業は教師と生徒の信頼関係の上に成り立つのだということを改めて感じました。

週に1度の研修でしたが、約半年間一つの授業を継続して観察させていただいたことで、先生方がどのように授業を構成されているのかということと授業を通した生徒の成長を間近で見ることができ、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。そして何よりも4年生での教育実習に向けての課題がはっきりしたことが一番の発見でした。研修に参加させていただいたことで、教師という仕事により魅力を感じました。

最後になりますが、今回の研修でお世話になった校長先生、担当の先生、そして教職員の方々には心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



warm-up する筆者

1. はじめに

私は令和3年の6月から、毎週水曜日の午後に南生田中学校で学生ボランティアとして活動しています。ボランティアを始めようと思ったきっかけは、実際に学校現場へ行き、今の中学生と関わることで、その実態を知りたいという思いからでした。あまり課外活動には積極的に参加する性格ではありませんでしたが、知人からの勧めもあり、このボランティア活動に参加してみようと決意しました。新型コロナウイルスの影響で、緊急事態宣言が出されていた夏から9月頃までは一時ボランティア活動は休止となっていました。少ない時間の中で生徒との仲を深めていくことができました。

2. 活動内容

ボランティアの活動内容は、支援学級の授業のお手伝いです。支援級では人数が10人前後と少数なので、一人一人と関わる時間も多くあり、すぐに生徒との仲を深めることができました。時間割が週によって変わることがあり、前期では体育を主として数学や英語、国語などの教科の授業もお手伝いする機会がありました。体育では、生徒と一緒に授業に参加をして体を動かすこともあれば、先生の補助に回ったりしました。そのほかの授業では、教室を回りながら授業に苦戦しているような生徒のところへ行ってサポートをしました。一日の終わりである6時間目は、「生活」という時間になっており、その日の振り返りを生徒がそれぞれ紙に記入し、残った時間は自習や各々がやりたいことをやる時間で、そこで生徒と一緒に勉強したり、ボードゲームで遊んだりもしました。後期は時間割が変わり、情報の授業をお手伝いしており、ワードを使った新聞や年賀状の作成などのため、ワードの使い方を教えたり、内容を一緒に考えたりしています。部活動のお手伝いをすることもあり、本来は自分がやってきた野

球部に行きたかったのですが、自分が行く水曜日は練習が休みというのもあって、前期はソフトボール部、後期は卓球部の練習のお手伝いなどをしました。

3. 学校教育ボランティアを通じて

初めてボランティアとして教室へ入ったときは、生徒たちも緊張していた様子を感じ取れました。自分自身も緊張していましたが、明るい生徒が話しかけに来てくれたことをきっかけに、皆と話すことができました。これまで自分には中学生と関わる機会が全くなかったので、どのように話しかけたらいいか、どのような距離感をもって接していけばいいのかということがわかりませんでした。そういった中で、このボランティアでは実際に子どもと関わるうちに、生徒とどういった距離感でどのように話していけばいいかが少しわかったような気がします。また、支援級の生徒たちの中には、何かやりたいことや分からないことがあればすぐに聞いてくれる生徒もいますが、自分からはなかなか言い出せない生徒もいます。そういった生徒の様子を見て気づき、自分から積極的に話しかけに行けるようになったのが、このボランティアを通して自分が成長できた部分ではないかなと実感しました。

4. おわりに

コロナ禍という難しい状況の中ですが、ボランティア活動を実施するためにサポートしてくださった大学関係者の方や受け入れてくださった南生田中学校の先生方には感謝しております。こうした活動は、必ず自分にプラスになるものが得られると思います。実際に、今の自分ができること、できないことに気づき、教員になるために改善すべき点を見つけることができました。勇気を出して参加したボランティア活動でしたが、参加できて本当に良かったと思います。

1. はじめに

私は、令和3年度より専修大学附属高等学校で保健体育科教諭として勤務しています。令和元年度から、本校で2年間の非常勤講師として経験を積み、現在に至ります。講師時代は主に教科（保健体育）の指導と部活動（男子バスケットボール部）の指導を行っていました。専任教諭になってからは、クラス担任を持つようになり、授業や部活動以外にも生徒と関わりを持つようになりました。また、学校運営のために校務分掌も担当しています。初めて経験することも多く、まだまだ不慣れなこともたくさんありますが、常にチャレンジ精神で取り組んでいます。今回は、私が本校で教員人生を歩み始めるまでの経験を皆さんにお伝えしたいと思います。



授業風景

2. 教師を志すきっかけ

私は専修大学附属高等学校を卒業し、専修大学法学部法律学科に入学しました。当時は、教師ではなく国家公務員試験を合格するという目標を持って学生生活を送っていました。在学中、母が指導をする小学生のバスケットボールクラブの指導者が不足してしまい、私が補助をするようになりました。その中で、指導者の重要性や、在り方について深く考えるようになりました。次第に、指導を通して子どもたちの技術だけでなく、精神面や行動が変化し、少しずつでも確実に成長する姿を見ることに、生きがいや達成感を覚えました。大学生活でのこの経験が、私が教師を目指すきっかけとなりました。

その後、両親が保健体育科の教師であったことも影響し、保健体育科の先生方からお話を伺う機会をたくさんいただきました。次第に、私が教師として人生を送るとしたら、子どもたちの変化を最も近くで感じることができる保健体育科を担当したいという夢ができました。私の所属する学科では、保健体育科の免許取得をすることができなかったため、千葉大学大学院へ進学して免許状の取得と、教科教育に関する専門的な知識習得、そして教育者としてだけでなく、研究者としての知見を得ることを目指しました。

3. 大学院進学を通して

大学院では、学生時代の経験を活かし、小学生のバスケットボール指導に関する修士論文を作成しました。論文の作成や学会での発表を通して、1つの種目を選手・指導者・研

究者といった多方面の目線から捉えるようになりました。さらに、何かを突き詰めて研究することの楽しさや、素晴らしさに気づくことができました。

また、千葉大学は障がい者スポーツの体験会を積極的に行っています。私は、そこで実際に視界を失った状態や歩行ができない状況を体験しました。体験会を通して、いかに周囲のサポートが重要であるかを理解するとともに、自分自身が障がいについて全く理解ができていなかったことも、この経験を通して肌で感じることができました。

さまざまな立場で考えること、自分の興味を深掘りすること、そして実際に体験すること、これら大学院での経験は私の指導観に大きく影響を与えたと思います。

4. 実際に教壇に立って感じたこと

大学院を修了してからは、私は幸運なことに本校で教員人生を始めることができました。今までの経験から得ることができた学びを、未来を担う高校生に少しでも伝えたいと日々の学校生活に挑んでいます。

ICT教育の普及に伴い、本校の生徒は本年度から1人1台iPadを活用しています。保健の授業中は黒板ではなく教室内のプロジェクターを使用しています。また、新型コロナウイルス感染症拡大も重なり、登下校の方法や課題提出等も変化しています。現在は、まさに学校教育そのものの過渡期に当たっていると思います。新米教師として仕事に慣れることや、覚えていくこともあります。他の先生方と協力しながらこの変化に対応していくことも求められています。

5. おわりに

今後ますます学校教育は変化していく雰囲気が大いにあります。学生の皆さんは、教育実習等でそれらを実感するのではないのでしょうか。しかし、その変化を楽しみながら、一つ一つの経験から気づきや学びに繋げてもらいたいと思います。いつの日か学校現場で皆さんにお会いした時に、胸を張れるよう私も日々努力していきます。ぜひ皆さんも夢に向かって進んでください。



男子バスケットボール部（左端が筆者）

司書・司書教諭・学校司書課程



図書館本館（生田キャンパス 9 号館）

学校図書館の「共創」 ～図書館の真の居心地よさをチームでつくる～

文学部 兼任講師 勝亦 あき子

東京大学教育学部附属中等教育学校、という長い名前の学校が私の勤務校です。私は2000年4月より国語科教諭として、2012年度以降は国語科と兼任する形で司書教諭を務めています。今回は、本校図書館の取り組みと共に司書と司書教諭それぞれの仕事を簡単にご紹介したいと思います。

1. 本校の学びの特色と図書館のすがた

本校は東京都中野区南台にある国立の中高一貫の男女共学校です。生徒の自主自律や自治活動を重視し、2020年度以降は全学年制服を廃止しました。学校教育目標は「未来にひらく自己の確立」。この言葉は生涯学習拠点である図書館と非常に相性がよく、図書館運営計画を立てる時にいつもありがたいと感じています。

本校は教育実験校であり独自色の強い学校のため、詳しい説明は別の機会に譲りますが、図書館に関係ある教育上の特色として、次の3点を挙げたいと思います。

第1に、総合的な学習や体験的な活動に長年熱心に取り組んでいること。第2に、本校での学びの集大成として自分でテーマを決めた「卒業研究」を16000字以上執筆し製本して提出しなくてはならないこと。そして、第3に、教科・学年を問わず探究的かつ協働的な学びのスタイルをとる授業が多く、レポート提出やプレゼンテーションを含む発表の機会がとても多いこと。これら3つの特色を踏まえると、本校図書館は探究的な学びの主要拠点として生徒の学びや教員の授業準備を全力で支援することが当然のように求められ、収集すべき資料も多岐にわたります。なかなかやりがいのある職場です。

一方、利用者の方とはいうと、小学校を卒業したばかりのあどけなさが残る1学年から、大学生になる直前の大人びた表情でパソコンの画面を見つめレポートを書く6学年まで、毎日多くの生徒が来館します。図書館で授業に出た後、そのまま課題をしたり、

読書をしたり自習をしたり、書架の間をうろうろしたり、疲れてコミックを開いたまま椅子でうた寝していたり、

と、皆それぞれお気に入りの場所でのびのび過ごしています。

2. 本校司書の取り組み

本校司書の井上さんが着任し、1年ほどが経過しました。井上さんは以前、事務補佐員として本校事務室にお勤めでしたが、図書館の応援要員としてお手伝いをお願いし、カウンター業務や掲示物を作っていただくことが

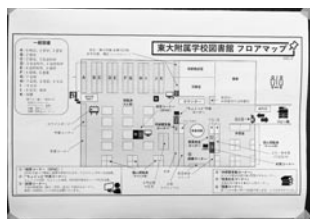


情報検索コーナー

度々ありました。その折、当時の司書が着々と図書館魂？を伝授したのでしょうか、図書館の面白さを知った井上さんは司書資格と司書教諭資格を取得後、他校での学校司書になるために本校を離れましたが、縁あって、スキルアップした状態で再び本校に司書として勤めていただくことになりました。もともと中高生の感性に訴える掲示や小物使いが巧みな井上さんですが、昨年10月の着任後、ますますその腕を発揮して館内の整備を進めています。

本校図書館は少々複雑な配架で資料を戻しにくいことが長年の課題でしたが、井上さんは冬休み中、せっせと本を入れ替えNDC分類順に直すことで誰でも本を戻しやすい状態にしました。最初にこの「大変だけど分かる人にしか分からない渋い作業」に着手するのが井上さんの凄いところ。おかげで単なる雰囲気づくりだけでない、緻密なりサーチと計算、確かな知識に基づく資料の組織化と配架こそが図書館の命と断言できるようになりました。

その後、様々なプチリニューアルのおかげで館内は見た目も小綺麗になりました。本校図書館には元々古めかしい机・椅子・書架が多いのですが、今年はいくつか小綺麗な椅子・机・棚が登場し、館内の雰囲気少し明るくなりました。この椅子・机・棚、実は、本校のもうひとりの司書である菅さんが、コロナ禍の影響で民泊からの撤廃を決めた業者さんから情報を得て、すべて無償で譲り受けてきて下さったものです。また、情報検索コーナーに置かれたデスクトップパソコンは、事務室の隅で埃を被った廃棄寸前の機器



館内フロアマップ

を井上さんが荷台で図書館に運び、情報検索用に復活させました。古いパソコンでもOPAC等で蔵書検索する程度の作業ならば問題なく動きます。またかなり古くなってきたノートパソコンには使っていなかったモニターを繋ぎ、2画面で効率良く情報を探せるようにしました。丁寧な情報収集とちょっとした工夫で図書館に新たな風がもたらされることを実感しました。

3. 司書教諭である私の仕事

これまで見てきたように、本校では校内の理解が進み、学校司書が大活躍しています。そんな学校の司書教諭である私の仕事とは何でしょうか？一言でいえば、私の役目は学校図書館の専門職である学校司書と理念を共有し「共に図書館を創る」ことにこだわり続けることではないかなと考えています。教師にそれぞれ個性があるように、司書にも個性があり、それぞれ「得意技」があります。学校司書の専門性を正しく把握し、その専門性と学校の教育理念を繋ぎ合わせて図書館の運営方針を決め、学校司書が各校の教育目標に沿う形で個々の持ち味を100パーセント発揮できる、そんな環境構築をめざして頑張るのが、司書教諭の役割です。

私は兼任司書教諭です。本校での仕事の全体量からすると図書館にかかる時間の割合よりも、図書館外の業務の方が多い毎日を過ごしています。日々の勤務時間は、中学と高校の国語科と総合的な学習の授業と授業準備が中心で（図書館も教室も使いますが）、学級担任を務める間は、面談、保護者会もあり、各種行事や特別活動の準備、部活動や教育実習生の指導などもあり、気がつくとい日が終わっています。このように書いてみて、改めて「学校司書なしに図書館は成り立たない」と実感しました。勤務校では司書教諭が1人だけで図書館運営にあたるのは不可能です。本校図書館には先述の井上司書が学校司書として毎日8時間勤務し図書館業務にあたり、さらに週10時間程度、業務を手伝って下さる営司書もいますが、それでも



カウンターから見た新着情報コーナーと交流スペース

時々人手不足気味で応援を頼むことがあります。学校司書は学校図書館をきちんと運営する際には必要不可欠な存在です。このことを校内できち

んと言いつつ、理解を得られるようにする存在が司書教諭の仕事だと思いながら、私は図書館を出発し、図書館に帰ってくる毎日を過ごしています。



私語禁止で静かに過ごすための集中ゾーン

4. 進化し続ける学校図書館への理解を広め、共創する仲間を増やしたい

図書館とは、学びも癒しも含めて、自分が生きる糧となる栄養素を安心してとれる場所と言えるのではないのでしょうか。だとすると、学校図書館の存在意義は多様な価値がおでんの具材のように調和しながら機能する空間ということにあると思います。ほっこりした「おでん」空間である図書館のよさを説明するには、現在よく見かける美しく無駄のない系統化されたモデルとは少し異なる「かたち」が必要かもしれません。GIGAスクール構想の影響で、本校でも前期課程生（中学相当）の教室に情報端末が入り、図書館を授業で使う時間が減るかな？と少し心配しましたが、ある日、端末を持った生徒達が先生と一緒に教室から図書館にやって来て自然な感じで本と端末の両方で調べ物をする姿を見て、図書館をきちんと整えていれば心配はいらないと思うようになりました。教育をめぐり今後も様々な変化があると思いますが、色々な刺激は新しい図書館に進化するきっかけになるので楽しみにしています。

学校見学に訪れた方々には図書館のきれいで居心地良さそうな雰囲気伝わればよいかもしれませんが、校内の生徒と教職員には雰囲気ではなく、この図書館の真の価値を伝えたいと最近思う機会が増えました。図書館をこれまで育ててきた歴代学校司書さんの心をきちんと継承しつつ、この素敵な図書情報空間には常に新しい風が吹きぬけ、いつも変化を続けていますよ、というメッセージを生徒や教職員に伝え、より理解が深まり共有されていくことを目指したいと考えています。

はじめに

私は専修大学図書館本館・神田分館にて11月15日から12月1日の間5日間、図書館実習に参加させて頂き多くのことを学びました。実習内容として、1日目は神田にて図書館の見学、Knowledge Baseで電子機器の体験をし、神田という都会の立地を活かして最新の技術を取り入れた新たな図書館の在り方を感じました。2日目以降は生田本館で整理係、雑誌係、受入係、利用サービス係という沢山の図書館業務を体験させて頂くことができました。

実習を通して学んだこと

この実習を通して大学の図書館職員がどのような仕事をしているのか、大学図書館としての今後のあり方について模索している点などを知ることができました。その中でも印象に残っていること3点について述べようと思います。

1点目は想像以上にPC作業が多いという点です。私は書庫に本や雑誌を配架すること、利用者に対してレファレンスサービスをする、本の貸し出しをすることが図書館職員の仕事イメージでした。しかし実際にはどの作業過程でもPCが使われていました。こういった作業を体験していく中で、大学図書館は近年電子化がより進んでいるということを実感しました。本という紙媒体だけでなく電子ジャーナルやeBookなども多く所蔵されています。図書館資料のデジタル化は費用が抑えられるだけでなく、気軽に貴重な資料を利用できたり触れる機会の増加や図書館資料を活用しての学びの機会が増えたり深まったりすることに繋がるので利点も多くあります。またコロナ禍で図書館が休館したときに、図書館に来なくても利用できるサービスの拡充が求められ、より電子化が進んだのだということも知りました。

一方で貴重資料を保管している特別書庫を見学した際に、遠い昔の資料が大切に保管され今に至っていることを肌で感じました。図書資料を原本のまま保存していく大切さや紙媒体ならではの良さとはこういったことなのかと実感しました。



写真1

写真1は整理係での図書の装束作業中の様子です。

2点目は展示の設営準備です。4日目に利用サービス係の仕事体験の一つとして「図書

館員が Good ときた本」というテーマに基づき自分の紹介したい本を選び、ポップの作成を行いました。展示を見てもらうためにいかに目を引くものを作るかということを考えながら工夫し、作業することが大変ながらもとても楽しく、完成した展示を見て、達成感を得ることができました。今後図書館などで展示を見かけたら、ぜひ注目してみようと思うようになりました。



写真2

写真2は完成した展示です。生田本館図書館前のブラウジング・プラザに設営しました。

3点目は整理係での所蔵データの作成です。NACSIS-CATという大学図書館からなる参加機関が業務簡略化などの為に共同で目録を作成する方式をとっているサイトを利用し作業しました。図書の所蔵データ作成では書誌データや図書のタイトル、目次のキーワードから内容を推測し請求記号をつけ、データ入力までの作業を行います。日本十進分類法を用いて和書・洋書を分類する作業を行いました。古い書物は現代語に言い換えて調べ、洋書は少しのニュアンスでも分類区分が変わってしまうので分類作業に頭を使いましたがとても新鮮でした。幅広い一般常識や知識があると図書のタイトルや目次のキーワードから内容を想像することができるので、図書館職員としては幅広い知識や教養も大切だなと実感しました。

さいごに

図書館実習では私が想像していた以上に詳細に図書館の業務内容を体験することができました。図書館実習での5日間がとても充実した時間になったのは、お忙しいながらも手厚く業務を教えてくださいました図書館職員の方のおかげであり、感謝の気持ちでいっぱいです。

また自分自身が本や図書館という空間が好きなので、好きなものに囲まれた5日間の業務はとてもあっという間の時間でした。大学3年生で就職活動中であつたこと、自分の将来について模索している時期であつたため、この実習を通して自分は好きなことや興味を持てることを仕事にしていきたいと実感できました。そして、将来について考える上での一つの指針にもなりました。

5日間本当にありがとうございました。

1 入庁から現在まで

私は横浜市の「司書職」として入庁し、今年で9年目となります。入庁して初めての職場は地域図書館に、その後中央図書館に、現在は生涯学習文化財課という市役所の部署にいます。市町村の司書職の仕事の一例をご紹介します。

2 地域図書館

横浜市には、中央図書館と、17の地域図書館があります。初めての配属先は地域図書館の都筑図書館でした。都筑図書館では、レファレンスのカウンター業務、選書業務、おはなし会などのイベント業務などを行いました。レファレンスのカウンター業務では、はじめは、一体どんなことを聞かれるのだろうかとびくびくし、常に司書の先輩のサポートをいただきお答えするという状況でした。しかし自らもしっかりと答えられるようになりたいと考え、郷土のこと、レファレンスツールに関すること、読み聞かせに関することなどについて学び、自己研鑽を重ねました。そうする中で、お客様が求めていらっしゃる情報を提供することができ「聞いてよかった。ありがとう。」と言っていたいた時は、嬉しくやりがいを感じました。

また、都筑図書館では市民の方と協働でイベントを開催しており、夜閉館後の図書館で楽器の演奏や朗読を行う「ライブラリーナイト」というイベントや、郷土に関する講演会・まちあるき等を行いました。市民の方のアイデアや地域の人のつながりによって、新しい試みのイベントを実施することができました。

2 中央図書館

中央図書館では、サービス課という部署で学校連携事業を担当しました。学校連携事業では、学校司書向けの研修、学校の読み聞かせや修理ボランティアの方向けの講座、学校図書館の選書に役立つ情報の発信、学校の児童・生徒向けに おすすめ本のリストの作成等を担当しました。研修や講座で内容を考える際は、現場の学校司書の方やボランティアの方はどのようなことが知りたいか、どのようにしたら伝わるかなどを考え、学校現場の方のご意見を取り入れながら取り組みました。また、本のリストの作成は、地域図書館と中

央図書館の司書が協力して作りますが、そのとりまとめや調整といった業務も行いました。

3 現在

現在、市役所の教育委員会事務局で読書活動推進事業を担当しています。横浜市では、横浜市民読書活動推進計画を策定し、教育委員会、図書館、学校、区役所が連携し読書活動を推進しています。私は、この計画の策定に関する事務や、全市的な読書イベントの担当などを行っています。コロナウイルス感染症で、読書イベントは2年連続中止となりましたが、オンラインで民間事業者等と連携した啓発動画を作成し発信しました。

また、令和元年に、読書バリアフリー法が施行され、横浜市でも今年度より読書バリアフリー法に基づく計画策定に向けた準備がすすめられています。現在、図書館や福祉関係の部署との調整や検討会議の開催のほか、外部の先生からのご意見を聞くための会議の開催を担当しています。

司書職がこういった読書や図書館に関わる市役所の部署に行くこともあります。市役所の仕事に携われる貴重な機会だと感じています。

4 まとめ

私は7年図書館の現場にいましたが、先輩のご指導のおかげでできることが増えてきました。司書の仕事は自らの自己研鑽や経験年数を重ねることによって知識や技術が蓄積され、市民の方の情報ニーズに応えることができ、また後から入ってくる人にその技術等を継承できるやりがいのある仕事だと思います。一方、司書は採用が少なく、就職で悩まれる方もいらっしゃると思います。私もたくさん悩みました。先生や周りの方に相談しながら、図書館で働く司書の方にもお話を伺ってみることもよいかと思っています。陰ながら応援させていただいております。





黒門（平成 22 年復元・神田キャンパス）

学芸員課程



展示実習室（生田キャンパス 2 号館）

企業博物館という領域

紅ミュージアム 学芸員 立川 亜理沙（平成14年度文学研究科歴史学専攻修了）

はじめに

日本には、企業(株式会社等の民間法人)が設立し、運営する展示施設が豊富に存在します。著名な事例を挙げれば、トヨタグループ設立のトヨタ博物館・トヨタ産業技術記念館、JT 設立のたばこと塩の博物館、凸版印刷(株)設立の印刷博物館、花王(株)設立の花王ミュージアム、さらに資生堂企業資料館や東芝未来科学館、ニコンミュージアム、カップヌードルミュージアムなどです。国公立ではない、企業が運営するこれら施設を総称して企業博物館、または企業ミュージアムといい、現行の博物館法に照らせば博物館類似施設に相当します。私が在籍する紅ミュージアムも同様の位置づけにあります。

企業博物館を訪れる契機のひとつに、学校教育の一環で行われる社会科見学があります。工場見学と歴史展示などがセットになった施設へ赴いた経験は、おそらく一定数の方に共通するものでしょう。あるいは子どもの頃、最初に訪れた展示施設が企業博物館だったというケースも少なくないかもしれません。このように、身近な社会教育施設として機能している企業博物館の実態がありながら、学芸員資格課程においてその事例を学ぶことはほぼないというのが実情です。本稿では、学芸員資格を活かせる領域のひとつ、企業博物館について、その一端をご紹介します。

1. 企業博物館の本質と常設展示の狙い

企業博物館の展示には、歴史展示に軸を置くもの、技術館・科学館の要素が強いもの、工場見学のように体験型コンテンツを主とするものなど様々な形態がありますが、いずれの館にも共通して言えることは、設立企業の広報施設であるということです。文化的、社会的な貢献が認められる公益性の高い活動をしていても、設立企業のイメージやブランド価値向上を推進・強化することを第一義とする点は変わりません。それゆえ企業博物館の常設展示（総合展示）には、設立企業の独自性や強みを効果的に演出すること、あるいは同等の効果を見込むことのできる仕掛けが求められます。ただし、展示内容にみる企業色・宣伝色は各館の設立背景により程度差があります。以下、紅ミュージアムを例にこの点について述べることにします。

紅ミュージアムの運営母体である株式会社伊勢半本店は、文政8年（1825）、日本橋小

舟町に紅屋「伊勢屋半右衛門」として創業し、現在は化粧品事業・文化事業・不動産事業を展開する伊勢半グループの中核を成します。紅屋は化粧料（口紅・頬紅）や食品着色料、絵具等に供する「紅」の製造・販売を生業とし、近世には京都を中心に栄えましたが、今日、その事業を維持し存続するのは伊勢半本店のみです。同グループにとって紅屋を祖業とする歴史は企業価値創出の源泉に等しく、紅屋が保有する技術と文化資産を後世に伝えるための展示施設として紅ミュージアムを設立しました。

紅ミュージアムの常設展示の狙いは、「現今唯一の紅屋」という代替の利かない価値と、伊勢半本店が日本における女性用化粧品メーカーとして最古の歴史を持つ企業であることを間接に示すこと、この2点に集約されます。展示室 [Room1] では、古式に則った紅の伝統製法を開示すると共に、原料紅花の流通、紅屋の販売施策、「紅」の文化的所産（信仰・習俗）などを紹介。[Room2] では、日本の化粧史ならびに化粧品産業史を200点超の業界プロダクト（一部、自社製品を含む）と共に通観します。紅屋伊勢半本店の歴史に比重を置かず、総括的な視点で近世の紅屋および紅産業に触れることに努め、また伊勢半グループ製の化粧品はあくまで業界産業史を語る一資料の扱いに留めることで企業色・宣伝色を抑えた展示構成にしています。



紅ミュージアム常設展示室（上：Room1 下：Room2）

2. 企業博物館の運営形態と学芸員の有無

企業博物館の多くは、自社の特定の部署（広報部門や総務部門など）が所管し、本社ビル内や本社以外の自社ビル内、工場敷地内などに併設する形態をとります。運営方法は一般公開、予約制による限定公開、非公開の三形式に大別されます。非公開の場合、来館者は自社社員と顧客（株主や重要な取引先など）に限られ、前者に対しては研修等の内部の教育資源として、後者に対しては密接なコミュニケーションの場として利用することを意図しています。

企業博物館における学芸員の有無に関しては、所管部門の従業員が兼任で学芸員的な役割を担う館もあれば、専任の学芸員を採用している館もあり、その判断は運営企業に委ねられます。傾向として、常設展示を一般公開し、かつ展覧会事業を定期的に企画・実施している企業博物館には専任学芸員が在籍しているケースが多く見受けられます。この場合、一般公募による学芸員採用が主流ですが、社内の学芸員資格所有者を指名、または募るケースもあります。ちなみに、紅ミュージアムには現在私を含め2名の専任学芸員がいますが、いずれも一般公募による採用です。

3. 企業博物館における史資料とその特徴

企業博物館において収集・保管・展示、調査研究の対象となる史資料とは、運営母体である企業の生業やその業界にかかわるモノ（製品）とコト（歴史）です。たとえば製造業であれば、自社の歴代製品や開発ストーリー、製造プロセス、新技術を登載した製品がもたらした社会的変化（生活様式の変化）、製品に伴う販促活動（広告宣伝）などが展示を構成する主要素となります。これらは私益的な自社の広報・PRツールである一方、産業史や技術史、さらには生活史・文化史の変遷をも可視化する、多分野にわたって公益性の高い情報を有する資料という側面を持ちます。そもそも企業活動の所産であるモノ・コトには、時代や社会といった背景が当時性を損なわず如実に投影されているため、長期的かつ継続的な視野で企業が培った産業文化を語り得る効果があります。企業史資料ゆえの特徴ともいえるこの二面性は、企業博物館という「場」が備わることで共存可能となり、展示や体験型コンテンツなどを媒介にして公に還元できる仕組みになっているといえ

るでしょう。それと同時に、企業博物館が展示等を通じて体現するのは、企業アーカイブズの実践でもあります。

企業史資料にはもうひとつ、看過できない特徴があります。それは、企業活動が継続していく限り、収集・保管すべき対象が増え続けていくという現実です。企業史資料は現在進行形で蓄積されているものであり、過去のそれに限定されません。私たちが日々消費し、新たに手にする市場の様々な商品は、歴史的な視座に立てばそれらを生み出した企業を記録し語るモノであり、すなわち企業博物館における収集・保管対象となります。各企業の業態によって収集する史資料の内実は異なるものの、保管にあたっては一製品につき原則3点保管（①自館展示用、②貸出用、③永久保管用）が理想とされています。しかも、当該製品がシリーズ展開をしている場合は、各シリーズにつき3点保管が適用されます。さらにいえば、既存製品に何らかの改良が加えられた場合（パッケージデザインのリニューアルなど）も、つど保管対象として加算されていきます。一企業が年間に生み出す製品の数はその企業活動の規模の大小に拠るとはいえ、国公立の博物館における資料保管の集積ペースを遥かに凌ぐことは想像に難くないでしょう。収蔵庫が有限である以上、自ずと残すべき史資料の選択という問題に直面します。実物資料として優先的に残すべきものの、画像やデータのみで記録保管するものなど、選択基準を見定めることは企業博物館学芸員の重要な職務のひとつです。その際、自社の歴史のみならず、業界史、産業史、経済史、経営史、文化史など多様な視点から最適解を導き出すことが求められます。

おわりに

近年、博物館を取り巻く環境はますます多様化し、その在り方が問われる中であって社会教育施設としての機能を拡充させているのが企業博物館です。いまや企業博物館は、教育・文化振興の原資の一翼を担うと言っても過言ではありません。先にも触れたように、アーカイブズの視点を持つ企業博物館は、価値ある資料を蓄積・研究し、公開・共有し、継承していくことの重要性を正しく認識しています。

以上、基本的なことを述べたに過ぎませんが、これを機に、企業博物館という領域への関心を喚起することに繋がれば幸いです。

私は9月6日、7日と15日から17日の5日間、千葉縣市川市にある郵政博物館資料センターで実習を行いました。今年度は感染症対策のため、東京スカイツリータウン・ソラマチにある展示場ではなく資料が収蔵されている資料センターでの実施となりました。郵政博物館は郵便に関する資料を展示している博物館です。

私は大学で専攻している分野以外の博物館で実習をしたかったため、郵政博物館を選びました。最初は知識が乏しかったため緊張しましたが、学芸員の方々が熱心に教えていただいたのと、他の実習生と協力しながら業務をこなしたことで充実した5日間となりました。実習では収蔵庫の清掃や資料の整理など様々な業務を体験しましたが、ここでは印象に残った2つの業務について紹介したいと思います。

1つ目は、切手の資料整理です。万国郵便連合から送られてくる世界各国の新発行切手を国ごとに分類し、発行年代順にファイリングする作業を班ごとにわかれて行いました。国によって発行枚数が異なるため100枚以上超える国もあれば、1枚のみという地域もありました。切手は国によって多様なデザインや形状のものが存在して、性格や内状を汲み取れるのではないかと思います。また、素材もホログラムが使用されていたりして目で見て楽しむこともできました。この作業はピンセットで行い、切手という性質上くっつきやすく扱うのが大変でしたが、班員同士声を掛け合ったり、他の班がやっている工夫を採用したりすることで作業を終わらせることができました。

2つ目は郷土玩具整理です。郷土玩具は年賀切手のデザインの資料となります。私は4つ玩具の測量と状態の確認を行いました。その中でも印象に残っているのは「のぼりざ

る」と呼ばれる玩具です。これは宮崎県に伝わる玩具で一体の猿の張り子に幟がつけられており、風を受けると棒をつたって登るという仕組みになっています。最初は部品ごとに梱包されていたのと二体の猿の張り子が入っていたため、どのように飾られているのかわからない状態でした。しかし、切手の図やインターネットを利用することで「のぼりざる」の全貌を明らかにすることができました。また、棒の部分が折れていたのと、張り子でできていて非常に壊れやすい状態であったのも調査に時間がかかった要因のひとつと考えられます。玩具は切手同様地域により特色があり、なぜこの素材を使用したのか背景を調べてみるのも面白いと感じました。

博物館の業務は多岐に渡り多忙を極めますが、それを上回る達成感があると感じました。感染症対策のため、展示場で行う事は出来ませんでした。資料の取り扱い、広報の仕事、体験型プログラムなどを学びました。この経験は自分にとって将来を考える機会となり、貴重なものになりました。この体験を踏まえ、学芸員として不足している知識をよりいっそう学びたいと思います。また、これから実習に臨む人、学芸員の資格課程を取るか考えている人の参考に少しでもなれたらと思います。



私は8月19日から25日の期間に、群馬県前橋市の市立美術館である「アーツ前橋」で博物館実習を行わせていただきました。アーツ前橋は前橋市の中心部に位置する現代美術を専門とする館であり、市内唯一の公立美術館でもあります。地域ゆかりの作家の作品を収蔵することを目的として設置され、今では数多くの地域ゆかりの作品と、市民にとって価値のある現代美術作品を収蔵している館です。

今回の実習では、主にアーツ前橋で行っている日々の業務について、講義形式で担当学芸員さんに説明していただきました。アーツ前橋の概要や施設内の温湿度管理、防災設備や収蔵品の収集方針のお話など、アーツ前橋で行う業務のほとんどについて説明を受けました。

その中でも特に印象に残ったのは、アーツ前橋が行っている「地域アートプロジェクト」と「ラーニ



アーツ前橋

ング」というアウトリーチプログラムです。アウトリーチとは「手を伸ばす」という意味であり、ここでは美術館の館外へ出ていく活動のことを指します。美術館の内部で同じような活動を繰り返すだけでは、新しい人に知ってもらうことが難しいですが、外部での活動によって新しいコミュニティと接することで、そこでアーツ前橋を知った人たちが、今度は美術館へ訪れるというインリーチに繋がる仕組みが出来上がります。美術館は展示などの館内での活動が多く、あまり外部での活動を行うイメージが無かったのですが、アーツ前橋では常時複数のアウトリーチプログラムを実施しており、非常に活発に活動を行っていると思いました。実習中、実際に館外との繋がりを実感する場面がありました。4日目に、商店街の中にあるギャラリーと、作家さんが利用する制作スタジオを見学した際、学芸員さんは通りすがった商店街のお店の人と親しげに話をされており、美術館と地

域との関わりの一端を見ることができた印象的な場面でした。

最終日には、総まとめとして「コロナ禍における美術館の活動について」というテーマで発表を行いました。アーツ前橋では現在もコロナの影響が依然として残っています。中でも、作家さんを招致して作品制作を行っていただく際に、作家さん自身が行うリサーチ活動がコロナの影響で実施ができなくなっているという現状を知り、実習の総まとめとしてその解決策を提示しました。発表では美術館の問題だけではなく、学芸員さんの仕事に必要な「人に分かり易く伝える」ということが求められました。学芸員さんはギャラリートークや企画を考える時に、自分の考えを相手に伝えることが非常に重要になってきます。また自分の持つ情報を整理し、分かり易く伝えるということは展示のキャプションにも繋がります。当日、学芸員さんや事務の方の前で発表し、現場で働く方からの貴重な講評を頂くことで、美術館で働く方がどのようなことを考えて業務に当たっているのかを知ることができ、大変勉強になりました。

今回、講義形式のレクチャー以外に、収蔵庫での収蔵品整理やギャラリーの監視業務、アーカイブ整理など、学芸員さんの仕事以外にも、事務の方やサポーターと呼ばれるボランティアの方々が行っているお仕事も体験させていただきました。実習初日にアーツ前橋の副館長さんが仰っていた、館の業務は美術館で働く人全員が同じ志を持って行う必要がある、というお話がとても印象に残っています。学芸員さんがどのような業務を行っているのかを学ぶと共に、美術館全体が一体となって街や社会に貢献していこうとする姿勢を間近で見ることができ、とても充実した博物館実習でした。この実習で学んだことを忘れず、これからも学芸員資格取得に向けて努力を続けていきたいと思えます。



ファイリング資料の整理（本人撮影）



情報コアゾーン（生田キャンパス 10 号館）

データ編



2号館3号館（奥）（生田キャンパス）

令和3年度 教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修者数

教職課程

令和3年5月1日 現在

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済	—	—	16	14	30
		現 代 経 済	9	14	—	—	23
		生 活 環 境 経 済	15	6	—	—	21
		国 際 経 済	11	13	2	3	29
	法	法 律	22	14	22	11	69
		政 治	16	11	5	7	39
	経 営	経 営	6	12	10	5	33
		マ ー ケ テ ィ ン グ	16	10	9	11	46
	商	会 計	3	4	0	3	10
		日 本 語	—	—	16	19	35
	文	日 本 文 学 文 化	23	23	6	21	73
		英 語 英 米 文	25	26	11	18	80
		哲 学	9	12	8	3	32
		歴 史	45	33	21	19	118
	環境	環 境 地 理	13	8	6	6	33
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	—	—	—	9	9
	ネットワーク情報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	22	18	5	8	53
		心 理	1	5	0	0	6
	人 間 科	社 会	12	10	3	5	30
		国 際 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	16	19	—	—	35
	小 計		264	238	140	162	804
二 部	経 済	経 済	—	—	1	4	5
	法	法 律	—	—	4	0	4
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	1	1	2
	小 計		—	—	6	5	11
合 計			264	238	146	167	815
目 等 履 修 生			—	—	—	—	12
大 学 院 生			—	—	—	—	2
総 合 計			264	238	146	167	829

1 4年次には、5年次以上も含む。

2 経営学部ビジネスデザイン学科、文学部ジャーナリズム学科及び国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科は、履修できない。

司書課程

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済	—	—	2	1	3
		現 代 経 済	0	2	—	—	2
		生 活 環 境 経 済	1	0	—	—	1
		国 際 経 済	1	0	2	0	3
	法	法 律	2	0	3	0	5
		政 治	1	3	0	0	4
	経 営	経 営	1	1	3	0	5
		ビ ジ ネ ス デ ザ イ ン	1	1	0	—	2
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	1	1	1	1	4
		会 計	0	0	1	0	1
	文	日 本 語	—	—	2	0	2
		日 本 文 学 文 化	17	19	21	4	61
		英 語 英 米 文	1	2	1	3	7
		哲 学	0	6	4	4	14
	歴史	歴 史	0	12	8	2	22
		環 境 地 理	0	2	0	1	3
	ジャーナリズム	人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	—	—	—	6	6
		ジ ャ ー ナ リ ズ ム	5	5	8	—	18
	ネットワーク情報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	0	2	0	2	4
		心 理	0	2	1	0	3
	人 間 科	社 会	6	2	4	2	14
		日 本 語	3	5	—	—	8
	国際コミュニケーション	異文化コミュニケーション	0	1	—	—	1
	小 計		40	66	61	26	193
二 部	経 済	経 済	—	—	1	1	2
	法	法 律	—	—	2	2	4
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	1	2	3
	小 計		—	—	4	5	9
合 計			40	66	65	31	202
目 等 履 修 生			—	—	—	—	2
大 学 院 生			—	—	—	—	0
総 合 計			40	66	65	31	204

1 4年次には、5年次以上も含む。

司書教諭課程

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済	—	—	0	0	0
		現 代 経 済	0	1	—	—	1
		生 活 環 境 経 済	2	1	—	—	3
		国 際 経 済	0	0	0	0	0
	法	法 律	1	1	1	0	3
		政 治	1	0	0	0	1
	経 営	経 営	2	0	1	0	3
		マ ー ケ テ ィ ン グ	1	1	1	1	4
	商	会 計	0	0	0	0	0
		日 本 語	—	—	1	3	4
	文	日 本 文 学 文 化	10	13	5	3	31
		英 語 英 米 文	2	3	0	1	6
		哲 学	5	4	3	2	14
		歴 史	0	10	3	2	15
	環境	環 境 地 理	1	1	1	1	4
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	—	—	—	0	0
	ネットワーク情報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	0	1	0	1	2
		心 理	0	1	0	0	1
	人 間 科	社 会	0	2	2	1	5
		日 本 語	1	0	—	—	1
	小 計		26	39	18	15	98
二 部	経 済	経 済	—	—	0	1	1
	法	法 律	—	—	0	0	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	0	0	0
	小 計		—	—	0	1	1
合 計			26	39	18	16	99
目 等 履 修 生			—	—	—	—	0
大 学 院 生			—	—	—	—	0
総 合 計			26	39	18	16	99

1 4年次には、5年次以上も含む。

2 経営学部ビジネスデザイン学科、文学部ジャーナリズム学科及び国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科は、履修できない。

学校司書課程

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済	—	—	1	0	1
		現 代 経 済	0	1	—	—	1
		生 活 環 境 経 済	0	0	—	—	0
		国 際 経 済	0	0	0	0	0
	法	法 律	2	0	2	0	4
		政 治	0	1	0	0	1
	経 営	経 営	0	1	1	0	2
		ビ ジ ネ ス デ ザ イ ン	0	1	0	—	1
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	0	0	1	1	2
		会 計	0	0	0	0	0
	文	日 本 語	—	—	1	1	2
		日 本 文 学 文 化	4	9	8	3	24
		英 語 英 米 文	1	0	0	1	2
		哲 学	1	2	1	1	5
		歴 史	0	2	3	1	6
		環 境 地 理	1	2	0	1	4
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	—	—	—	0	0
		ジ ャ ー ナ リ ズ ム	2	2	2	—	6
	ネットワーク情報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	1	0	0	0	1
	人 間 科	心 理	0	1	0	0	1
		社 会	0	1	3	1	5
	国際コミュニケーション	日 本 語	0	2	—	—	2
		異文化コミュニケーション	0	0	—	—	0
	小 計	計	12	25	23	10	70
二 部	経 済	経 済	—	—	0	0	0
	法	法 律	—	—	1	0	1
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	2	0	2
	小 計	計	—	—	3	0	3
合 計			12	25	26	10	73
科 目 等 履 修 生			—	—	—	—	3
大 学 院 生			—	—	—	—	0
総 計			12	25	26	10	76

1 4年次には、5年次以上も含む。

学芸員課程

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済	—	—	1	1	2
		現 代 経 済	0	0	—	—	0
		生 活 環 境 経 済	2	0	—	—	2
		国 際 経 済	0	2	5	0	7
	法	法 律	1	0	0	0	1
		政 治	1	1	2	0	4
	経 営	経 営	1	0	3	0	4
		ビ ジ ネ ス デ ザ イ ン	2	0	0	—	2
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	0	0	0	1	1
		会 計	0	0	0	0	0
	文	日 本 語	—	—	1	0	1
		日 本 文 学 文 化	6	8	6	2	22
		英 語 英 米 文	0	0	0	0	0
		哲 学	7	0	0	1	8
		歴 史	17	29	18	6	70
		環 境 地 理	2	3	1	1	7
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	—	—	—	2	2
		ジ ャ ー ナ リ ズ ム	2	2	4	—	8
	ネットワーク情報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	0	0	1	0	1
	人 間 科	心 理	0	0	1	0	1
		社 会	6	3	3	0	12
	国際コミュニケーション	日 本 語	1	0	—	—	1
		異文化コミュニケーション	0	0	—	—	0
	小 計	計	48	48	46	14	156
二 部	経 済	経 済	—	—	0	0	0
	法	法 律	—	—	1	0	1
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	0	0	0
	小 計	計	—	—	1	0	1
合 計			48	48	47	14	157
科 目 等 履 修 生			—	—	—	—	1
大 学 院 生			—	—	—	—	2
総 計			48	48	47	14	160

1 4年次には、5年次以上も含む。

令和 3 年度 教育職員免許状取得件数

区分	学 部	学 科	取得人数	中学 1 種		高校 1 種		中学専修		高校専修		合 計
				教 科	件 数	教 科	件 数	教 科	件 数	教 科	件 数	
一 部	経 済	経 済	12	社 会	11	地 理 歴 史	8	—	—	—	—	30
		国 際 経 済	2	社 会	0	公 民 業	11	—	—	—	—	3
	法	法 律	10	社 会	4	地 理 歴 史	1	—	—	—	—	21
		政 治	7	社 会	6	公 民 業	2	—	—	—	—	20
	経 営	経 営	4	社 会	2	地 理 歴 史	9	—	—	—	—	6
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	6	社 会	1	公 民 業	0	—	—	—	—	8
		会 計	3	—	—	情 報	0	—	—	—	—	3
	文	日 本 文 学 語	16	国 語	14	地 理 歴 史	2	—	—	—	—	30
		日 本 文 学 文 化	18	国 語	9	公 民 業	1	—	—	—	—	30
		英 語 英 米 文	16	外国語(英語)	11	地 理 歴 史	3	—	—	—	—	27
		哲 学	3	社 会	2	公 民 業	0	—	—	—	—	8
		歴 史	17	社 会	15	地 理 歴 史	3	—	—	—	—	46
		環 境 地 理	6	社 会	6	公 民 業	14	—	—	—	—	14
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	9	社 会	6	地 理 歴 史	6	—	—	—	—	17
	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	7	数 学	5	公 民 業	5	—	—	—	—	12
	人 間 科	心 理	0	社 会	0	数 学	4	—	—	—	—	0
		社 会	5	社 会	3	情 報	3	—	—	—	—	10
	小 計		141	—	95	—	190	—	—	—	—	285
二 部	経 済	経 済	3	社 会	2	地 理 歴 史	1	—	—	—	—	6
	法	法 律	0	社 会	0	公 民 業	3	—	—	—	—	0
		マ ー ケ テ ィ ン グ	1	社 会	1	商 業	0	—	—	—	—	2
	小 計		4	—	3	—	5	—	—	—	—	8
	科 目 等 履 修 生		6	国 語	1	国 語	1	—	—	—	—	10
				外国語(英語)	1	書 道	0					
				社 会	3	地 理 歴 史	0					
				数 学	0	公 民 業	2					
	小 計		6	—	5	—	5	—	—	—	—	10
	大 学 院 生		1	—	—	—	—	国 語	0	国 語	1	1
				—	—	—	—	外国語(英語)	0	外国語(英語)	0	
				—	—	—	—	社 会	0	地 理 歴 史	0	
				—	—	—	—	—	0	公 民 業	0	
	小 計		1	—	—	—	—	—	0	情 報	0	1
	合 計		152	—	103	—	200	—	0	—	1	304

この表は、教員免許状一括申請をした数である。

令和 3 年度 司書・司書教諭・学校司書・学芸員資格単位取得者数

区分	学 部	学 科	司 書	司 書 教 諭	学 校 司 書	学 芸 員
一 部	経 済	経 済	1	0	0	0
		国 際 経 済	0	0	0	0
	法	法 律	1	0	0	0
		政 治	0	0	0	0
	経 営	経 営	0	0	0	1
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	0	1	1	1
		会 計	0	0	0	0
	文	日 本 文 学 語	6	3	3	2
		日 本 文 学 文 化	25	3	9	3
		英 語 英 米 文	1	0	1	1
		哲 学	5	1	3	2
		歴 史	0	1	0	17
		環 境 地 理	0	0	0	2
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	9	1	2	6
	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	3	0	0	0
	人 間 科	心 理	0	0	0	0
社 会		3	0	1	1	
小 計			54	10	20	36
二 部	経 済	経 済	0	1	0	0
	法	法 律	3	0	1	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	2	0	0	0
	小 計		5	1	1	0
科 目 等 履 修 生			1	0	1	0
大 学 院 生			0	0	0	2
合 計			60	11	22	38

令和 3 年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生		
				学 部	学 科	専 攻
北海道・東北	宮城県	名取市立第二中学校	社会	文	人・ジャーナリズム	
	山形県	山形県立村山産業高等学校	商業	経営	経営	
	山形県	日本大学山形高等学校	国語	文	日本文学文化	
	福島県	福島県立福島東高等学校	国語	文	日本語	
	福島県	福島県立安積黎明高等学校	英語	文	英語英米文	
	福島県	福島県立あさか開成高等学校	英語	文	英語英米文	
関東	茨城県	茨城県立勝田高等学校	地理歴史	経済	経済	
	茨城県	水城高等学校	地理歴史	文	歴史	
	茨城県	石岡市立八郷中学校	社会	人間科	社会	
	栃木県	宇都宮短期大学附属高等学校	公民	経済	経済	
	栃木県	宇都宮市立星が丘中学校	社会	文	人・ジャーナリズム	
	群馬県	太田市立藪塚本町中学校	社会	経済	経済	
	群馬県	東京農業大学第二高等学校	英語	文	英語英米文	
	群馬県	館林市立第三中学校	英語	文	英語英米文	
	群馬県	群馬県立渋川女子高等学校	英語	文	英語英米文	
	群馬県	渋川市立津久田小学校	全科	文	英語英米文	
	群馬県	南牧村立南牧中学校	英語	文	英語英米文	
	埼玉県	川越市立川越第一中学校	国語	文	日本語	
	埼玉県	観明高等学校	国語	文	日本文学文化	
	埼玉県	埼玉県立本庄高等学校	国語	文	日本文学文化	
	埼玉県	埼玉栄高等学校	国語	文	日本文学文化	
	埼玉県	埼玉県立越谷北高等学校	書道	文	日本文学文化	
	埼玉県	クラーク記念国際高等学校さいたまキャンパス	英語	文	英語英米文	
	埼玉県	淑徳与野中学・高等学校	英語	文	英語英米文	
	埼玉県	吉川市立南中学校	社会	文	歴史	
	埼玉県	埼玉県立不動岡高等学校	地理歴史	文	歴史	
	埼玉県	秩父市立影森中学校	社会	文	歴史	
	埼玉県	さいたま市立植水中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	埼玉県	さいたま市立岩槻中学校	社会	人間科	社会	
	千葉県	鴨川市立長狭中学校	社会	経済	経済	
	千葉県	浦安市立堀江中学校	社会	経営	経営	
	千葉県	習志野市立第七中学校	国語	文	日本語	

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生		
				学 部	学 科	専 攻
関東	千葉県	千葉黎明高等学校	書道	文	日本文学文化	
	千葉県	銚子市立銚子高等学校	英語	文	英語英米文	
	千葉県	千葉市立松ヶ丘中学校	英語	文	英語英米文	
	千葉県	千葉市立みつわ台中学校	社会	文	歴史	
	千葉県	松戸市立六実中学校	社会	文	歴史	
	千葉県	千葉県立松戸国際高等学校	地理歴史	文	環境地理	
	千葉県	千葉県立柏の葉高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	経済	
	東京都	町田市立薬師中学校	社会	経済	経済	
	東京都	東京都立大田桜台高等学校	商業	経営	経営	
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経営	経営	
	東京都	東京都立小川高等学校	国語	文	日本語	
	東京都	東京高等学校	国語	文	日本語	
	東京都	東京都立小平南高等学校	国語	文	日本語	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本語	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	関東国際高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	東京都立新島高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	葛飾区立亀有中学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	錦城高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	大田区立田園調布中学校	社会	文	哲	
	東京都	朋優学院高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	千代田区立九段中等教育学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	東京都立狛江高等学校	地理歴史(日史)	文	歴史	
	東京都	修徳高等学校	地理歴史・公民	文	歴史	
	東京都	板橋区立西台中学校	社会	文	環境地理	
	東京都	江戸川区立小岩第五中学校	社会	文	環境地理	
	東京都	安田学園中学校・高等学校	地理歴史	文	人・ジャーナリズム	
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	文	人・ジャーナリズム	
	東京都	国分寺市立第一中学校	社会	人間科	社会	
	神奈川県	茅ヶ崎市立鶴嶺中学校	社会	経済	経済	

令和 3 年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生		
				学 部	学 科	専 攻
関 東	神奈川県	伊勢原市立成瀬中学校	社会	経済	経済	
	神奈川県	神奈川大学附属中・高等学校	公民	経済	国際経済	
	神奈川県	湘南工科大学附属高等学校	地理歴史・公民	経済	国際経済	
	神奈川県	横浜市立洋光台第二中学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	神奈川県立大和西高等学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	横浜翠陵中学・高等学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	神奈川県立鶴嶺高等学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	神奈川県立大磯高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	秦野市立西中学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	横浜市立十日市場中学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立麻溝台高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立岸根高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	川崎市立橘高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立横浜平沼高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立橋本高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立相模原高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	海老名市立柏ヶ谷中学校	社会	文	哲	
	神奈川県	神奈川県立生田東高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立有馬高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立横浜水取沢高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立松陽高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	横浜創英中学・高等学校	社会・地理歴史	文	環境地理	
	神奈川県	横浜隼人高等学校	地理歴史	文	人・ジャーナリズム	
	神奈川県	神奈川県立瀬谷高等学校	公民	文	人・ジャーナリズム	
	神奈川県	神奈川県立座間高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	鶴見大学附属高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	横浜創英中学・高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	横浜市立南瀬谷中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	横浜市立日吉台西中学校	社会	人間科	社会	
	神奈川県	神奈川県立大和高等学校	公民	人間科	社会	

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生		
				学 部	学 科	専 攻
甲 信 越	新潟県	柏崎市立第三中学校	社会	経済	経済	
	新潟県	柏崎市立第三中学校	国語	文	日本語	
	新潟県	新潟県立津南中等教育学校	地理歴史	文	歴史	
	山梨県	富士吉田市立明見中学校	社会	経済	経済	
	山梨県	山梨学院高等学校	地理歴史	文	環境地理	
	長野県	長野県伊那弥生ヶ丘高等学校	国語	文	日本文学文化	
	長野県	長野県岡谷南高等学校	国語	文	日本文学文化	
	長野県	長野市立更北中学校	社会	文	歴史	
	長野県	長野県岡谷南高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	福井県	福井県立高志高等学校	国語	文	日本語	
北 陸	岐阜県	岐阜県立恵那高等学校	国語	文	日本文学文化	
	岐阜県	岐阜県立多治見高等学校	地理歴史・公民	文	哲	
	静岡県	常葉大学附属菊川中・高等学校	社会・公民	経済	経済	
	静岡県	藤枝明誠高等学校	公民	経営	経営	
	静岡県	御殿場市立御殿場中学校	国語	文	日本語	
	静岡県	静岡県立下田高等学校	地理歴史	文	歴史	
	静岡県	静岡県立清水東高等学校	地理歴史 (日本史)	文	歴史	
	静岡県	不二聖心女子学院高等学校	地理歴史	文	環境地理	
	静岡県	島田市立六合中学校	社会	文	人・ジャーナリズム	
	三重県	高田高等学校	国語	文	日本文学文化	
中 国	山口県	山口県立徳山高等学校	地理歴史	経済	経済	
	山口県	光市立光井中学校	社会	経済	経済	
四 国	高知県	高知県立高知東高等学校	地理歴史	文	人・ジャーナリズム	
九 州 ・ 沖 縄	福岡県	希望が丘高等学校	国語	文	日本文学文化	
	長崎県	西海学園高等学校	地理歴史	文	人・ジャーナリズム	
	熊本県	専修大学玉名高等学校	国語	文	日本語	
	鹿児島県	奄美市立笠利中学校	国語	文	日本語	

令和 3 年度 教育実習先一覧（一部神田）

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生	
				学 部	学 科
北海道 東北	青森県	青森県立弘前実業高等学校	地理歴史	商	マーケティング
	宮城県	仙台育英学園高等学校	公民	法	政治
関東 東北	栃木県	那須烏山市立南那須中学校	社会	法	政治
	埼玉県	浦和実業学園高等学校	公民	法	法律
	埼玉県	埼玉県立所沢商業高等学校	商業	商	会計
	千葉県	船橋市立二宮中学校	社会	法	法律
	千葉県	千葉県立柏南高等学校	地理歴史	法	法律
	千葉県	千葉県立東金商業高等学校	商業	商	マーケティング
	東京都	稲城市立稲城第二中学校	社会	法	法律
	東京都	東京都立狛江高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	法	法律
	東京都	昭和第一学園高等学校	地理歴史	法	政治
	東京都	豊島学院高等学校	公民	法	政治

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生	
				学 部	学 科
関東 東海	神奈川県	神奈川県立伊志田高等学校	地理歴史	法	法律
	神奈川県	神奈川県立藤沢清流高等学校	地理歴史	法	政治
	神奈川県	神奈川県立住吉高等学校	公民	法	政治
	神奈川県	横浜市立根岸中学校	社会	商	マーケティング
	神奈川県	横浜市立六角橋中学校	社会	商	マーケティング
	神奈川県	神奈川県立平塚農商高等学校	商業	商	会計
甲信越	山梨県	日本航空高等学校	公民	法	法律
	山梨県	山梨県立都留高等学校	公民	商	マーケティング
東海	静岡県	浜松市立三ヶ日中学校	社会	商	マーケティング
	静岡県	静岡県立沼津商業高等学校	商業	商	会計
四国	高知県	高知県立高知小津高等学校	地理歴史	法	政治
九州・沖縄	佐賀県	佐賀県立佐賀商業高等学校	地理歴史	法	法律
	熊本県	専修大学玉名高等学校	商業	商	マーケティング
	沖縄県	沖縄県立浦添高等学校	公民	商	マーケティング

令和 3 年度 教育実習先一覧（二部神田）

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生	
				学 部	学 科
関東 東北	群馬県	群馬県立西邑楽高等学校	公民	科目等履修生	
	千葉県	千葉県立富里高等学校	公民	経済	経済
	千葉県	千葉市立有吉中学校	社会	商	マーケティング
	東京都	東京都立永山高等学校	地理歴史	経済	経済
	神奈川県	神奈川県立川崎高等学校	地理歴史	経済	経済

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生	
				学 部	学 科
関東 北陸	神奈川県	秦野市立北中学校	英語	科目等履修生	
	神奈川県	神奈川県立海老名高等学校	情報	科目等履修生	
	神奈川県	神奈川県立金沢総合高等学校	地理歴史	科目等履修生	
北陸	石川県	石川県立野々市明倫高等学校	国語	科目等履修生	

令和 3 年度 図書館実習先一覧

	所在地	実 習 館 名	実 習 学 生		
			学 部	学 科	専 攻
関東	神奈川県	専修大学図書館	経営	経営	
	神奈川県	専修大学図書館	人間科	社会	

令和 3 年度 博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実 習 館 名	実 習 学 生		
			学 部	学 科	専 攻
北海道・東北	宮城県	東北歴史博物館	文	歴史	
関東	栃木県	栃木県立博物館	文	日本文学文化	
	群馬県	アーツ前橋	文	ジャーナリズム	
	埼玉県	春日部市郷土資料館	法	政治	
	埼玉県	富士見市立難波田城資料館	経営	経営	
	埼玉県	浦和くらしの博物館民家園	文	歴史	
	埼玉県	埼玉県立川の博物館	文	歴史	
	埼玉県	八潮市立資料館	文	歴史	
	埼玉県	行田市郷土博物館	文	歴史	
	埼玉県	埼玉県立さきたま史跡の博物館	文学研究科		歴史学
	埼玉県	蓮田市文化財展示館	科目等履修生		
	千葉県	千葉県立関宿城博物館	経済	国際経済	
	千葉県	郵政博物館資料センター	文	歴史	
	千葉県	館山市立博物館	文	歴史	
	千葉県	野田市郷土博物館	文学研究科		歴史学
	東京都	物流博物館	経済	国際経済	
	東京都	昭和のくらし博物館	経営	経営	
	東京都	青梅きもの博物館	文	日本語	
	東京都	日本民藝館	文	日本文学文化	
	東京都	東京富士美術館	文	日本文学文化	
	東京都	日本カメラ博物館	文	日本文学文化	
	東京都	渋谷区立松濤美術館	文	哲	
	東京都	町田市立自由民権資料館	文	歴史	
	東京都	進化生物学研究所	文	歴史	

	所在地	実 習 館 名	実 習 学 生		
			学 部	学 科	専 攻
関東	東京都	古代オリエント博物館	文	歴史	
	東京都	東京都恩賜上野動物園	文	歴史	
	東京都	進化生物学研究所	文	歴史	
	東京都	野球殿堂博物館	文	歴史	
	東京都	立川市歴史民俗資料館	文	歴史	
	東京都	板橋区立郷土資料館	文	歴史	
	東京都	葛飾区郷土と天文の博物館	文	歴史	
	東京都	進化生物学研究所	文	歴史	
	東京都	家具の博物館	文	環境地理	
	東京都	地下鉄博物館	人間科	社会	
	神奈川県	雪印こどもの国牧場	経済	国際経済	
	神奈川県	平塚市博物館	経営	経営	
	神奈川県	川崎市立日本民家園	文	歴史	
	神奈川県	遊行寺宝物館	文	歴史	
	神奈川県	相模川ふれあい科学館 アクアリウムさがみはら	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立大船フラワーセンター	文	環境地理	
	神奈川県	シルク博物館	人間科	社会	
甲信越	新潟県	新潟市歴史博物館（みなとびあ）	文	歴史	
	新潟県	せきかわ歴史とみちの館	文	歴史	
	山梨県	山梨県立美術館	人間科	社会	
東海	静岡県	掛川市二の丸美術館	文	日本文学文化	
	静岡県	三島市郷土資料館	文	歴史	
	静岡県	静岡市立登呂博物館	人間科	心理	
中国	広島県	広島市江波山気象館	文	ジャーナリズム	

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成29年度	平23 経済・経済	川崎市教育委員会	専 任	全 科
	平23 経済・経済	東京都教育委員会	期 限 付 任	地 理 歴 史
	平27 経済・経済	福井県立武生商業高等学校	専 任	社 会 科
	平28 経済・経済	市川市立第五中学校	専 任	地 理 歴 史
	平28 経済・経済	調布市立第三中学校	専 任	社 会 科
	平28 経済・経済	神奈川県立商工高等学校	期 限 付 任	地理歴史・公民
	平29 経済・経済	相模原市立東林中学校	専 任	社 会 科
	平29 経済・経済	藤沢市立湘南台中学校	臨時的任用	社 会 科
	平29 経済・経済	学校法人上野塾（東京実業高等学校）	非 常 勤	商 業 科
	平22 経済・国際経済	北区立桐ヶ丘中学校	専 任	商 業 科
	平25 法・法律	足立区立東洲江小学校	専 任	全 科
	平26 法・法律	川崎市教育委員会	専 任	社 会 科
	平22 法・政治	学校法人八洲学園（福岡女子商業高等学校）	専 任	商 業 科
	平29 法・政治	静岡県立御殿場高等学校	専 任	公 民 科
	平26 経営・経営	大磯町立大磯中学校	専 任	社 会 科
	平29 経営・経営	岐阜市立岐阜商業高等学校	専 任	商 業 科
	平28 商・マーケティング	学校法人国際学園（星槎国際高等学校（湘南学習センター））	常 勤	情 報 科
	平29 商・マーケティング	学校法人調布学園（田園調布学園中等部・高等部）	専 任	情 報 科
	平29 商・マーケティング	学校法人三島学園（東北生活文化大学高等学校）	常 勤	商 業 科
	平29 商・会計	東京都立千早高等学校	専 任	商 業 科
	平29 商・会計	神奈川県立厚木商業高等学校	専 任	商 業 科
	平29 商・会計	茨城県立磯原郷英高等学校	常 勤	商 業 科
	平23 文・日本語日本文	神奈川県教育委員会	専 任	全 科
	平29 文・日本語	学校法人翔光学園（横浜創学館高等学校）	常 勤	国 語 科
	平29 文・日本語	船橋市立葛飾中学校	常 勤	国 語 科
	平29 文・日本語	江戸川区立南葛西中学校	期 限 付 任	国 語 科
	平29 文・日本語	学校法人松葉学園（焼津高等学校）	常 勤	国 語 科
	平29 文・日本語	神奈川県立磯子高等学校	臨時的任用	国 語 科
	平29 文・日本語	南部町立南部中学校	期 間 採 用	国 語 科
	平26 文・日本文学文化	菊池市立隈府小学校	専 任	全 科
	平29 文・日本文学文化	神奈川県立新羽高等学校	臨時的任用	国 語 科
	平29 文・日本文学文化	学校法人大谷学園（横浜隼人中学・高等学校）	非 常 勤	国 語 科
	平29 文・日本文学文化	長野県伊那北高等学校	専 任	国 語 科
	平29 文・日本文学文化	神奈川県立白山高等学校	専 任	国 語 科
	平29 文・日本文学文化	長野県諏訪実業高等学校	専 任	国 語 科
	平25 文・英語英米文	神奈川県教育委員会	専 任	英 語 科
	平27 文・英語英米文	さいたま市立原山中学校	専 任	英 語 科
	平27 文・英語英米文	東京都立葛飾商業高等学校	専 任	英 語 科
	平27 文・英語英米文	学校法人堀越学園（堀越高等学校）	専 任	英 語 科
	平28 文・英語英米文	神奈川県立二宮高等学校	専 任	英 語 科
	平28 文・英語英米文	学校法人日本体育大学（日本体育大学荏原高等学校）	常 勤	英 語 科
	平29 文・英語英米文	川崎市立高津中学校	臨時的任用	英 語 科
	平29 文・英語英米文	大和市立上和田中学校	臨時的任用	英 語 科
	平29 文・英語英米文	学校法人武陽学園（西武台新座中学校・西武台高等学校）	非 常 勤	英 語 科
	平29 文・哲	神奈川県立相模原総合高等学校	専 任	公 民 科
	平26 文・歴史	千葉県立大網高等学校	常 勤	地理歴史・公民
	平29 文・歴史	小千谷市立総合支援学校	常 勤	社会・地理歴史・公民
	平29 文・歴史	学校法人東海大学（東海大学付属浦安高等学校・中等部）	特 任	社 会 科
	平29 文・歴史	神奈川県立平塚湘風高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平29 文・歴史	藤沢市立大庭中学校	臨時的任用	特 別 支 援
	平29 文・歴史	学校法人聖パウロ学園（聖パウロ学園高等学校）	常 勤	地理歴史・公民
	平29 文・歴史	学校法人総持学園（鶴見大学附属中学校・高等学校）	非 常 勤	社会・地理歴史・公民
	平29 文・歴史	学校法人常葉学園（常葉学園橘中学校・高等学校）	常 勤	社会・地理歴史・公民
	平29 文・歴史	学校法人明昭学園（岩倉高等学校）	非 常 勤	地理歴史・公民
	平29 文・歴史	神奈川県立伊勢原高等学校	臨時的任用	地 理 歴 史
	平29 文・環境地理	美郷町立西郷中学校	常 勤	社 会 科
	平29 文・環境地理	相模原市立大沢中学校	常 勤	社会・特別支援
	平29 文・環境地理	江東区立数矢小学校	専 任	全 科
	平29 文・人文・ジャーナリズム	山梨県立甲府昭和高等学校	専 任	公 民 科
	平24 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人玉川学園（玉川学園中学部・高等部）	専 任	数 学 科
	平29 ネットワーク情報・ネットワーク情報	茨城県立真壁高等学校	非 常 勤	数 学 科
	平29 院文・修士	静岡県立御殿場南高等学校	専 任	国 語 科
	平29 院文・修士	神奈川県立鶴見高等学校	臨時的任用	英 語 科
平成30年度	平25 経済・経済	練馬区立中村小学校	専 任	全 科
	平28 経済・経済	横浜市立小坪小学校	専 任	全 科
	平28 経済・経済	神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平30 経済・経済	藤沢市立秋葉台中学校	非 常 勤	社 会 科
	平30 経済・経済	北九州市立木屋瀬小学校	常 勤	全 科
	平30 経済・経済	学校法人昭和第一学園（昭和第一学園高等学校）	非 常 勤	地 理 歴 史
	平26 法・法律	学校法人角川ドワンゴ学園（N 高等学校）	専 任	地理歴史・公民
	平26 法・法律	木更津市立馬来田小学校	専 任	全 科
	平27 法・法律	山梨大学附属小学校	専 任	特 別 支 援
	平28 法・政治	松戸市立第一中学校	専 任	社 会 科
	平30 法・政治	東京都立新宿山吹高等学校	専 任	公 民 科
	平30 法・政治	神奈川県立川崎高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平28 経営・経営	川崎市立高津中学校	専 任	社 会 科
	平30 経営・経営	岐阜県立岐阜城北高等学校	常 勤	商 業 科
	平30 経営・経営	神奈川県立小田原東高等学校	臨時的任用	商 業 科
	平30 経営・経営	清川村立緑中学校	臨時的任用	社 会 科
	平27 商・マーケティング	西東京市立向台小学校	臨時的任用	全 科
	平28 商・マーケティング	山梨県立塩山高等学校	専 任	商 業 科
	平29 商・マーケティング	学校法人上野塾（東京実業高等学校）	非 常 勤	社 会 科
		大田区立志茂田中学校		
		目黒区立東山中学校		

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成30年度	平30 商・マーケティング	学校法人京華学園（京華商業高等学校）	非常勤	商業
	平30 商・マーケティング	学校法人安部学院（安部学院高等学校）	専任	商業
	平30 商・会計	茨城県立土浦第三高等学校	専任	商業
	平30 商・会計	岐阜県立岐阜各務野高等学校	常勤	商業
	平22 文・日本語日本文	東京都教育委員会	専任	国語
	平27 文・日本語	新島村立式根島小学校	専任	全科
	平28 文・日本語	綾瀬市立北の台中学校	専任	国語
	平29 文・日本語	江戸川区立南葛西中学校	専任	国語
	平30 文・日本語	学校法人高松学園（飯田女子高等学校）	非常勤	国語
	平30 文・日本語	相模原市立東林中学校	非常勤	国語
	平30 文・日本語	学校法人武蔵野学院（武蔵野中学高等学校）	常勤	国語
	平30 文・日本語	神奈川県立伊勢原高等学校	期限付任用	国語
	平30 文・日本語	学校法人駿台甲府学園（駿台甲府学園中学校・高等学校）	期限付任用	国語
	平30 文・日本語	松田町立松田中学校	専任	国語
	平30 文・日本語	千葉県立松戸馬橋高等学校	期限付任用	国語
	平30 文・日本語	多摩市立青陵中学校	臨時的任用	国語
	平30 文・日本文学文化	学校法人横浜学院（横浜女学院中学・高等学校）	常勤	国語
	平30 文・日本文学文化	埼玉県立小川高等学校	常勤	国語
	平28 文・英語英米文	川崎市立大師中学校	専任	英語
	平30 文・英語英米文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常勤	英語
	平30 文・英語英米文	横浜市立鶴見中学校	臨時的任用	英語
	平30 文・英語英米文	大田区立蓮沼中学校	臨時的任用	英語
	平30 文・英語英米文	横浜市立田奈中学校	臨時的任用	英語
	平30 文・英語英米文	学校法人タイケン国際学園（日本ウェルネス高等学校・東京キャンパス）	専任	英語
	平30 文・英語英米文	市原市立ちはら台西中学校	専任	英語
	平30 文・英語英米文	神奈川県立綾瀬高等学校	専任	英語
	平28 文・哲	新発田市立外ヶ輪小学校	専任	全科
	平28 文・哲	新潟県立高田特別支援学校	専任	社会
	平30 文・哲	常総市立菅生小学校	非常勤	全科
	平28 文・歴史	学校法人日本体育大学（日本体育大学柏高等学校）	非常勤	地理歴史
	平30 文・歴史	千葉県立八千代西高等学校	非常勤	地理歴史
	平30 文・歴史	学校法人富士学園（静岡県富士見高等学校）	非常勤	地理歴史・公民
	平30 文・歴史	学校法人世田谷学園（世田谷学園中学校・高等学校）	非常勤	地理歴史・公民
	平30 文・歴史	神奈川県立七里ヶ浜高等学校	非常勤	地理歴史
	平30 文・歴史	東京文理学院高等部	非常勤	地理歴史・公民
	平30 文・歴史	栃木県立鹿沼高等学校	非常勤	地理歴史
	平30 文・歴史	群馬県立館林商工高等学校	常勤	地理歴史・公民
	平30 文・歴史	江戸川区立瑞江中学校	専任	社会
	平30 文・歴史	愛川町立愛川中原中学校	専任	社会
	平30 文・環境地理	糸魚川市立糸魚川小学校	常勤	全科
	平27 文・人文ジャーナリズム	川崎市立田島支援学校 桜校	専任	特別支援
	平19 ネットワーク情報・ネットワーク情報	東京都教育委員会	専任	数学
	平26 ネットワーク情報・ネットワーク情報	西伊豆町立西伊豆中学校	臨時的任用	数学
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	練馬区立大泉学園中学校	専任	数学
	平29 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人大妻学院（大妻多摩中学高等学校）	非常勤	数学
	平30 ネットワーク情報・ネットワーク情報	山梨県教育委員会	期限付任用	数学
	平30 人間科・心理	香取市立栗源中学校	常勤	社会
	平29 院文・修士	上田市立第六中学校	臨時的任用	国語
	平30 院文・修士	川崎市立京町中学校	非常勤	国語
	平30 院文・修士	福島県立磐城高等学校	常勤	英語
	平29 院文・博士	学校法人成蹊学園（成蹊高等学校）	非常勤	地理歴史
令和元年（平成31年度）	平28 経済・経済	神奈川県立生田高等学校	専任	地理歴史
	平30 経済・経済	学校法人緑丘学園（水戸英宏小学校）	常勤	全科
	平30 経済・経済	逗子市立沼間中学校	専任	社会
	平31 経済・経済	神奈川県立金谷高等学校	非常勤	公民
	平31 経済・経済	藤沢市立白浜養護学校	常勤	特別支援
	平31 経済・経済	江東区立元加賀小学校	臨時的任用	全科
	平28 経済・国際経済	学校法人小野学園（小野学園小学校）	専任	全科
	平31 経済・国際経済	学校法人武蔵野学院（武蔵野中学高等学校）	専任	社会・地理歴史・公民
	平31 経済・国際経済	学校法人いわき秀英学園（いわき秀英中学校・高等学校）	常勤	社会・地理歴史・公民
	平17 法・法律	豊島区立南池袋小学校	専任	全科
	平27 法・法律	埼玉県立秩父高等学校	専任	公民
	平28 法・法律	船橋市立丸山小学校	専任	全科
	平29 法・法律	江戸川区立小岩第五中学校	専任	英語
	平31 法・法律	学校法人横浜商科大学高等学校（横浜商科大学高等学校）	非常勤	地理歴史・公民
	平31 法・法律	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非常勤	地理歴史
	平31 法・法律	神奈川県立大船高等学校	期限付	地理歴史
	平31 法・法律	中野区立江原小学校	専任	全科
	平31 経営・経営	学校法人大分高等学校（大分高等学校）	非常勤	商業
	平31 経営・経営	中津川市立神坂中学校	専任	社会
	平22 商・マーケティング	山口県立宇部商業高等学校	専任	商業
	平27 商・マーケティング	市原市立若葉中学校	専任	社会
	平27 商・マーケティング	西東京市立向台小学校	専任	全科
	平29 商・マーケティング	大田区立志茂田中学校	非常勤	社会
	平30 商・マーケティング	大島町立第二中学校	専任	体育
	平31 商・マーケティング	茨城県立石岡商業高等学校	非常勤	商業
	平31 商・マーケティング	川崎市立白鳥中学校	非常勤	社会
	平31 商・マーケティング	岐阜県立土岐商業高等学校	非常勤	商業
	平31 商・マーケティング	学校法人玉名学園（専修大学玉名高等学校）	非常勤	地理歴史・公民
	平31 商・マーケティング	学校法人安部学院（安部学院高等学校）	専任	商業
	平24 商・会計	東京都立五日市高等学校	専任	商業
	平31 商・会計	高知県立清水高等学校	常勤	商業

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
令和元年度（平成31年度）	平28 文・日本語	大和市立引地台中学校	専任	国語
	平29 文・日本語	神奈川県立横浜明朋高等学校	専任	国語
	平29 文・日本語	南アルプス市立白根御勅使中学校	専任	国語
	平30 文・日本語	町田市立小山中学校	専任	国語
	平31 文・日本語	学校法人長野家政学園（長野女子高等学校）	常勤	国語
	平31 文・日本語	学校法人武蔵野学院（武蔵野中学高等学校）	専任	国語
	平31 文・日本語	学校法人白鵬女子学院（白鵬女子高等学校）	常勤	国語
	平31 文・日本語	神奈川県立横浜桜陽高等学校	専任	国語
	平31 文・日本語	埼玉県立朝霞高等学校（定時制）	専任	国語
	平28 文・日本文学文化	川崎市立白鳥中学校	専任	国語
	平31 文・日本文学文化	学校法人瀧野川女子学園（瀧野川女子学園中学高等学校）	専任	国語
	平31 文・日本文学文化	学校法人明德学園（相洋高等学校）	非常勤	国語
	平31 文・日本文学文化	葉山町立葉山中学校	専任	国語
	平31 文・日本文学文化	常総市立水海道西中学校	常勤	国語
	平27 文・英語英米文	学校法人立花学園（立花学園高等学校）	専任	英語
	平29 文・英語英米文	大田区立清水窪小学校	専任	全教科
	平30 文・英語英米文	東京都教育委員会	専任	英語
	平30 文・英語英米文	神奈川県立大井高等学校	専任	英語
	平31 文・英語英米文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常勤	英語
	平31 文・英語英米文	神奈川県立弥栄高等学校	臨時的任用	英語
	平31 文・英語英米文	学校法人関東国際学園（関東国際高等学校）	常勤（期限付）	英語
	平31 文・英語英米文	学校法人東駿学園（御殿場西高等学校）	常勤	英語
	平31 文・英語英米文	神奈川県立城山高等学校	専任	英語
	平30 文・哲	板橋区立富士見台小学校	専任	全教科
	平30 文・哲	坂東市立岩井第二小学校	専任	全教科
	平31 文・哲	渋谷区立千駄谷小学校	専任	全教科
	平31 文・哲	学校法人常盤大学（智学館中等教育学校）	常勤	社会・地理歴史・公民
	平31 文・哲	横浜市立浦島丘中学校	専任	社会
	平29 文・歴史	千葉県立都賀中学校	専任	社会
	平30 文・歴史	学校法人日本体育大学（日本体育大学荏原高等学校）	非常勤	社会・地理歴史・公民
	平30 文・歴史	学校法人戸坂学園（三田国際学園中学校）	非常勤	社会・地理歴史・公民
	平30 文・歴史	千葉県立市川高等学校	非常勤	公民
	平31 文・歴史	東京都立足立特別支援学校	期限付	特別支援
	平31 文・歴史	横浜市立金利谷中学校	専任	社会
	平31 文・歴史	千葉県立津田沼高等学校	非常勤	地理歴史・公民
	平31 文・歴史	射水市立新湊中学校	専任	社会
	平31 文・歴史	豊橋市立高豊中学校	非常勤	社会
	平26 ネットワーク情報・ネットワーク情報	島田市立金谷中学校	専任	数学科
	平30 ネットワーク情報・ネットワーク情報	厚木市立清水小学校	臨時的任用	全教科
	平31 院文・修士	学校法人芝浦工業大学（芝浦工業大学柏中学校・高等学校）	常勤	国語
	平31 院文・修士	学校法人光明学園（相模原高等学校）	専任	英語
令和2年度	令2 経済・経済	長崎県立島原特別支援学校	非常勤	特別支援
	令2 経済・経済	川崎市立生田中学校	非常勤	特別支援
	令2 経済・国際経済	神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校	非常勤	地理歴史
	平27 法・法律	山梨県立わかば支援学校	専任	特別支援
	平30 法・法律	牛久市立ひたち野うしく中学校	専任	社会
	平30 法・法律	あきる野市立増戸小学校	専任	全教科
	令2 法・法律	熊谷市立三尻中学校	臨時的任用	社会
	令2 法・法律	焼津市立小川中学校	非常勤	社会
	平29 法・政治	東京都立紅葉川高等学校	専任	地理歴史
	令2 経営・経営	学校法人佼成学園（佼成学園女子中学高等学校）	専任	情報
	平29 商・マーケティング	宮城県松島高等学校	専任	商業
	平30 商・マーケティング	学校法人長野家政学園（長野女子高等学校）	常勤	地理歴史・公民
	平31 商・マーケティング	川崎市立菅中学校	専任	社会
	令2 商・マーケティング	学校法人荒井学園（新川高等学校）	常勤	公民
	令2 商・マーケティング	山梨県立富士北稜高等学校	常勤	商業
	令2 商・マーケティング	学校法人九里学園（浦和実業学園高等学校）	非常勤	商業
	令2 商・マーケティング	横浜市立いすみ野中学校	臨時的任用	特別支援
	平31 商・会計	高知県立大方高等学校	専任	商業
	令2 商・会計	千葉県立千葉商業高等学校	専任	商業
	令2 商・会計	埼玉県立幸手桜高等学校	専任	商業
	平22 文・日本語日本文	神奈川県立秦野総合高等学校	専任	保健体育
	令2 文・日本語	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非常勤	国語
	令2 文・日本語	学校法人横浜商科大学高等学校（横浜商科大学高等学校）	非常勤	国語
	令2 文・日本語	川崎市立川崎高等学校	臨時的任用	国語
	令2 文・日本語	学校法人東京女子学園（東京女子学園中学校・高等学校）	常勤	国語
	令2 文・日本語	四街道市立四街道中学校	専任	国語
	令2 文・日本文学文化	学校法人柏木学園（柏木学園高等学校）	常勤	国語
	令2 文・日本文学文化	横浜市立東山田中学校	専任	国語
	令2 文・日本文学文化	牧之原市立榛原中学校	専任	国語
	令2 文・日本文学文化	神奈川県立秦野曽屋高等学校	専任	国語
	平31 文・英語英米文	神奈川県立橋本高等学校	専任	英語
	令2 文・英語英米文	八王子市立川口中学校	臨時的任用	英語
	令2 文・英語英米文	学校法人愛国学園（愛国高等学校）	専任	英語
	令2 文・英語英米文	八王子市立宮上中学校	専任	英語
	令2 文・英語英米文	静岡県立御殿場高等学校	常勤	英語
	令2 文・英語英米文	学校法人武陽学園（西武台新座中学校・西武台高等学校）	常勤	英語
	平30 文・歴史	習志野市立第二中学校	専任	社会
	平30 文・歴史	神奈川県立厚木商業高等学校	専任	地理歴史
	平31 文・歴史	東京都立足立特別支援学校	専任	特別支援
	令2 文・歴史	学校法人沖永学園（帝京八王子中学校・高等学校）	専任	社会・地理歴史・公民
	令2 文・歴史	学校法人國學院大學（國學院大學久我山中学高等学校）	非常勤	社会・地理歴史
	令2 文・歴史	富岡市立吉田小学校	常勤	全教科
	令2 文・歴史	学校法人東海大学（東海大学付属静岡翔洋高等学校）	非常勤	地理歴史・公民

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
令和2年度	令2 文・歴史	学校法人角川ドワンゴ学園（N高等学校）	専 任	地理歴史・公民
	令2 文・歴史	川島町立川島中学校	臨時的任用	社 会
	令2 文・歴史	裾野市立西中学校	常 勤	社 会
	令2 文・歴史	千葉市立小中台中学校	非 常 勤	特 別 支 援
	令2 文・歴史	千葉県立若松高等学校	常 勤	地 理 歴 史
	平28 文・環境地理	伊勢崎市立赤堀中学校	専 任	社 会
	平30 ネットワーク情報・ネットワーク情報	厚木市立清水小学校	専 任	全 科
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	株式会社ウィザース（第一学院高等学校）	常 勤	情 報 学
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	座間市立相模中学校	臨時的任用	数 学
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立生田東高等学校	非 常 勤	情 報 学
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	川崎市立総合科学高等学校（定時制）	臨時的任用	数 学
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	魚沼市立魚沼北中学校	常 勤	数 学
	平30 院文・修士	会津若松市立第五中学校	専 任	英 語
	令2 院文・修士	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非 常 勤	国 語
	令2 院文・修士	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非 常 勤	国 語
令和3年度	平29 経済・経済	神奈川県立白山高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平31 経済・経済	横須賀市立粟田小学校	専 任	全 科
	平31 経済・経済	目黒区立油面小学校	専 任	全 科
	令2 経済・経済	鹿嶋市立大野中学校	専 任	社 会
	令3 経済・経済	学校法人上田学園（上田西高等学校）	常 勤	地理歴史・公民
	令3 経済・経済	川崎市立枳形中学校	専 任	社 会
	令3 経済・経済	川崎市立はるひ野小学校	専 任	全 科
	令3 経済・経済	盛岡市立仙北中学校	専 任	社 会
	令3 経済・経済	山梨県立上野原高等学校	非 常 勤 (実習助手)	地理歴史・公民
	令3 経済・国際経済	学校法人三幸学園（飛鳥未来きずな高等学校 神戸キャンパス）	常 勤	地理歴史・公民
	令3 経済・国際経済	学校法人明泉学園（鶴川高等学校）	常 勤	地理歴史・公民
	令3 経済・国際経済	学校法人常総学院（常総学院高等学校）	非 常 勤	地理歴史・公民
	平17 法・法律	神奈川県立津久井養護学校	専 任	特 別 支 援
	平31 法・法律	神奈川県立永谷高等学校	専 任	地 理 歴 史
	令3 法・法律	千葉県立京葉工業高等学校	専 任	地理歴史・公民
令和3年度	令3 経営・経営	学校法人足利大学（足利大学附属高等学校）	非 常 勤	地理歴史・公民
	平27 商・マーケティング	岐阜県立郡上北高等学校	専 任	商 業
	令3 商・マーケティング	静岡市立末広中学校	常 勤	社 会
	令3 商・マーケティング	学校法人時任学園（樟南第二高等学校）	常 勤	商 業
	令2 文・日本語	学校法人九里学園（浦和実業学園中学校・高等学校）	常 勤	国 語
	令3 文・日本語	藤沢市立御所見中学校	臨時的任用	国 語
	令3 文・日本語	学校法人九里学園（浦和実業学園高等学校）	常 勤	国 語
	令3 文・日本語	秩父市立高篠中学校	専 任	国 語
	令3 文・日本語	学校法人明德学園（相洋高等学校）	非 常 勤	国 語
	令3 文・日本語	岡谷市立岡谷西部中学校	非 常 勤	国 語
	令3 文・日本語	長野県茅野高等学校	専 任	国 語
	令3 文・日本語	鴨川市立安房東中学校	専 任	国 語
	平31 文・日本文学文化	筑西市立下館南中学校	専 任	国 語
	令2 文・日本文学文化	大阪市立加美中学校	専 任	国 語
	令3 文・日本文学文化	横浜市立橘中学校	専 任	国 語
令和3年度	令3 文・日本文学文化	東京都教育委員会	専 任	国 語
	令3 文・日本文学文化	横浜市立東高等学校	専 任	国 語
	令3 文・日本文学文化	町田市立南中学校	専 任	国 語
	平30 文・英語英米文	学校法人山形電波学園（創学館高等学校）	産 休 代 替 常 勤	国 語
	令2 文・英語英米文	目黒区立第七中学校	専 任	英 語
	令3 文・英語英米文	神奈川県立橋本高等学校	専 任	英 語
	令3 文・英語英米文	小金井市立南中学校	専 任	英 語
	令3 文・英語英米文	学校法人向上学園（向上高等学校）	常 勤	英 語
	令3 文・英語英米文	埼玉県立上尾橋高等学校	非 常 勤	英 語
	平30 文・哲	相模原市立田名小学校	専 任	全 科
	平31 文・哲	神奈川県立大和西高等学校	専 任	地理歴史・公民
	平28 文・歴史	東京都立井草高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平31 文・歴史	佐倉市立西志津中学校	専 任	社 会
	令3 文・歴史	学校法人土佐女子高等学校（土佐女子中学高等学校）	常 勤	社会・地理歴史
	令3 文・歴史	網走市立第一中学校	専 任	社 会
令和3年度	令3 文・歴史	山形県立遊佐高等学校	常 勤	地理歴史・公民
	令3 文・歴史	学校法人明泉学園（鶴川高等学校）	常 勤	地理歴史・公民
	令3 文・歴史	板橋区立西台中学校	専 任	社 会
	令3 文・歴史	上越市立八千浦中学校	専 任	社 会
	令3 文・歴史	学校法人早稲田学園（わせがく高等学校 勝田台キャンパス）	常 勤	地 理 歴 史
	令3 文・歴史	大田区立赤松小学校	そ の 他 (教員支援員)	
	令3 文・歴史	八王子市立鍾水中学校	産 休 代 替	社 会
	令3 文・歴史	学校法人矢野学園（八王子実践高等学校）	非 常 勤	地 理 歴 史
	令3 文・環境地理	青森県立北斗高等学校	非 常 勤	地理歴史・公民
	平30 ネットワーク情報・ネットワーク情報	富士吉田市立富士見台中学校	専 任	数 学
	令3 ネットワーク情報・ネットワーク情報	横須賀市立岩戸中学校	非 常 勤	特 別 支 援
	令3 ネットワーク情報・ネットワーク情報	平塚市立大住中学校	臨時的任用	数学・特別支援
	令3 人間科・社会	大田区立田園調布小学校	そ の 他 (学校特別支援員)	
	令3 人間科・社会	相模原市立旭中学校	常 勤	社 会
	令3 人間科・社会	学校法人総持学園（鶴見大学附属中学校・高等学校）	非 常 勤	社会・地理歴史・
令和3年度	令3 人間科・社会	島田市立六合中学校	常 勤	社 会
	平29 院文・修士	学校法人堀井学園（横浜翠陵中学・高等学校）	常 勤	英 語
	平31 院文・修士	小金井市立緑中学校	専 任	英 語
	平29 院文・博士	学校法人昭和学院（昭和学院秀英高等学校）	専 任	地 理 歴 史

司書課程・司書教諭課程・学校司書課程主な就職先一覧

勤 務	先
川口市立中央図書館	八街市立図書館（千葉県）
（株）図書館流通センター	藤沢市総合市民図書館（神奈川県）
日本獣医生命科学大学附属図書館	東京都立図書館
信州大学附属図書館	長岡市立中央図書館（新潟県）
大和市立図書館	埼玉県立高等学校図書館
武蔵大学図書館	国土館大学鶴川図書館
東京大学法学部図書館	追手門学院大学附属図書館
日外アソシエーツ（株）	学校法人橘学苑（橘学苑中学校・高等学校）
見附市立図書館（新潟県）	相模原市立相模大野図書館（神奈川県）
ドルトン東京学園中等部・高等部ラーニングcommons	神奈川県立高等学校図書館
女子栄養大学図書館	横須賀市立中央図書館
公立はこだて未来大学情報ライブラリー	（株）三省堂書店
東京医科大学図書館	神奈川県立図書館
杉並区中央図書館（東京都）	江東区立亀戸図書館
横浜市立図書館	横浜総合リハビリテーションセンター図書室
キハラ（株）	法政大学多摩図書館
専修大学図書館	

学芸員課程主な就職先一覧

勤 務	先
宮城県栗原市役所	通信総合博物館
行田市郷土博物館	（財）山武都市文化財センター
下妻市ふるさと博物館	（株）乃村工芸社
さいたま市浦和くらしの博物館民家園	調布市郷土博物館
行方市玉造公民館（資料館）	日本民藝館
野田市郷土博物館	東京国際美術館
東京都埋蔵文化財センター	町田市フォトサロン
すみだ郷土文化資料館	栃木県立博物館
群馬県埋蔵文化財調査センター	山梨県立考古博物館
町立湯河原美術館	福井県立歴史博物館
高山市立郷土館	新発田市教育委員会
国際航業株式会社	入間市郷土博物館
鳥羽水族館	静岡県立登呂博物館
秋田県埋蔵文化財センター	松戸市立博物館
埼玉県埋蔵文化財センター	箱根美術館
栃木県埋蔵文化財センター	大牟田市三池カルタ・歴史資料館
由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設	東京都教育委員会
富岡市立美術博物館 福沢一郎記念美術館	青森県教育委員会
（東京）電力館	高知県教育委員会
MOA美術館	愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター
九州国立博物館	八街市郷土資料館
高松市創造都市推進局文化財課	鳥取県教育委員会
臼杵市教育委員会	愛知県大口町歴史民俗資料館
飯田市教育委員会	新潟県教育委員会
佐渡市教育委員会	紅ミュージアム
（公財）メトロ文化財団	埼玉県立さきたま史跡の博物館
米沢市教育委員会	三重県教育委員会
宇都宮市教育委員会	鶴ヶ島市教育委員会
松本市教育委員会	ふじみ野市教育委員会
岡崎市教育委員会	太田市教育委員会
日野市郷土資料館	斎宮歴史博物館
石岡市教育委員会	石川県立美術館
狭山市教育委員会	日野市教育委員会
藤沢市生涯学習部郷土歴史課	国土館大学国土館史資料室
島根県教育委員会文化財課	横須賀市自然・人文博物館
専修大学大学史資料室	深谷市教育委員会

令和 3 年度 資格課程年間行事表

課 程		教 職 課 程		司 書 課 程 学校司書課程		司書教諭課程		学 芸 員 課 程	
月		行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次
4 月	上 旬	教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年）※一部 3 月 前期・通年科目履修登録および履修修正（全学年）							
		介護等の体験事前オリエンテーション	3・4						
	中 旬 下 旬	実習希望校との内諾交渉 介護等の体験事前講習会 教育実習事前ガイダンス	3 3・4 4						
5 月	上 旬	教育実習 （5 月～11 月）	4						
	下 旬	介護等の体験代替措置 （5 月中旬～9 月中旬）	3・4					博物館実習事前ガイダンス	3・4
6 月	上 旬	教育実習登録ガイダンス	3						
	中 旬	教育実習内諾書の提出	3						
	下 旬	教員免許状一括申請ガイダンス	4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス （3 年次までに司 書教諭の単位をす べて修得した者）	4	博物館実習（館務実習） （6 月～12 月）	3・4
7 月	下 旬	前期試験（全学年）							
8 月	上 旬	夏期休暇（8 月上旬～9 月中旬）							
	下 旬	前期追試験（全学年）							
9 月	中 旬	後期科目履修登録および履修修正（全学年）							
	下 旬	教員免許状授与申請書確 認ガイダンス（オンライ ン・郵送）	4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス （オンライン・郵 送） （4 年次で司書教 諭の科目を履修し た者）	4	館務実習登録ガイダンス （第 1 回）（オンライン）	2・3
10 月	上 旬	教職公開講座（オンライ ン）	1～4						
	下 旬			図書館実習事前ガ イダンス	3・4				
11 月	中 旬							館務実習登録ガイダンス （第 2 回）	2・3
	下 旬			図書館実習 （11 月～12 月）	3・4			実習希望博物館との内諾交 渉	2・3
12 月									
1 月	中 旬			図書館実習報告会 （オンライン）	1～4				
				司書課程就職（進 路）懇談会（オンラ イン）	1～4				
	下 旬			学校司書課程講演 会・受講説明会 （オンライン）	1～4				
後期試験（新型コロナウイルス感染症の影響により実施せず）									
2 月	中 旬	後期追試験（新型コロナウイルス感染症の影響により実施せず）							
	下 旬							館務実習承諾書の提出	2・3
3 月	22 日	教員免許状の交付	4						

令和 3 年度 教職相談実施結果

1. 実施期間

令和 3 年 4 月～令和 4 年 1 月

2. 実施日・担当者

場 所	担 当 者	相 談 日 (4 月～8 月)	相 談 日 (9 月～1 月)
生 田	齋藤 博志	月曜日 12:30～14:30 (5 月オンライン)	月曜日 12:00～14:00 (9/20～10/11、1 月オンライン)
		火曜日 10:45～12:00 (5 月オンライン)	火曜日 10:45～12:00 (9 月・10 月・1 月オンライン)
神田(前期のみ)	嶺井 正也	水曜日 12:00～14:00 (4/28～6/16 オンライン)	水曜日 12:00～14:00 (オンライン)
オンライン		希望者と相談の上決定	希望者と相談の上決定

3. 実施結果

(1) 齋藤 博志 商学部特任教授

①月別曜日別相談者数

場 所	曜 日 \ 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	合 計
生 田	月曜日	3	5	2(1)	4	—	0	1	6(3)	3(1)	3(3)	27(8)
	火曜日	2	3(3)	0	1	1(1)*	0	0	5	12(1)	0	24(5)
神 田	水曜日	7	2(2)	4(3)	1(1)	—	2(2)	1(1)	4(4)	2(2)	1(1)	24(16)
合 計		12	10(5)	6(4)	6(1)	1(1)	2(2)	2(1)	15(7)	17(4)	4(4)	75(29)

()内の人数はオンライン対応数 *印は金曜日に対応

②学部学科別相談者数

学部	経済				法		経営	商		文								国際 コミュニケーション	人間科	国際 コミュニケーション	科目等 履修生	合 計
学科	経済	現代 経済	生活環 境経済	国際 経済	法律	政治	経営	マーケ ティング	会計	日本語	日本文 学文化	英語 英米文	哲	歴史	環境 地理	人文・ ジャーナ	初等 教育	心理	社会	日本語	科目等 履修生	合 計
人数	1 (1)	1 (1)	0	0	10 (7)	0	0	2 (2)	1 (1)	0	14 (6)	14 (4)	6 (2)	21 (9)	2 (2)	0	1 (1)	0	1 (1)	0	1 (1)	75 (39)

()内の人数は実数

③相談者学年

学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	科目等履修生	合 計
人 数	10	4	34	26	1	75

④相談内容

一次試験対策	論文対策	二次試験対策	志願書の書き方	教職への心構え	教育実習	大学院進学	面接練習	その他	合 計
6	47	7	17	0	2	2	1	6	88

⑤その他の主な内容

- ・教員採用試験未受験、就職活動で内定も得ているが、教員になりたくなったため今後の進路について
- ・自己のメンタル面での不安から教員採用試験未受験、教育実習を経験して教師になりたいとの思いが強くなったため今後の進路について
(2件とも講師登録に向けての相談)
- ・教員採用試験受験情報(受験先と履修との関係1年) ・教職へ進むか否か(進路変更に関すること3年)
- ・教員採用試験に向けての学習計画について(3年) ・よこはま教育実践ボランティアについて(2年)
- ※相談内容の大別: 論文指導1年～3年(1年・2年は基礎、3年は実践)
- ・よこはま教育実践ボランティア志望理由の添削 ・教員採用試験までの学習計画

⑥相談日数

場 所	曜 日 \ 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	合 計
生 田	月曜日	2	5	4	2	—	2	4	5	3	1	28
	火曜日	2	4	4	3	1*	2	4	4	3	2	29
神 田	水曜日	2	3	5	3	—	2	4	3	4	2	28
合 計		6	12	13	8	1	6	12	12	10	5	85

*印は金曜日に対応

(2) 嶺井 正也 専修大学名誉教授 ※福山文子経営学部准教授、真壁直人先生(仙台市立中学校長)と協働

①相談者数

- 4 月～8 月 相談者数(延べ) 約 50 名
 在学生: 4 年生 10 名(経済学部経済学科、文学部日本語学科、日本文学文化学科、英語英米文学科、歴史学科、人間科学部社会学科)
 卒業生: 4 名(石巻専修大学及び他大学卒を含む)
- 9 月～1 月 相談者数(延べ) 約 60 名
 在学生: 4 年生 1 名(文学部英語英米文学科)
 3 年生 25 名(経済学部経済学科、法学部法律学科、経営学部経営学科、商学部マーケティング学科、文学部日本語学科、日本文学文化学科、英語英米文学科、歴史学科、人間科学部社会学科)
 卒業生: 1 名

②相談内容

- ・一次試験対策
- ・二次試験対策
- ・Zoom 学修会(面接対策を基本)

③相談日数

- 4 月～8 月 計 15 回(4 月 3 回、5 月 3 回、6 月 3 回、7 月 3 回、8 月 3 回)
 9 月～1 月 計 11 回(9 月 3 回、10 月 2 回、11 月 2 回、12 月 2 回、1 月 2 回)
 一次試験・筆記試験問題の解答・採点 計 18 回

④その他

昨年度あたりから、メンバー同士で自主的に面接練習を行うようになり、そこに卒業生がアドバイスで参加するといういい活動が生まれていることを特筆しておきたい。

令和3年度 教員採用試験対策特別講義実施結果

・願書（面接票）作成講座

実施日	第1回 令和3年4月12日（月） 10:30～12:00	第2回 令和3年7月13日（火） 10:45～12:00	第3回 令和3年7月20日（火） 13:30～15:00
実施場所	専修大学生田校舎 4号館2階 428教室	専修大学生田校舎 4号館2階 423教室	専修大学神田校舎 10号館11階 10115教室
対象者	今年度（令和3（2021）年度）教員採用試験受験者（私学受験者、卒業生も受講可）	今年度（令和3（2021）年度）教員採用試験受験者（私学受験者、卒業生も受講可）	今年度（令和3（2021）年度）教員採用試験受験者（私学受験者、卒業生も受講可）
担当講師	齋藤 博志 商学部特任教授	齋藤 博志 商学部特任教授	齋藤 博志 商学部特任教授
内 容	(1) 面接票、指導案等の作成指導 (2) 二次試験に臨む上での心構え	(1) 面接票、指導案等の作成指導 (2) 二次試験に臨む上での心構え	(1) 面接票、指導案等の作成指導 (2) 二次試験に臨む上での心構え
持 ち 物	各自該当するものを当日持参 二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等	各自該当するものを当日持参 二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等	各自該当するものを当日持参 二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等
参加者	13名（内卒業生0名）	3名（内卒業生0名）	5名（内卒業生0名）
主 催	教職課程協議会・エクステンションセンター	教職課程協議会・エクステンションセンター	教職課程協議会・エクステンションセンター

・教員採用試験二次試験対策特別講義

実施日	第1回 令和3年8月2日（月） 10:00～15:30	第2回 令和3年8月4日（水） 10:00～15:30	第3回 令和3年8月5日（木） 11:00～16:00	第4回 令和3年8月18日（水） 10:00～12:30
実施場所	専修大学生田校舎 4号館2階 420教室・426教室・ 427教室・428教室・ 429教室	専修大学生田校舎 4号館2階 420教室・426教室・ 427教室・428教室・ 429教室	専修大学サテライトキャンパス	Google Classroom （新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大しているため対面での講義は中止、オンラインで実施）
対象者	今年度（令和3（2021）年度）教員採用試験受験者（私学受験者、卒業生も受講可）	今年度（令和3（2021）年度）教員採用試験受験者（私学受験者、卒業生も受講可）	今年度（令和3（2021）年度）教員採用試験受験者（教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生も受講可）	今年度（令和3（2021）年度）教員採用試験受験者（私学受験者、卒業生も受講可）
担当講師	①齋藤 博志 商学部特任教授 ②角田真紀子 経済学部准教授 ③望月 俊男 ネットワーク情報学部准教授 ④神山 安弘 文学部客員教授	①齋藤 博志 商学部特任教授 ②森田 司郎 法学部教授 ③福山 文子 経営学部准教授 ④神山 安弘 文学部客員教授	①長船 孝明 経済学部兼任講師（昭和53年 商学会計学科卒） （元東京都立荒川商業高等学校校長） ②矢吹 芳洋 経済学部教授 ③中野 育男 商学部教授	齋藤 博志 商学部特任教授
内 容	(1) 面接票、指導案等の作成指導 (2) 個人面接、集団面接、集団討論、集団協議、場面指導、模擬授業	(1) 面接票、指導案等の作成指導 (2) 個人面接、集団面接、集団討論、集団協議、場面指導、模擬授業	(1) 主に東京都の教育に求められる教師像など簡単な講義（東京、千葉、神奈川、埼玉の二次試験のポイント、評価方法等） (2) 個別指導（主に個人面談）	(1) 個人面接 (2) 集団面接、集団討論、場面指導、模擬授業
提出物	各自該当するものを当日持参 二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等	各自該当するものを当日持参 二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等	特になし	各自該当するものを当日持参 二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等
参加者	20名（内卒業生1名）	17名（内卒業生1名）	8名（内卒業生2名）	2名（内卒業生0名）
主 催	教職課程協議会・エクステンションセンター	教職課程協議会・エクステンションセンター	エクステンションセンター・教職課程協議会	教職課程協議会・エクステンションセンター

・教員採用試験対策特別講義

実施日	第1回 令和3年7月10日（土） 10:00～12:30	第2回 令和3年11月27日（土） 13:30～16:00
実施場所	専修大学生田校舎 1号館2階 122教室	専修大学生田校舎 1号館2階 124教室
対象者	来年度（令和4（2022）年度）教員採用試験受験予定者 1年次～4年次 （教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生も受講可）	教員採用試験受験予定者 1年次～4年次 （教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生も受講可）
担当講師	伊藤 雅夫先生（昭和54年 経済学部経済学科卒） 江東区教育委員会ブリッジスクール （元江東区立第二砂町中学校校長）	TAC講師 高橋 俊明 氏（TAC教員講座 講師） 令和3（2021）年度教員採用試験最終試験合格者 ①増田 翔斗（東京都教育委員会 中学校社会・高等学校公民他 経済学部経済学科4年） ②細谷 将汰（千葉県・千葉市教育委員会 中学・高等学校英語 文学部英語英米文学科4年）
内 容	(1) 自己紹介および現在の学校現場について (2) 求められる教師像（役職の立場から思うこと） (3) 人物試験（二次試験）の学習の仕方とその実際	(1) TAC講師から各教育委員会の教員採用試験の概要説明 (2) 令和3（2021）年度教員採用試験最終試験合格者の体験談および質疑応答（司会：森田 司郎 法学部教授）
参加者	21名（内卒業生0名）	30名（内卒業生0名）
主 催	エクステンションセンター・教職課程協議会	エクステンションセンター・教職課程協議会

令和3年度 教職公開講座開催結果

- 開催日 令和3年10月2日(土)
- 時 間 14時00分～17時10分
- 開催形態 Google Classroom「2021 教職公開講座」および Google Meet によるオンライン開催
- 参加人数 第1部：253名 第2部：242名
- 内 容

(1) 今の教育現場について、現職教員とのディスカッション(専修大学OB・OG)

講 師 (卒業年・学部・学科)	勤 務 先	科 目
大 川 美 咲 先生 (令和2年3月 文学部 日本文学文化学科 卒業)	神奈川県立秦野曾屋高等学校	国 語
平 敷 成 美 先生 (平成28年3月 文学部 英語英米文学科 卒業)	那覇市立上山中学校	英 語
安 達 千 里 先生 (平成31年3月 文学部 歴史学科 卒業)	射水市立射北中学校	社 会
佐 藤 萌 実 先生 (平成31年3月 文学部 哲学科 卒業)	神奈川県立大和西高等学校	公 民
松 田 尚 之 先生 (平成27年3月 商学部 マーケティング学科 卒業)	岐阜県立郡上北高等学校	商 業
横 山 哲 先生 (平成24年3月 ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科 卒業)	玉川学園中等部	数 学
森 下 華 帆 先生 (平成31年3月 文学部 哲学科 卒業)	渋谷区立千駄谷小学校	小 学 校
川 上 翔 大 先生 (令和3年3月 経済学部 経済学科 卒業)	川崎市立はるひ野小学校	

(2) 求められる教師像

講 師	仙台市立住吉台中学校長 真壁 直人 先生(昭和61年3月 経済学部 経済学科 卒業)
-----	--

(3) タイムテーブル

	時 間	内 容	形 態
第1部	14:00～14:05	全体のスケジュール確認および講師紹介	Google Meet
	14:05～14:50 (45分)	ー今の教育現場についてー	
		国 語 大 川 美 咲 先生	Google Meet
		英 語 平 敷 成 美 先生	Google Meet
		社 会 安 達 千 里 先生 公民・地歴 佐 藤 萌 実 先生	Google Meet
		商 業 松 田 尚 之 先生	Google Meet
		数 学・情報 横 山 哲 先生	Google Meet
		小 学 校 森 下 華 帆 先生 小 学 校 川 上 翔 大 先生	Google Meet
	14:50～15:15	休憩	
	15:15～16:00 (45分)	ー現職教員とのディスカッションー	
		国 語 大 川 美 咲 先生	Google Meet
		英 語 平 敷 成 美 先生	Google Meet
		社 会 安 達 千 里 先生 公民・地歴 佐 藤 萌 実 先生	Google Meet
		商 業 松 田 尚 之 先生	Google Meet
		数 学・情報 横 山 哲 先生	Google Meet
		小 学 校 森 下 華 帆 先生 小 学 校 川 上 翔 大 先生	Google Meet
第2部	16:00～16:10	休憩	
16:00 17:10	16:10～17:10 (60分)	ー求められる教師像ー 仙台市立住吉台中学校 校 長 真 壁 直 人 先生	Google Meet

令和 3 年度 司書課程図書館実習報告会開催結果

開催日 令和 4 年 1 月 17 日 (月)
時 間 16:30 ~ 17:00
開催形態 Google Meet によるオンライン開催
参加人数 17 名
内 容: 今年度、専修大学図書館で 5 日間の図書館実習を行った 2 名の学生が、それぞれ作成した PowerPoint のスライドに沿って、実習期間中に経験した業務の概要 (テーマ展示、神田キャンパスの Knowledge Base における IC タグシステムや自動貸出機、貴重書室の見学、レファレンスや装備など) や全体を通しての感想を報告した。参加者からの「最も印象に残ったことはなにか」「司書課程の授業で学んだ内容の何が役に立ったか」などの質問に対する回答からも、忙しい中にも充実した実習であった様子が伺われた。

令和 3 年度 司書課程就職 (進路) 懇談会開催結果

開催日 令和 4 年 1 月 17 日 (月)
時 間 17:10 ~ 18:10
開催形態 Google Meet によるオンライン開催
参加人数 18 名
内 容: 横浜市教育委員会に勤務されている神谷知栄氏に、図書館への就職を志すきっかけ、採用試験の経験、地域図書館と中央図書館での業務内容、そして、現在の教育委員会事務局での業務について、苦労したことや、やりがいなどを含めてお話しいただいた。質疑応答の際には参加者からの「採用試験に向けてどのような準備をしたか」「自身の関心のあるテーマについて、イベント等を企画・実施することは可能か」「配属先や異動先はどのように決まるのか (希望は出せるのか)」などの質問に対して、丁寧に回答していただいた。(本号の「卒業生から」には、上記の内容の一部が記されている。)

令和 3 年度 学校司書課程講演会・受講説明会開催結果

開催日 令和 4 年 1 月 24 日 (月)
時 間 18:00 ~ 20:00
開催形態 Zoom によるオンライン開催
講 師 小林隆志 (鳥取県立図書館長)
情報提供 野口武悟 (専修大学文学部教授)
受講説明 荻原幸子 (専修大学経営学部教授)
参加人数 88 名
内 容: 小林隆志館長からは、「鳥取県立図書館 学校図書館支援の取組～つなげる・ひろげる・そだてる 学校図書館を目指して～」というテーマのもとに、鳥取県立図書館に設置された「学校図書館支援センター」における「とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン」、「授業活用見本図書 (選定用セット)」や新刊見本児童図書の貸出、小中高等学校の学校司書・司書教諭・教員を対象とした研修の実施、特別支援学校に対する支援 (セット本の貸出など) や関係者による研究会の発足について、及び、全国に先駆けて「読書バリアフリー計画」が策定されたことなど、豊富な内容でご講演いただいた。質疑応答では参加者から「市町村の教育委員会に対して、どのような働きかけが効果的か」「小学校から中学校、中学校から高校に引き継ぐような取組みはあるか」「電子書籍を学校に導入する構想はあるか」「学校司書に求められる資質はなにか」などの質問が出された。続いて、野口武悟教授が学校図書館に関する近年の文部科学省の政策動向を説明し、最後に荻原幸子教授が、専修大学における科目等履修生制度を紹介した。全国各地の学校司書、司書教諭をはじめ、公共図書館で働く方々や本学の学生も参加し、滞りなく終了した。

令和3年度 学芸員課程 「博物館実習(学内)」の展示実習報告

生田校舎2号館の博物館実習室・展示実習室を活用し、学内実習授業の一環として、平成29年度より実習生による展示実習および展示の一般公開を行なっている。令和3年度は、感染症拡大防止対策のなかで例年のように一般公開はできなかったが、下記の日程で授業の復習も含めた実践的な展示実習を行なった。また「博物館展示論」(後期)を履修している学生(履修者49名)に、密を避けグループ分けをしながら、12月18日3限の授業内で見学の課題に取り組んでもらった。

前期：令和3年6月25日・7月2・3・10・16・17日 1限・2限

・テーマ：「前期の博物館実習で学んだこと」

・履修者24名

後期：令和3年12月3・4・10・11・17・18日 1限・2限

・テーマ：「学芸員課程、博物館実習で学んだこと」

・履修者23名



展示プランの話し合い(前期)



展示作業(後期)



授業内での見学(博物館展示論)

令和3年度 資格課程活動報告

日 付	事 項	開催形態	参加者
令和3年 5月8日	令和3年度 全国大学博物館学講座協議会 全国委員会	オンライン	職員1名
5月16日	関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会 2021年度定期総会、東京地区教職課程研究連絡協議会との合同研究大会	オンライン	教員1名 職員1名
5月22日	全国私立大学教職課程協会 2021年度定時社員総会・第40回研究大会	オンライン	教員1名 職員1名
6月11日	令和3年度 スクールライフサポーター派遣事業連絡会議	オンライン	職員2名
6月12日	令和3年度 全国大学博物館学講座協議会全国大会(神奈川県教育委員会)	オンライン	教員1名 職員1名
6月25日	令和3年度 第1回横浜市 大学連携・協働協議会(横浜市教育委員会)	オンライン	教員1名 職員1名
6月26日	令和3年度 都内私立大学教職課程事務担当者懇談会研究会	オンライン	職員8名
6月26日	2021年度第1回 京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会教員免許事務勉強会	オンライン	職員1名
7月10日	大学教務実践研究会セミナー 教務系職員初任者向け講習会	オンライン	職員3名
7月18日	関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会 2021年度第1回研究部総会、第1回研究部会および第1回研究懇談会	オンライン	教員1名
9月10日	令和3年度 教職課程認定基準等の改正に関する事務担当者説明会(文部科学省)	オンライン	教員2名 職員3名
10月2日	2021年度第2回 京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会教員免許事務勉強会	オンライン	職員1名
10月23日	第57回(令和3年度) 都内私立大学教職課程事務担当者懇談会総会	オンライン	職員7名
10月23日	大学教務実践研究会セミナー 教務系事務部門リーダー講習会	オンライン	職員1名
11月27日	全国私立大学教職課程協会 2021年度研究交流集会	オンライン	教員1名 職員4名
12月4日	2021年度第3回 京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会教員免許事務勉強会	オンライン	職員3名
12月11日	大学教務実践研究会 第9回大会	オンライン	職員1名
12月11日	令和3年度 全国大学博物館学講座協議会東日本部会総会	オンライン	教員1名 職員1名
12月11日	関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会 2021年度第2回研究懇談会	オンライン	教員1名
12月17日	令和3年度 教職課程認定等に関する事務担当者説明会(文部科学省)	オンライン	職員4名
令和4年 2月12日	大学教務実践研究会 教員免許事務担当者講習会	オンライン	職員1名
2月26日	令和2年度 神奈川・山梨地区私立大学教職課程研究連絡協議会	オンライン	教員1名 職員4名

令和 3 年度 資格課程教員紹介

《教職》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経済学部	教授	矢吹 芳洋	社会科・公民科教育法 1・2
経済学部	准教授	角田真紀子	教育相談の理論と方法
法 学 部	教授	森田 司郎	教育課程論
法 学 部	准教授	大西楠テア	法律学 a・b
法 学 部	准教授	加藤 雄三	法律学 a・b
経営学部	准教授	福山 文子	公教育制度論
商 学 部	教授	佐藤 由美	社会科・地歴科教育法 1・2
商 学 部	教授	中野 育男	商業科教育法 1・2
商 学 部	特任教授	齋藤 博志	教職実践演習（中・高）
文 学 部	教授	赤坂 郁美	自然地理学概論 b
文 学 部	教授	今井 上	日本文学通史 a
文 学 部	教授	江崎 雄治	人文地理学概論 b
文 学 部	教授	片桐 一彦	英語科教育法 1・2
文 学 部	教授	苅谷 愛彦	自然地理学概論 a
文 学 部	教授	鬼嶋 淳	日本史 a・b
文 学 部	教授	久木元美琴	地誌学 a・b
文 学 部	教授	高橋 龍夫	国語科教育法 1
文 学 部	教授	田邊 祐司	英語科教育法 3・4
文 学 部	教授	薦尾 和宏	国語科教育法 2
文 学 部	教授	貫 成人	哲学 a・b
文 学 部	教授	廣瀬 玲子	中国文学講義 a・b
文 学 部	教授	松尾 容孝	人文地理学概論 a
文 学 部	教授	山口 政幸	日本文学通史 b
文 学 部	教授	米村みゆき	日本文学概論 b
文 学 部	准教授	佐藤 岳詩	倫理学 a・b
文 学 部	准教授	松尾 治	書道科教育法 1・2
文 学 部	助教	小笠原 強	外国史 b
ネットワーク情報学部	教授	砂原 由和	教育方法論
ネットワーク情報学部	准教授	望月 俊男	情報科教育法 1・2
人間科学部	教授	小峰 直史	生徒・進路指導論
人間科学部	教授	樋口 博美	社会学原論 a
人間科学部	教授	藤原 法子	社会学原論 b
コミュニケーション学部	教授	山下 直	国語科教育法 1・2
経済学部	兼任講師	青木 猛正	生徒・進路指導論
経済学部	兼任講師	長船 孝明	商業科教育法 1・2
経済学部	兼任講師	小島 道生	特別支援教育論
経済学部	兼任講師	崔 玉芬	心身の発達と学習の過程
経済学部	兼任講師	杉山比呂之	社会科・地歴科教育法 1・2
経済学部	兼任講師	宮崎三喜男	教育実習 1・2・3
法 学 部	兼任講師	金ヒョン淑	教育課程論
法 学 部	兼任講師	肝付 俊朗	教職入門
法 学 部	兼任講師	松村 芳明	法律学 a・b
法 学 部	兼任講師	山口 晶子	教育原論
経営学部	兼任講師	白岩 伸也	教育原論
経営学部	兼任講師	堀内 泰利	情報と職業
商 学 部	兼任講師	生田 清人	地理学 a・b
商 学 部	兼任講師	泉 貴久	地理学 a・b
商 学 部	兼任講師	小川 晴久	職業指導 a・b
商 学 部	兼任講師	加瀬きよ子	商業科教育法 1・2
商 学 部	兼任講師	進士 勇介	職業指導 a・b
商 学 部	兼任講師	前川 明彦	人文地理学概論 a・b
商 学 部	兼任講師	松岡 路秀	社会科教育研究 3・4

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
商 学 部	兼任講師	皆川 雅樹	日本史 a・b
文 学 部	客員教授	神山 安弘	教育実習 2・3
文 学 部	兼任講師	新井 智一	地誌学 a・b
文 学 部	兼任講師	荒畑 隆	地誌学 a・b
文 学 部	兼任講師	内門 亮子	書道 a
文 学 部	兼任講師	太田 弘	自然地理学概論 a・b
文 学 部	兼任講師	川久保篤志	地理学 b
文 学 部	兼任講師	小泉 秀人	外国史 a・b
文 学 部	兼任講師	小長野航太	倫理学 a・b
文 学 部	兼任講師	小林 孝秀	日本史 a・b
文 学 部	兼任講師	寺戸 淳子	宗教学 a・b
文 学 部	兼任講師	富永 裕子	英語科教育法 1・2
文 学 部	兼任講師	西澤美穂子	日本史 a・b
文 学 部	兼任講師	根本 欣哉	国語科教育法 3・4
文 学 部	兼任講師	長谷川 徹	倫理学 a・b
文 学 部	兼任講師	福島 大我	外国史 a
文 学 部	兼任講師	山田 朋子	外国史 a・b
文 学 部	兼任講師	山本 幸博	書道 a・b
ネットワーク情報学部	兼任講師	大塚慎太郎	数学科教育法 1・2
ネットワーク情報学部	兼任講師	宮野 尚	教育課程論
人間科学部	兼任講師	渡辺 彰規	社会学原論 a・b
コミュニケーション学部	兼任講師	竹内はるか	日本語学入門 a・b

《司書・司書教諭・学校司書》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	教授	大曾根 匡	図書館情報技術論
経営学部	教授	荻原 幸子	図書館概論
文 学 部	教授	野口 武悟	図書館情報資源概論
経済学部	兼任講師	御園生 純	生涯学習概論
法 学 部	兼任講師	蟹瀬 智弘	情報サービス演習 2
経営学部	兼任講師	下山佳那子	情報資源組織演習 2
経営学部	兼任講師	鴫田 拓哉	情報資源組織論
経営学部	兼任講師	中山美由紀	学習指導と学校図書館
経営学部	兼任講師	渡辺 暢恵	学習指導と学校図書館
文 学 部	兼任講師	石原 眞理	図書館サービス概論
文 学 部	兼任講師	勝亦あき子	読書と豊かな人間性
文 学 部	兼任講師	畔田 暁子	児童サービス論
文 学 部	兼任講師	戸田あきら	図書館制度・経営論
文 学 部	兼任講師	中川 恭一	図書館制度・経営論
文 学 部	兼任講師	中島 玲子	情報サービス演習 2
文 学 部	兼任講師	中和 正彦	図書館情報資源特論
文 学 部	兼任講師	成松 一郎	図書館基礎特論
ネットワーク情報学部	兼任講師	榎本裕希子	情報資源組織演習 1・2
ネットワーク情報学部	兼任講師	竹村 和子	学校図書館メディアの構成
ネットワーク情報学部	兼任講師	日向 良和	情報サービス演習 1

《学芸員》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	教授	内田 欽三	博物館概論
文 学 部	教授	高島 裕之	博物館実習
経営学部	兼任講師	水本 和美	博物館資料保存論

編集後記 ～資格課程年報編集委員より～

令和3年度専修大学資格課程年報『パッソ ア パッソ』Vol.24をお届けします。この年報は、学生のみなさんの資格課程での学びをサポートするツールです。資格課程をともに学ぶ学生の教員採用試験や実習の体験記、現場で活躍されている卒業生からのメッセージやアドバイスは、学修を進めるうえで、そしてこれからの進路を考えるうえでの大きなヒントをみなさんに与えてくれることと思います。「パッソ ア パッソ」は、イタリア語で「一歩ずつ」という意味を持ちます。地道に努力しながら一歩ずつ前に進んでいる学生のみなさんを応援する意味を込めて名付けています。

さて、令和3年度（2021年度）も、前年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を取りながらの授業運営となりました。「オンライン授業」という言葉も、この2年のうちに、もはや当たり前に使われるようになりました。With コロナは、学生のみなさんに多くの我慢を強いていますが、一方で、大学のDX（デジタルトランスフォーメーション）を促進した側面もあるように思います。

このことは、初等・中等教育の現場においても同様でしょうし、図書館や博物館の現場においても、電子図書館やデジタルミュージアムへの関心が高まっています。資格課程で学ぶみなさんは、それぞれの現場におけるWith コロナの実践をどう捉えているのでしょうか。もちろん、課題も多々ありますが、After コロナにつながるような新たな取り組みや試みにもぜひ注目してもらいたいと思います。それを掴むヒントが、この年報の各記事のなかにたくさん盛り込まれています。ぜひ読み取ってください。After コロナ時代の初等・中等教育、図書館、博物館を担っていくのはみなさんなのですから。

編集委員長

野口 武悟

編集委員

矢吹 芳洋

佐藤 由美

松尾 治

内田 欽三

令和3年度 専修大学 資格課程年報『パッソ ア パッソ』

発行日 令和4年3月31日

編集 専修大学

生田校舎 教務課 資格課程係

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

TEL 044-911-1259 FAX 044-911-7163

神田校舎 教務課・二部事務課

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8

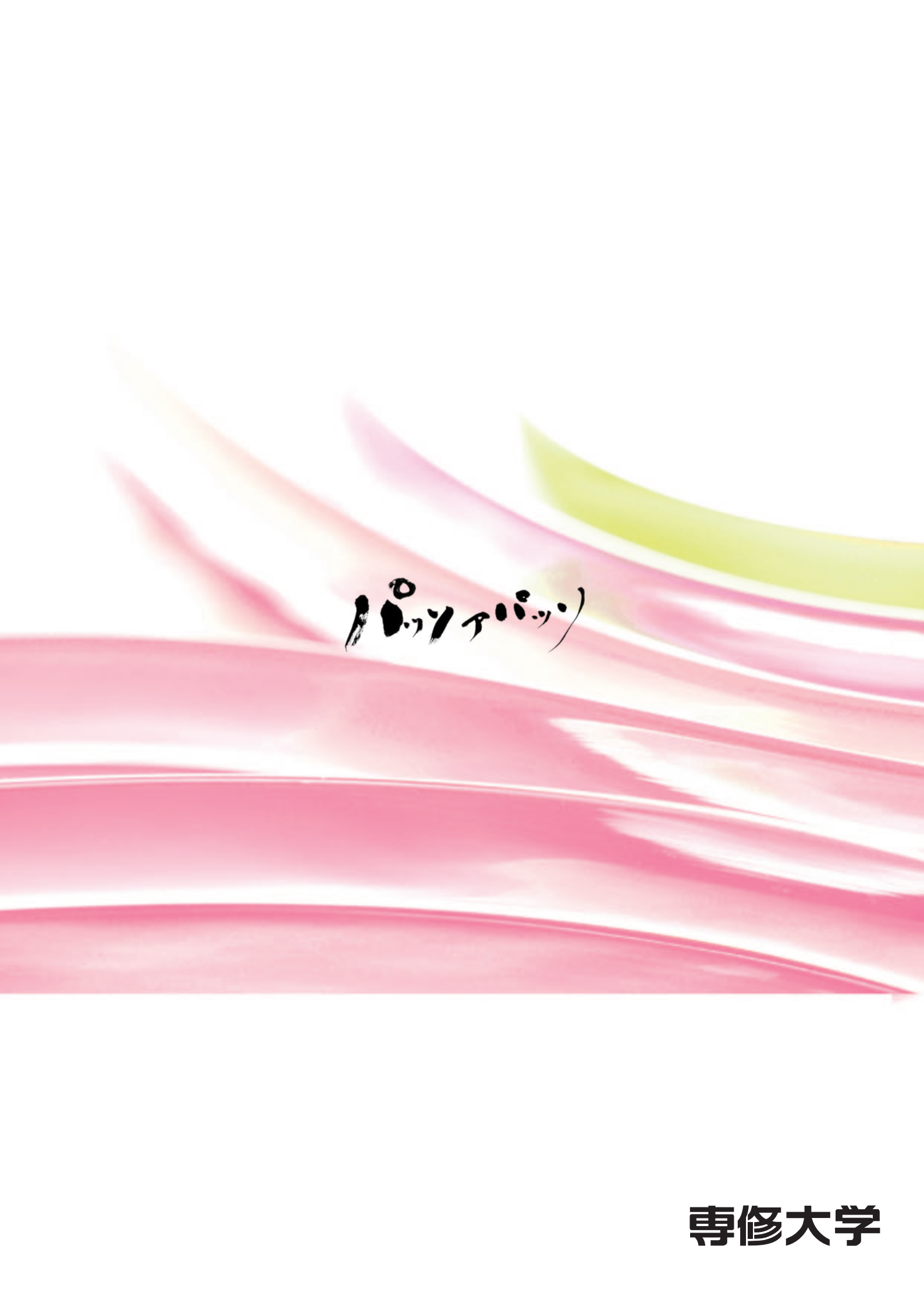
TEL 03-3265-5843・8359 FAX 03-3265-7084

URL <https://www.senshu-u.ac.jp/education/shikaku/>

印刷 有限会社米田印刷

〒140-0002 東京都品川区東品川1-21-4

TEL 03-3474-9791



ハッピー

専修大学